



Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS トラブルシューティング ガイド、リリース 9.2(x)

初版：2019 年 1 月 1 日

最終更新：2024 年 3 月 4 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ www.cisco.com/jp/go/safety_warning/ ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS REFERENCED IN THIS DOCUMENTATION ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. EXCEPT AS MAY OTHERWISE BE AGREED BY CISCO IN WRITING, ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS DOCUMENTATION ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED.

The Cisco End User License Agreement and any supplemental license terms govern your use of any Cisco software, including this product documentation, and are located at: <http://www.cisco.com/go/softwareterms>. Cisco product warranty information is available at <http://www.cisco.com/go/warranty>. US Federal Communications Commission Notices are found here <http://www.cisco.com/c/en/us/products/us-fcc-notice.html>.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any products and features described herein as in development or available at a future date remain in varying stages of development and will be offered on a when-and-if-available basis. Any such product or feature roadmaps are subject to change at the sole discretion of Cisco and Cisco will have no liability for delay in the delivery or failure to deliver any products or feature roadmap items that may be set forth in this document.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For the purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on RFP documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com go trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2018-2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに :

はじめに xi

対象読者 xi

表記法 xi

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料 xii

マニュアルに関するフィードバック xii

通信、サービス、およびその他の情報 xiii

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報 1

新機能および変更された機能に関する情報 1

第 2 章

概要 3

ソフトウェア イメージ 3

サポートされるプラットフォーム 3

トラブルシューティング プロセスについて 3

ポートの確認 4

レイヤ 2 接続の確認 5

レイヤ 3 接続の確認 5

Symptoms 6

システムメッセージ 6

Syslog サーバの実装 7

ログによるトラブルシューティング 8

モジュールのトラブルシューティング 9

NVRAM ログの表示 9

カスタマー サポートへの問い合わせ 10

第 3 章	インストール、アップグレード、リブートのトラブルシューティング	11
	アップグレードとリブートについて	11
	アップグレードとリブートのチェックリスト	11
	ソフトウェア アップグレードの確認	12
	中断を伴わないアップグレードの確認	12
	ソフトウェアのアップグレードとダウングレードのトラブルシューティング	14
	ソフトウェア アップグレードがエラーで終了する	14
	Cisco NX-OS ソフトウェアのアップグレード	15
	ソフトウェア システムのリブートのトラブルシューティング	16
	電源投入またはスイッチのリブートがハングする	16
	破損したブートフラッシュの回復	16
	ローダーからの回復 > プロンプト	18
	システムまたはプロセスの再起動	21
	システムの再起動の回復	21
	回復不能なシステムの再起動	26
	スタンバイ スーパーバイザが起動に失敗する	27
	管理者パスワードの回復	28
	ネットワーク管理者権限でのCLIの使用による管理者パスワードの回復	28
	管理者パスワードを回復するためのデバイスの電源再投入	29
	管理者パスワードを回復するためのデバイスのリロード	34
	管理者パスワードの変更	36
	管理者パスワードの変更に関するガイドラインと制限事項	36
	管理者ユーザのみへの変更管理者パスワードの付与	36

第 4 章	ライセンスの問題のトラブルシューティング	39
	ライセンスの問題のトラブルシューティングに関する情報	39
	ライセンスの注意事項および制約事項	39
	ライセンスのトラブルシューティングの初期チェックリスト	40
	CLI を使用したライセンス情報の表示	41
	ライセンスのインストールの問題	42

シリアル番号の問題	42
システム間の RMA シャーシエラーまたはライセンス転送	42
欠落しているとリストされたライセンス	43

第 5 章

ポートのトラブルシューティング	45
ポートのトラブルシューティングについて	45
ポートのトラブルシューティングの注意事項と制約事項	45
ポートのトラブルシューティングの初期チェックリスト	46
ポート情報の表示	46
CLI からのポート統計情報のトラブルシューティング	47
ポート インターフェイスの問題のトラブルシューティング	48
インターフェイス設定が消えました	48
インターフェイスを有効にできない	48
専用ポートを設定できない	49
ポートがリンク障害または接続されていない状態のままになっている	50
予期しないリンク フラッピングが発生する	51
ポートが ErrDisable 状態にある	52
CLI を使用した ErrDisable 状態の確認	53

第 6 章

vPC のトラブルシューティング	55
vPC のトラブルシューティングに関する詳細	55
vPC の初期トラブルシューティングのチェックリスト	55
CLI を使用した vPC の確認	56
受信したタイプ 1 設定要素の不一致	58
vPC 機能を有効にできない	58
ブロッキング状態の vPC	59
中断状態に移行した vPC 上の VLAN	59
HSRP ゲートウェイを持つホストが VLAN を超えてアクセスできない	59

第 7 章

VLAN のトラブルシューティング	61
VXLAN の問題のトラブルシューティング	61

マルチキャスト カプセル化パスでドロップされたパケット	62
マルチキャスト カプセル化解除パスでドロップされたパケット	63
ユニキャスト カプセル化パスでドロップされたパケット	65
単一のネクスト ホップで VTEP に到達している場合にドロップユニキャスト パケット	65
VTEP が ECMP パスを介して到達可能な場合にドロップされるユニキャスト パケット	67
ユニキャスト カプセル化解除パスでドロップされたパケット	69
Broadcom シェル テーブルについて	71
MPLS エントリ テーブル	71
MAC アドレス ラーニング	72
入力 DVP テーブル	72
入力レイヤ 3 ネクスト ホップ	73
VLAN 変換テーブル	73
EGR ポートから NHI へのマッピング	74
VLAN フラッド インデックス テーブル	74
GPORTと前面パネルのポート番号マッピングの取得	75
入力ポートのためにどのインターフェイス トラフィックが使用されるかを特定する	76
VLAN のフラッド リストの検索	76
カプセル化ポートがフラッド リストの一部であるかどうかの判別	76
<hr/>	
第 8 章	STP のトラブルシューティング 77
	STP のトラブルシューティング 77
	STP の初期トラブルシューティングのチェックリスト 77
	STP データ ループのトラブルシューティング 78
	過剰なパケット フラディングのトラブルシューティング 81
	コンバージェンス時間の問題のトラブルシューティング 82
	フォワーディング ループに対するネットワークの保護 83
<hr/>	
第 9 章	ルーティングのトラブルシューティング 87
	ルーティングの問題のトラブルシューティングについて 87
	トラブルシューティング ルートの初期チェックリスト 87

ルーティングのトラブルシューティング	88
ポリシーベース ルーティングのトラブルシューティング	91

第 10 章	メモリのトラブルシューティング	93
	メモリのトラブルシューティングに関する詳細情報	93
	プラットフォーム メモリ使用率の一般/高レベルの評価	94
	ユーザ プロセス	95
	大量のメモリを使用しているプロセスの特定	95
	組み込みプラットフォームのメモリモニタリング	95
	メモリしきい値	96

第 11 章	パケット フローの問題のトラブルシューティング	97
	パケットフローの問題	97
	レート制限によってドロップされたパケット	97
	CoPP のためにドロップされたパケット	97

第 12 章	PowerOn 自動プロビジョニングのトラブルシューティング	99
	POAP が完了するはずの時間内にスイッチが起動しない	99
	POAP が失敗する	99

第 13 章	Python API のトラブルシューティング	103
	Python API エラーの受信	103

第 14 章	NX-API のトラブルシューティング	107
	NX-API のガイドライン	107
	NX-API が応答しない	107
	設定が失敗します	108
	Bash に対する許可が拒否される	108
	ブラウザ サンドボックスから出力を取得できない	108
	CLI コマンドエラーが表示される	109
	エラーメッセージが表示される	109

- 一時ファイルが消える 109
- コマンド出力のチャンクが配信されない 109

第 15 章

- サーバ障害のトラブルシューティング 111**
 - プロセスのメモリ割り当ての特定 111
 - プロセスの CPU 使用率の特定 112
 - モニタリング プロセスのコア ファイル 113
 - クラッシュ コア ファイルの処理 113
 - コアのクリア 114
 - コア ファイルの自動コピーのイネーブル化 114

第 16 章

- テクニカル サポートへ問い合わせる前の準備 115**
 - TAC に連絡する前に実行する手順 115
 - Cisco NX-OS から/へのファイルのコピー 117
 - コア ダンプの使用 118

第 17 章

- トラブルシューティングのツールと方法論 121**
 - コマンドライン インターフェイスのトラブルシューティング コマンド 121
 - 整合性チェッカー コマンド 122
 - 設定ファイル 123
 - CLI デバッグ 124
 - デバッグ フィルタ 124
 - Ping および Traceroute 125
 - ping の使用 125
 - トレースルートの使用 126
 - プロセスおよび CPU のモニタリング 127
 - show processes cpu コマンドの使用 128
 - show system resources コマンドの使用 129
 - オンボード障害ロギングの使用 130
 - 診断の使用 130
 - 組み込まれている Event Manager の使用 131

Ethalyzer の使用	131
SNMP および RMON のサポート	142
PCAP SNMP パーサーの使用	142
RADIUS を利用	144
syslog の使用	145
ログ レベル	145
Telnet または SSH へのロギングのイネーブル化	146
SPAN の使用	146
ブルー ビーコン機能の使用	147
watch コマンドの使用	147
トラブルシューティングのツールと方法論の追加参照	148



はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#) (xi ページ)
- [表記法](#) (xi ページ)
- [Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料](#) (xii ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (xii ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (xiii ページ)

対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus スイッチの設置、設定、および維持に携わるネットワーク管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
bold	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を指定する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角かっこで囲んで示しています。
[x y]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
[x {y z}]	角かっこまたは波かっこが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角かっこ内の波かっこと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体が使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しないでください。引用符を使用すると、その引用符も含めて string と見なされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、スクリーンフォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチの関連資料

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ全体のマニュアルセットは、次の URL にあります。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps13386/tsd_products_support_series_home.html

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) [英語] にアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、[Cisco Support](#) [英語] にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco Marketplace](#) にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

シスコバグ検索ツール

[Cisco バグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理する Cisco バグ追跡システムへのゲートウェイとして機能する、Web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

この章では、「Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS トラブルシューティング ガイドリリース 9.x」に記載されている新機能および変更された機能に関するリリース固有の情報について説明します。

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS トラブルシューティング ガイドリリース 9.x』に記載されている新機能および変更機能をまとめたものです。それぞれの説明が記載されている箇所も併記されています。

表 1: Cisco NX-OS リリース 9.x の新機能および変更された機能

特長	説明	変更が行われたリリース	参照先
Cisco NX-OS リリース 7.x からアップデートなし	最初の 9.x リリースです。	9.2(1)	該当なし。

•



第 2 章

概要

- [ソフトウェア イメージ \(3 ページ\)](#)
- [サポートされるプラットフォーム \(3 ページ\)](#)
- [トラブルシューティング プロセスについて \(3 ページ\)](#)
- [Symptoms \(6 ページ\)](#)
- [ログによるトラブルシューティング \(8 ページ\)](#)
- [モジュールのトラブルシューティング \(9 ページ\)](#)
- [NVRAM ログの表示 \(9 ページ\)](#)
- [カスタマー サポートへの問い合わせ \(10 ページ\)](#)

ソフトウェア イメージ

Cisco NX-OS ソフトウェアは、1 つの NXOS ソフトウェア イメージで構成されています。このイメージは、すべての Cisco Nexus 3400 シリーズ スイッチで実行されます。

サポートされるプラットフォーム

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(1)以降、「[Nexus スイッチプラットフォーム サポートマトリクス](#)」を使用して、選択した機能をサポートするさまざまな Cisco Nexus 9000 および 3000 スイッチのリリース元である Cisco NX-OS を知ることができます。

トラブルシューティング プロセスについて

ネットワークに関するトラブルシューティングの一般的な手順は、次のとおりです。

- すべてのデバイスで、Cisco NX-OS リリースの一貫性を保持します。
- Cisco NX-OS リリースの Cisco NX-OS リリース ノートを参照して、最新の機能、制限事項、および注意事項を確認します。
- システム メッセージ ロギングをイネーブルにします。

- 変更を実装したら、新しい設定変更のトラブルシューティングを実施します。
- 特定の現象に関する情報を収集します。
- デバイスとエンド デバイス間の物理接続を確認します。
- レイヤ 2 接続を確認します。
- エンドツーエンドの接続とルーティング設定を確認します。
- トラブルシューティングを行っても問題を解決できなかった場合は、Cisco TAC またはテクニカル サポート担当者にお問い合わせください。

ここでは、ネットワークにおける問題のトラブルシューティングで一般的に使用されるツールについて説明します。



(注) 問題領域を絞り込むためには、ネットワークの正確なトポロジを把握している必要もあります。この情報については、ネットワーク アーキテクトにお問い合わせください。デバイスの一般情報を収集するには、次のコマンドを使用します。

- **show module**
- **show version**
- **show running-config**
- **show logging log**
- **show interfaces brief**
- **show vlan**
- **show spanning-tree**
- **show {ip | ipv6} route**
- **show processes | include ER**
- **show accounting log**

ポートの確認

次の質問に答えて、ポートが正しく接続され、動作していることを確認します。

- 正しいメディア（銅線、光、ファイバタイプ）を使用していることを確認します。
- メディアが故障または破損していないことを確認します。
- モジュールのポート LED はグリーンですか。
- なゼインターフェイスは動作していないのでしょうか。

ポートのトラブルシューティングのヒントについては、「[ポートのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

レイヤ2接続の確認

レイヤ2接続を確認するには、次の質問に回答します。

- **show vlan all-ports** コマンドを使用し、必要なすべてのインターフェイスが同じ VLAN にあることを確認します。VLAN のステータスがアクティブになっている必要があります。
- **show port-channel compatibility-parameters** コマンドを使用し、コマンドを使用して、速度、デュプレックス、トランクの各モードについて、ポートチャンネル内のすべてのポートの設定が同じであることを確認します。
- **show running-config spanning-tree** コマンドを使用し、コマンドを使用して、スパンニングツリープロトコル (STP) がネットワーク内のすべてのデバイスで同じように設定されていることを確認します。
- **show processes | include ER** を使用します。必須ではないレイヤ2プロセスがエラー状態であることを確認します。
- **show mac address-table dynamic vlan** コマンドを使用し、コマンドを使用して、学習またはエージングが各ノードで発生しているかどうかを判断します。

レイヤ3接続の確認

レイヤ3接続を確認するには、次の点をチェックします。

- デフォルトゲートウェイを設定したか。
- ルーティングドメイン全体で同じダイナミックルーティングプロトコルパラメータを設定したか、またはスタティックルートを設定したか。
- IP アクセスリスト、フィルタ、ルートマップによって、ルートアップデートがブロックされていないことを確認します。

ルーティング設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

- **show ip arp**
- **show {ip | ipv6}**
- **show ipv6 neighbor**

Symptoms

このドキュメントでは、ネットワークで観察された症状と各章に記載されている症状を比較することで、Cisco NX-OS の問題を診断して解決できる症状ベースのトラブルシューティングアプローチを使用します。

資料の症状を自分のネットワークで観察した症状と比較することにより、最小限のネットワークの中断で問題を解決するには、ソフトウェアの設定の問題や操作不可能なハードウェアコンポーネントを診断して修正できることが重要です。次に、問題と対処方法を示します。

- 主要な Cisco NX-OS トラブルシューティング ツールを特定します。
- CLI で SPAN または Ethalyzer を使用し、プロトコル トレースを取得して分析します。
- 物理ポートの問題を識別または除外します。
- スイッチ モジュールの問題を識別または除外します。
- レイヤ 2 の問題を診断および修正します。
- レイヤ 3 の問題を診断および修正します。
- スイッチをアップグレードの障害から復旧します。
- Cisco TAC またはカスタマー サポート担当者が使用するコア ダンプおよびその他の診断データを取得します。

システムメッセージ

システム メッセージは、システム ソフトウェアからコンソール（および任意で別のシステムのロギングサーバ）に送信されます。すべてのメッセージがデバイスの問題を示しているわけではありません。一部のメッセージは単に情報を示すだけですが、リンク、内蔵ハードウェア、またはデバイス ソフトウェアに関する問題の診断に役立つメッセージもあります。

システム メッセージテキストは、状況を説明する文字列です。メッセージのこの部分には、イベントについての詳細な情報が含まれている場合があります。含まれる情報は、端末ポート番号、ネットワーク アドレス、またはシステム メモリのアドレス空間内の位置に対応するアドレスです。この可変フィールドの情報はメッセージごとに異なるので、ここでは角カッコ ([]) で囲んだ短い文字列で示します。たとえば 10 進数は [dec] などで表します。

PORT-3-IF_UNSUPPORTED_TRANSCEIVER : インターフェイス [chars] のトランシーバはサポートされていません。

各システム メッセージのあとには、説明と推奨処置が記載されています。アクションは「アクションは必要ありません (No action is required)」のような簡単なものであることもあります。次の例のように、修正方法に関するものやテクニカルサポートへの連絡を推奨するものもあります。

Error Message PORT-3-IF_UNSUPPORTED_TRANSCEIVER : インターフェイス [chars] のトランシーバはサポートされていません。

Explanation トランシーバ (SFP) が認定ベンダーのものではありません。

Recommended Action を入力します。 **show interface transceiver** 使用されているトランシーバを判別する CLI コマンドまたは同様の DCNM コマンド。認定トランシーバベンダーのリストについては、カスタマー サポート担当者にお問い合わせください。

Syslog サーバの実装

Syslog ファシリティを使用して、デバイスからメッセージ ログのコピーをホストに送信すると、ログ用により多くの永続的ストレージを確保できます。この機能は、長期間にわたってログを調べたり、デバイスにアクセスできない場合に使用できます。

次に、Solaris プラットフォーム上で Syslog ファシリティを使用するようにデバイスを設定する例を示します。ここでは Solaris ホストを使用しますが、すべての UNIX および Linux システムにおける Syslog の設定は非常によく似ています。

Syslog では、ファシリティを使用して、Syslog サーバ上でのメッセージの処理方法とメッセージの重大度が決定されます。Syslog サーバでは、異なるメッセージの重大度を異なる方法で処理できます。たとえば、メッセージを別々のファイルに記録することや、特定のユーザに電子メールで送信することもできます。syslog サーバでの重大度レベルを指定すると、syslog サーバで設定できるため、そのレベル以上の重大度 (より低い数値) のすべてのメッセージに対して処置が行われます。



(注) syslog サーバを設定する必要があります。Cisco NX-OS メッセージは、他社の Syslog メッセージと競合しないように、標準 Syslog ファイルとは別のファイルに記録される必要があります。/file システムでログ ファイルを見つけないでください。ログ メッセージで/ファイル システムがいっぱいになるのは望ましくありません。この例では、次の値を使用します。

- syslog client: switch1
- syslog server: 172.22.36.211
- (Solaris) syslog facility: local1
- syslog severity: notifications (level 5, the default)
- Cisco NX-OS メッセージを記録するログ ファイル : /var/adm/nxos_logs

Cisco NX-OS で syslog 機能を設定するには、これらの手順に従います。

1. switch# **config terminal**
2. switch(config)# **logging server 192.0.2.1 6 facility local1**

show logging server コマンドを使用し、コマンドを使用して、syslog 設定を確認します。

```
switch1# show logging server
Logging server:          enabled
{172.22.36.211}
  server severity:      notifications
  server facility:      local1
  server VRF:           management
```

Syslog サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. local1 のメッセージを処理するように、/etc/syslog.conf を変更します。Solaris の場合は、facility.severity と処置 (/var/adm/nxos_logs) の間に少なくとも 1 つのタブが必要です。

```
local1.notice /var/adm/nxos_logs
```

2. ログ ファイルを作成します。

```
touch /var/adm/nxos_logs
```

3. syslog プロセスを再起動します。

```
/etc/init.d/syslog stop
/etc/init.d/syslog start
```

```
syslog service starting.
```

4. syslog プロセスが開始されたことを確認します。

```
ps -ef |grep syslogd
```

Cisco NX-OS でイベントを作成して、Syslog サーバをテストします。この場合、ポート e1/2 はシャットダウンおよび再度有効化され、Syslog サーバ上で次のように表示されます。デバイスの IP アドレスは角カッコで囲まれています。

```
tail -f /var/adm/MDS_logs
Sep 17 11:07:41 [172.22.36.142.2.2] : 2013 Sep 17 11:17:29 pacific:
PORT-5-IF_DOWN_INITIALIZING: %$VLAN 1%$ Interface e 1/2 is down (Initializing)

Sep 17 11:07:49 [172.22.36.142.2.2] : 2013 Sep 17 11:17:36 pacific: %PORT-5-IF_UP: %$VLAN
1%$ Interface e 1/2 is up in mode access

Sep 17 11:07:51 [172.22.36.142.2.2] : 2013 Sep 17 11:17:39 pacific:
%VSHD-5-VSHD_SYSLOG_CONFIG_I: Configuring console from pts/0 (dhcp-171-71-49-125.cisco.com
```

ログによるトラブルシューティング

Cisco NX-OS では、デバイス上でさまざまなタイプのシステム メッセージを生成して、Syslog サーバに送信します。これらのメッセージを確認することにより、現在発生している問題の原因となった可能性のあるイベントを判別できます。

Cisco NX-OS のログにアクセスして表示するには、次のコマンドを使用します。

```
switch# show logging ?
console      Show console logging configuration
info         Show logging configuration
```

```

ip          IP configuration
last       Show last few lines of logfile
level     Show facility logging configuration
logfile    Show contents of logfile
loopback   Show logging loopback configuration
module     Show module logging configuration
monitor    Show monitor logging configuration
nvram      Show NVRAM log
onboard    show logging onboard
server     Show server logging configuration
source-interface Show logging source-interface configuration
timestamp  Show logging timestamp configuration

```

次は、**show logging server** の出力例を示しています。 コマンドに対して表示されます。

```

switch# show logging server
Logging server:          enabled
{172.28.254.254}
  server severity:      notifications
  server facility:      local7
  server VRF:           management

```

モジュールのトラブルシューティング

ユーザはモジュールのコンソールポートに直接接続して、モジュールの起動時の問題をトラブルシューティングすることができます。 **attach console module** コマンドを使用し、して、モジュールのコンソールポートに接続します。

ブートフラッシュのスペースの問題が原因で、Cisco Nexus End-of-Rack (EoR) スイッチが起動に失敗することがあります。このような場合は、コンソールの **bash** シェルから空き領域を確認し、不要なファイルを削除して、ブートフラッシュに十分な空きディスク領域を確保します。これにより、EoR スイッチのスムーズな起動が保証されます。

NVRAM ログの表示

プライオリティ0、1、または2のシステムメッセージは、スーパーバイザモジュールのNVRAMに記録されます。スイッチの再起動後、**show logging nvram** を使用して、NVRAMにこれらの **syslog** メッセージを表示できます。 コマンドに対して表示されます。

```

switch# show logging nvram
2013 Sep 10 15:51:58 switch %$ VDC-1 %$ %SYSMGR-2-NON_VOLATILE_DB_FULL: System n
on-volatile storage usage is unexpectedly high at 99%.
2013 Sep 10 15:52:13 switch %$ VDC-1 %$ %PLATFORM-2-PFM_SYSTEM_RESET: Manual sys
tem restart from Command Line Interface
2013 Sep 10 15:57:49 switch %$ VDC-1 %$ %KERN-2-SYSTEM_MSG: Starting kernel... -
kernel
2013 Sep 10 15:58:00 switch %$ VDC-1 %$ %CARDCLIENT-2-REG: Sent
2013 Sep 10 15:58:01 switch %$ VDC-1 %$ %USER-1-SYSTEM_MSG: R2D2: P1 SUP NO GMTL
FOR P1 SUP - r2d2
2013 Sep 10 15:58:01 switch %$ VDC-1 %$ %USER-1-SYSTEM_MSG: R2D2: P1 SUP NO GMTL
FOR P1 SUP - r2d2
2013 Sep 10 15:58:05 switch %$ VDC-1 %$ %USER-1-SYSTEM_MSG: R2D2: P1 SUP: Reset
Tx/Rx during QOS INIT - r2d2

```

```
2013 Sep 10 15:58:16 switch %$ VDC-1 %$ %USER-2-SYSTEM_MSG: can't dlsym ssnmgr_i
s_session_command: please link this binary with ssnmgr.so! - svi
2013 Sep 10 15:58:16 switch %$ VDC-1 %$ %CARDCLIENT-2-SSE: LC_READY sent
2013 Sep 10 15:58:17 switch %$ VDC-1 %$ snmpd: load_mib_module :Error, while loa
ding the mib module /isan/lib/libpmsnmp_common.so (/isan/lib/libpmsnmp_common.so
: undefined symbol: sme_mib_get_if_info)
2013 Sep 10 15:58:17 switch %$ VDC-1 %$ %CARDCLIENT-2-SSE: MOD:6 SUP ONLINE
```

カスタマーサポートへの問い合わせ

このマニュアルのトラブルシューティング情報を使用しても問題を解決できない場合には、カスタマーサービス担当者に連絡して、支援および詳細な指示を受けてください。担当者ができる限りすばやいサポートを行えるように、連絡する前に次の情報を用意してください。

- 装置の納品日
- シャーシのシリアル番号（シャーシの背面パネルの右側にあるラベルに記載されています）
- ソフトウェアの種類とリリース番号
- メンテナンス契約書または保証情報
- 問題の概要
- 問題を切り分けし解決するために、すでに実行している手順の要約

テクニカルサポートへ問い合わせる前に実施する手順の詳細については、[TACに連絡する前に実行する手順（115 ページ）](#)を参照してください。



第 3 章

インストール、アップグレード、リブートの トラブルシューティング

- アップグレードとリブートについて (11 ページ)
- アップグレードとリブートのチェックリスト (11 ページ)
- ソフトウェア アップグレードの確認 (12 ページ)
- 中断を伴わないアップグレードの確認 (12 ページ)
- ソフトウェアのアップグレードとダウングレードのトラブルシューティング (14 ページ)
- ソフトウェア システムのリブートのトラブルシューティング (16 ページ)
- 管理者パスワードの変更 (36 ページ)

アップグレードとリブートについて

アップグレードとリブートは、継続的なネットワーク メンテナンス アクティビティです。実稼働環境でこれらの操作を実行するときは、ネットワークを中断するリスクを最小限に抑え、何か問題が発生したときに迅速に回復する方法を理解する必要があります。



(注) このマニュアルでは、Cisco NX-OS のアップグレードとダウングレードの両方を指すアップグレードという用語を使用します。

アップグレードとリブートのチェックリスト

次のチェックリストを使用して、アップグレードまたはリブートの準備をします。

チェックリスト	Done
アップグレードまたはダウングレードするリリースのリリース ノートを参照してください。	

チェックリスト	Done
FTP または TFTP サーバがソフトウェア イメージをダウンロードできることを確認します。	
bootflash: または slot0: のスーパーバイザ モジュールに新しいイメージをコピーします。	
show install all impact コマンドを使用して、新しいイメージが正常であること、および新しいロードが互換性に関してハードウェアに与える影響を確認します。互換性を確認します。	
startup-config ファイルを NVRAM のスナップショット コンフィギュレーションにコピーします。この手順では、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのバックアップ コピーを作成します。	
Running Configuration を Startup Configuration に保存します。	
設定のコピーをリモート TFTP サーバにバックアップします。	
ネットワークの適切なメンテナンス期間中にアップグレードをスケジュールします。	

チェックリストを完了すると、ネットワーク内のシステムをアップグレードまたはリブートする準備が整います。



(注) アップグレード中にアクティブ スーパーバイザがスタンバイ スーパーバイザになるのは正常な動作です。



(注) 重大度が Critical 以下 (レベル 0、1、2) の最大 100 個のログメッセージが NVRAM に保存されます。このログは、**show logging nvram** コマンドを入力することでいつでも表示できます。

ソフトウェアアップグレードの確認

show install all status コマンドを使用すれば コマンドを使用してソフトウェアアップグレードの進行状況を確認したり、進行中の **install all** コマンドまたは最後にインストールされた **install all** コマンド (コンソール、SSH、または Telnet セッションから) のログを表示したりします。このコマンドは、コンソール端末に接続していない場合でも、アクティブスーパーバイザ モジュールとスタンバイ スーパーバイザ モジュールの両方の **install all** 出力を表示します。

中断を伴わないアップグレードの確認

中断のないアップグレードが開始されると、Cisco NX-OS によりアップグレードが開始されることがすべてのサービスに通知され、アップグレードを進められるかどうか判断されます。

サービスがアップグレードを続行できない場合、サービスはアップグレードを中止し、アップグレードを続行できない理由を特定する **show install all failure-reason** コマンドを入力するように求められます。

```
Do you want to continue with the installation (y/n)? [n] y
Install is in progress, please wait.
Notifying services about the upgrade.
>[#          ] 0% -- FAIL. Return code 0x401E0066 (request timed out).
Please issue "show install all failure-reason" to find the cause of the failure.<---prompt
failure-reason
Install has failed. Return code 0x401E0066 (request timed out).
Please identify the cause of the failure, and try 'install all' again.

switch# show install all failure-reason
Service: "xxx" failed to respond within the given time period.
```

アップグレードの後で何らかの理由（ランタイム状態の保存の失敗、モジュールのアップグレードの失敗など）で障害が生じた場合、変更をロールバックできないため、デバイスが中断を伴って再起動されます。このような場合、アップグレードは失敗しました。

アップグレードが失敗した理由を特定するためにさらに支援が必要な場合は、テクニカルサポート担当者に連絡する前に、**show tech-support [issu]** コマンドの出力とインストールのコンソール出力（使用可能な場合）から詳細を収集する必要があります。

ソフトウェアのアップグレードとダウングレードのトラブルシューティング

ソフトウェア アップグレードがエラーで終了する

問題	考えられる原因	ソリューション
アップグレードがエラーで終了する	スタンバイ状態のスーパーバイザ モジュールの bootflash: ファイル システムに、更新されたイメージを入れるだけのスペースがない。	delete コマンドを使用し、して、不要なファイルを削除します。
	この項で説明している install all コマンドが、スタンバイ状態のスーパーバイザ モジュールで入力された。	コマンドは、アクティブ状態のスーパーバイザ モジュールでのみ入力してください。
	アップグレードの進行中にモジュールが挿入された。	インストールを再開します。
	アップグレードの進行中にシステムの電源が切断された。	インストールを再開します。
	誤ったソフトウェアイメージパスが指定された。	リモート ロケーションへのパス全体を正確に指定します。
	別のアップグレードがすでに進行中。	すべての段階でシステムの状態を確認し、10 秒後にアップグレードを再開します。10 秒以内にアップグレードを再開すると、コマンドは拒否されます。アップグレードが現在進行中であることを示すエラー メッセージが表示されません。
	モジュールのアップグレードに失敗した。	アップグレードを再起動するか、 install module コマンドを使用して、失敗したモジュールをアップグレードします。

Cisco NX-OS ソフトウェアのアップグレード

どのシステムでも、CLI で自動ソフトウェア アップグレードを実行できます。

イメージのファイル名は「nxos」（Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I2(1)以降）または「n9000」で始まります（たとえば、nxos.7.0.3.I2.1.bin、n9000-dk9.7.0.3.I1.1.bin など）。

始める前に

アクティブスーパーバイザのコンソール、Telnet、または SSH ポートを介してスイッチにログインします。

必要に応じて、既存のコンフィギュレーション ファイルのバックアップを作成します。

手順の概要

1. **install all [nxos bootflash:filename]**
2. **show module**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	install all [nxos bootflash:filename]	<p>アップグレードを実行します。</p> <p>(注) install all コマンドの使用時に設定がすべてのガイドラインを満たしている場合は、すべてのモジュール（スーパーバイザおよびスイッチング）がアップグレードされます。</p> <p>(注) ファイル名を指定しないで install all コマンドを入力した場合は、コマンドにより互換性チェックが実行され、アップグレードされるモジュールが通知されません。さらに、インストールを続行するかどうかの確認が求められます。続行を選択すると、スイッチで現在実行されている NXOS ソフトウェア イメージがインストールされ、必要に応じて、実行中のイメージのさまざまなモジュールの BIOS がアップグレードされます。</p>
ステップ 2	show module	システムコンソールを終了し、新しいターミナルセッションを開いて、アップグレードされたスーパーバイザ モジュールを表示します。

ソフトウェアシステムのリブートのトラブルシューティング

電源投入またはスイッチのリブートがハングする

問題	考えられる原因	ソリューション
デュアルスーパーバイザ構成で電源投入またはスイッチのリブートがハングする	ブートフラッシュが破損しています。	破損したブートフラッシュの回復 (16 ページ) を参照してください。
	BIOS が破損しています。	このモジュールを交換してください。障害のあるモジュールを返品するために、シスコのカスタマーサポート担当者に連絡してください。
	nx-os イメージが破損しています。	必要に応じてスイッチの電源を再投入し、スイッチに「Loading Boot Loader」メッセージが表示されたら Ctrl-C を押して、>ローダプロンプトでブートプロセスを中断します。
	ブートパラメータが正しくありません。	ブートパラメータを確認して修正し、リブートします。

破損したブートフラッシュの回復

すべてのデバイス設定は、内部ブートフラッシュにあります。内部ファイルシステムが壊れると、設定が失われるおそれがあります。設定ファイルは定期的に保存し、バックアップしてください。通常のシステムブートは、次の順序で実行されます。

1. 基本入出力システム (BIOS) がローダをロードします。
2. ローダは nx-os イメージを RAM にロードし、イメージを起動します。
3. nx-os イメージは、スタートアップ設定ファイルを読み取ります。

システムの nx-os イメージが破損しており、続行できない (エラー状態) 場合は、次の項で説明する BIOS 設定ユーティリティを入力して、システムブートシーケンスを中断し、イメージを復旧できます。破損した内部ディスクを復旧する必要がある場合にのみ、このユーティリティにアクセスしてください。



注意 この項で説明する BIOS の変更は、破損したブートフラッシュを復旧する場合にのみ必要なものです。

復旧手順では、通常のシーケンスを中断する必要があります。内部シーケンスは、システムの電源をオンにしてから、システムプロンプトが端末に表示されるまでの3つのフェーズ（BIOS、ブートローダ、および nx-os イメージ）を通過します。次の表に、リカバリ中断プロセスの手順を示します。

表 2: リカバリの中断

フェーズ	通常のプロンプト (各フェーズの終了時に表示されます)	リカバリ プロンプト (システムが次のフェーズに進まない場合に表示されます)	説明
BIOS	loader>	ブート可能なデバイスがありません	BIOS は、電源投入時自己診断テスト、メモリ テスト、およびその他のオペレーティングシステムアプリケーションを開始します。テストの進行中に、 Ctrl-C を押して BIOS 設定ユーティリティを起動し、 netboot オプションを使用します。
ブートローダ	nx-os の開始	loader>	ブートローダは、ロードされたソフトウェアを展開し、そのファイル名を参照として使用してイメージをブートします。イメージはブートフラッシュを介して使用可能になります。メモリテストが終了したら、 Esc を押してブートローダプロンプトを開始します。

フェーズ	通常のプロンプト (各フェーズの終了時に表示されます)	リカバリ プロンプト (システムが次のフェーズに進まない場合に表示されます)	説明
nx-os イメージ	システムの圧縮解除	switch(boot)#	ブートローダフェーズが終了したら、 Ctrl-] (Ctrl キーと右ブラケットキー) を押して、switch (boot) # プロンプトを入力します。Telnet クライアントによっては、これらのキーが予約されている場合があります、キーストロークの再マッピングが必要となることがあります。Telnet クライアントが提供するマニュアルを参照してください。破損によってコンソールがこのプロンプトで停止した場合は、nx-os イメージをコピーしてシステムをリブートします。 nx-os イメージは、最後に保存された実行設定の設定ファイルをロードし、スイッチのログインプロンプトを返します。

ローダーからの回復 > プロンプト

help コマンドを使用し、コマンドを使用して、ローダー > プロンプトでこのプロンプトで使用可能なコマンドのリストを表示するか、そのリスト内の特定のコマンドに関する詳細情報を取得します。

始める前に

この手順では、**init system** コマンドを使用して、デバイスのファイルシステムを再フォーマットします。この手順を開始する前に、コンフィギュレーションファイルのバックアップを作成してください。

ローダー > プロンプトは、通常の switch # または switch(boot)# プロンプトとは異なります。CLI コマンド補完機能は loader > プロンプトでは機能せず、望ましくないエラーが発生する可能性があります。コマンドを表示するには、コマンドを正確に入力する必要があります。

ローダー > プロンプトから TFTP 経由でブートする場合は、リモートサーバ上のイメージへのフルパスを指定する必要があります。

手順の概要

1. loader> **set ip ip-address**
2. loader> **set gw gw-address**

3. ローダー **cmdline recoverymode=1**
4. loader> **boot tftp: tftp-path**
5. switch(boot)# **init system**
6. switch(boot)# **reload-nxos**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	loader> set ip ip-address 例： loader> set ip 172.21.55.213 255.255.255.224	システムのローカル IP アドレスおよびサブネットマスクを指定します。
ステップ 2	loader> set gw gw-address 例： loader> set gw 172.21.55.193	デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。
ステップ 3	ローダー cmdline recoverymode=1 例： loader> cmdline recoverymode=1	switch(boot)# プロンプトで、ブートプロセスが停止するように設定します。
ステップ 4	loader> boot tftp: tftp-path 例： loader> boot tftp://172.28.255.18/tftpboot/n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin	必要なサーバから nx-os i イメージファイルを起動します。 switch(boot)# プロンプトは、使用可能な nx-os イメージがあることを示します。
ステップ 5	switch(boot)# init system 例： switch(boot)# init system	nx-os システムを開始します。 注意 このコマンドを入力する前に、コンフィギュレーション ファイルのバックアップが作成されていることを確認してください。
ステップ 6	switch(boot)# reload-nxos 例： switch(boot)# reload-nxos	nx-os イメージファイルのアップロードを完了します。

例

システムのローカル IP アドレスとサブネット マスクを設定する例を示します。

```
loader> set ip 172.21.55.213 255.255.255.224
set ip 172.21.55.213 255.255.255.224
Correct - ip addr is 172.21.55.213, mask is 255.255.255.224
Found Intel 82546GB [2:9.0] at 0xe040, ROM address 0xf980
Probing...[Intel 82546GB]
```

```

Management interface
Link UP in 1000/full mode
Ethernet addr: 00:1B:54:C1:28:60
Address: 172.21.55.213
Netmask: 255.255.255.224
Server: 0.0.0.0
Gateway: 172.21.55.193

```

次に、デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定する例を示します。

```

loader> set gw 172.21.55.193
Correct gateway addr 172.21.55.193
Address: 172.21.55.213
Netmask: 255.255.255.224
Server: 0.0.0.0
Gateway: 172.21.55.193

```

次に、サーバから **nx-os** イメージを起動する例を示します。

```

loader> boot tftp://172.28.255.18/tftpboot/n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin
Address: 172.21.55.213
Netmask: 255.255.255.224
Server: 172.28.255.18
Gateway: 172.21.55.193
  Filesystem type is tftp, using whole disk
Booting: /tftpboot/n9000-dk9.6.1.2.I1.1.gbin console=ttyS0,9600n8nn quiet loader
_ver="3.17.0"....
.....Im
age verification OK

Starting kernel...
INIT: version 2.85 booting
Checking all filesystems..r.r.r.. done.
Setting kernel variables: sysctlnet.ipv4.ip_forward = 0
net.ipv4.ip_default_ttl = 64
net.ipv4.ip_no_pmtu_disc = 1
.
Setting the System Clock using the Hardware Clock as reference...System Clock set. Local
time: Wed Oct  1
11:20:11 PST 2013
WARNING: image sync is going to be disabled after a loader netboot
Loading system software
No system image Unexporting directories for NFS kernel daemon...done.
INIT: Sending processes the KILL signal
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2013, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch(boot)#

```

システムまたはプロセスの再起動

回復可能または回復不可能なエラーが発生すると、システムまたはシステム上のプロセスがリセットされることがあります。次の表に、考えられる原因と解決策を示します。

問題	考えられる原因	ソリューション
システムまたはシステム上のプロセスがリセットされた。	システムまたはシステムのプロセスで回復可能なエラーが発生しました。	システムは自動的に問題から回復しました。 システムの再起動の回復 (21 ページ) を参照してください。
	システムで回復不能なエラーが発生した。	システムは問題から自動的に回復できません。原因を特定するには、 システムの再起動の回復 (21 ページ) を参照してください。
	クロックモジュールに障害が発生した。	クロックモジュールに障害が発生していることを確認します。障害が発生したクロックモジュールを次のメンテナンス時間帯に交換します。

システムの再起動の回復

プロセスを再起動するたびに、`syslog` メッセージと `Call Home` イベントが生成されます。イベントがサービスに影響を与えない場合でも、今後発生することでサービスの中断が発生する可能性があるため、すぐに状態を特定して解決する必要があります。



- (注) 手順を実行した後、テクニカルサポート担当者に連絡し、コアダンプの確認を依頼することで、再起動状態の原因と解決策を特定します。

始める前に

次の条件が適用されます。

- システムは、4分ごとにコアファイルを TFTP サーバに自動的にコピーします。この間隔は設定できません。
- TFTP サーバへの特定のコアファイルのコピーは、`copy core://module#/pid# tftp://tftp_ip_address/file_name` を使用して手動でトリガできます。コマンドを使用する必要があります。
- スーパーバイザフェールオーバーが発生した場合、コアはプライマリログフラッシュではなくセカンダリログフラッシュにある可能性があります。
- プロセスを再起動できる最大回数は、すべてのプロセスの高可用性 (HA) ポリシーの一部です。(このパラメータは設定できません。) プロセスが最大回数を超過して再起動すると、古いコアファイルが上書きされます。

- 任意のプロセスで保存できるコアファイルの最大数は、任意のプロセスのHAポリシーの一部です。（このパラメータは設定できず、3に設定されます）。

手順の概要

1. switch# **show log | include error**
2. switch# **show processes**
3. switch# **show process log**
4. switch# **show process log pid pid**
5. switch# **show system uptime**
6. switch# **show cores**
7. switch# **copy core: core path**
8. switch# **show processes log pid pid**
9. switch# **system cores tftp: tftp-path**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>switch# show log include error</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show log logfile include error Sep 10 23:31:31 dot-6 % LOG_SYSMGR-3-SERVICE_TERMINATED: Service "sensor" (PID 704) has finished with error code SYSMGR_EXITCODE_SY. switch# show logging logfile include fail Jan 27 04:08:42 88 %LOG_DAEMON-3-SYSTEM_MSG: bind() fd 4, family 2, port 123, ad dr 0.0.0.0, in_classd=0 flags=1 fails: Address already in use Jan 27 04:08:42 88 %LOG_DAEMON-3-SYSTEM_MSG: bind() fd 4, family 2, port 123, ad dr 127.0.0.1, in_classd=0 flags=0 fails: Address already in use Jan 27 04:08:42 88 %LOG_DAEMON-3-SYSTEM_MSG: bind() fd 4, family 2, port 123, ad dr 127.1.1.1, in_classd=0 flags=1 fails: Address already in use Jan 27 04:08:42 88 %LOG_DAEMON-3-SYSTEM_MSG: bind() fd 4, family 2, port 123, ad dr 172.22.93.88, in_classd=0 flags=1 fails: Address already in use Jan 27 23:18:59 88 % LOG_PORT-5-IF_DOWN: Interface fc1/13 is down (Link failure or not-connected) Jan 27 23:18:59 88 % LOG_PORT-5-IF_DOWN: Interface fc1/14 is down (Link failure or not-connected) Jan 28 00:55:12 88 % LOG_PORT-5-IF_DOWN: Interface fc1/1 is down (Link failure or not-connected) Jan 28 00:58:06 88 % LOG_ZONE-2-ZS_MERGE_FAILED: Zone merge failure, Isolating port fc1/1 (VSAN 100) Jan 28 00:58:44 88 % LOG_ZONE-2-ZS_MERGE_FAILED:</pre>	<p>syslog ファイルを表示して、再起動したプロセスと再起動した理由を確認できるようにします。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Zone merge failure, Isolating port fc1/1 (VSAN 100) Jan 28 03:26:38 88 % LOG_ZONE-2-ZS_MERGE_FAILED: Zone merge failure, Isolating port fc1/1 (VSAN 100) Jan 29 19:01:34 88 % LOG_PORT-5-IF_DOWN: Interface fc1/1 is down (Link failure or not-connected) switch#</pre>	
<p>ステップ 2</p>	<p>switch# show processes</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show processes PID State PC Start_cnt TTY Process ----- ----- ----- 1 S 2ab8e33e 1 - init 2 S 0 1 - keventd 3 S 0 1 - ksoftirqd_CPU0 4 S 0 1 - kswapd 5 S 0 1 - bdflush 6 S 0 1 - kupdated 71 S 0 1 - kjournald 136 S 0 1 - kjournald 140 S 0 1 - kjournald 431 S 2abe333e 1 - httpd 443 S 2abfd33e 1 - xinetd 446 S 2ac1e33e 1 - sysmgr 452 S 2abe91a2 1 - httpd 453 S 2abe91a2 1 - httpd 456 S 2ac73419 1 S0 vsh 469 S 2abe91a2 1 - httpd 470 S 2abe91a2 1 - httpd</pre>	<p>実行中のプロセスと各プロセスのステータスを表示します。</p> <p>次のコードは、状態（プロセス状態）のシステム出力で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • D = 中断なしで休止（通常 I/O） • R = 実行可能（実行キュー上） • S = 休止中 • T = トレースまたは停止 • Z = defunct（「ゾンビ」）プロセス • NR = 実行されていない • ER = 実行されているべきだが、現在は実行されていない <p>(注) ERは通常、何度も再起動され、システムによって障害が検出されて無効にされた場合に、プロセスが開始する状態です。</p>
<p>ステップ 3</p>	<p>switch# show process log</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show process log Process PID Normal-exit Stack-trace Core Log-create-time ----- ntp 919 N N N Jan 27 04:08 snsm 972 N Y N Jan 24 20:50</pre>	<p>異常終了したプロセスと、スタックトレースまたはコア ダンプがあるかどうかを表示します。</p>
<p>ステップ 4</p>	<p>switch# show process log pid pid</p> <p>例 :</p>	<p>再起動している特定のプロセスの詳細情報を表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# show processes log pid 898 Service: idehsd Description: ide hotswap handler Daemon Started at Mon Sep 16 14:56:04 2013 (390923 us) Stopped at Thu Sep 19 14:18:42 2013 (639239 us) Uptime: 2 days 23 hours 22 minutes 22 seconds Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATELESS (23) Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_SIGTERM (3) Exit code: signal 15 (no core) CWD: /var/sysmgr/work Virtual Memory: CODE 08048000 - 0804D660 DATA 0804E660 - 0804E824 BRK 0804E9A0 - 08050000 STACK 7FFFFFFD10 Register Set: EBX 00000003 ECX 0804E994 EDX 00000008 ESI 00000005 EDI 7FFFFFFC9C EBP 7FFFFFFCAC EAX 00000008 XDS 0000002B XES 0000002B EAX 00000003 (orig) EIP 2ABF5EF4 XCS 00000023 EFL 00000246 ESP 7FFFFFFC5C XSS 0000002B Stack: 128 bytes. ESP 7FFFFFFC5C, TOP 7FFFFFFD10 0x7FFFFFFC5C: 0804F990 0804C416 00000003 0804E994 0x7FFFFFFC6C: 00000008 0804BF95 2AC451E0 2AAC24A4Q.*.\$.* 0x7FFFFFFC7C: 7FFFFFFD14 2AC2C581 0804E6BC 7FFFFFFCA8*..... 0x7FFFFFFC8C: 7FFFFFFC94 00000003 00000001 00000003 0x7FFFFFFC9C: 00000001 00000000 00000068 00000000h..... 0x7FFFFFFCAC: 7FFFFFFCE8 2AB4F819 00000001 7FFFFFFD14*..... 0x7FFFFFFCBC: 7FFFFFFD1C 0804C470 00000000 7FFFFFFCE8P..... 0x7FFFFFFCCC: 2AB4F7E9 2AAC1F00 00000001 08048A2C ...*...*..... PID: 898 SAP: 0 UUID: 0 switch#</pre>	
ステップ 5	<pre>switch# show system uptime</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# show system uptime Start Time: Fri Sep 13 12:38:39 2013 Up Time: 0 days, 1 hours, 16 minutes, 22 seconds</pre>	<p>再起動が最近発生したかどうかを表示します。</p> <p>再起動が繰り返し発生するのか、1回だけ発生するのかを判断するには、システムが稼働している時間の長さを各再起動のタイムスタンプと比較します。</p>
ステップ 6	<pre>switch# show cores</pre> <p>例 :</p>	<p>アクティブスーパーバイザから現在アップロードに使用可能なすべてのコアを表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# show cores Module Instance Process-name PID Date (Year-Month-Day Time) ----- ----- 28 1 bgp-64551 5179 2013-09-13 23:51:26</pre>	
ステップ 7	<pre>switch# copy core: core path 例 : switch# copy core://5/1524 tftp://1.1.1.1/abcd</pre>	FSPF コア ダンプを IP アドレスを使用して TFTP サーバにコピーします。
ステップ 8	<pre>switch# show processes log pid pid 例 : switch# '''show processes log pid 1473''' ----- Service: ips Description: IPS Manager Started at Tue Jan 8 17:07:42 2013 (757583 us) Stopped at Thu Jan 10 06:16:45 2013 (83451 us) Uptime: 1 days 13 hours 9 minutes 9 seconds Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATELESS (23) Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_SIGNAL (2) Exit code: signal 6 (core dumped) CWD: /var/sysmgr/work Virtual Memory: CODE 08048000 - 080FB060 DATA 080FC060 - 080FCBA8 BRK 081795C0 - 081EC000 STACK 7FFFFFF0 TOTAL 20952 KB Register Set: EBX 000005C1 ECX 00000006 EDX 2AD721E0 ESI 2AD701A8 EDI 08109308 EBP 7FFFFFF2EC EAX 00000000 XDS 0000002B XES 0000002B EAX 00000025 (orig) EIP 2AC8CC71 XCS 00000023 EFL 00000207 ESP 7FFFFFF2C0 XSS 0000002B</pre>	ログ ディレクトリに zone_server_log.889 という名前のファイルを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Stack: 2608 bytes. ESP 7FFFF2C0, TOP 7FFFFCF0 0x7FFFF2C0: 2AC8C944 000005C1 00000006 2AC735E2 D..*.....5.* 0x7FFFF2D0: 2AC8C92C 2AD721E0 2AAB76F0 00000000 ,..*!.*.v.*.... 0x7FFFF2E0: 7FFFF320 2AC8C920 2AC513F8 7FFFF42C . . . * . . . * , . . . 0x7FFFF2F0: 2AC8E0BB 00000006 7FFFF320 00000000 . . . * 0x7FFFF300: 2AC8DF8 2AD721E0 08109308 2AC65AFC . . . * ! . * Z . * 0x7FFFF310: 00000393 2AC6A49C 2AC621CC 2AC513F8 * ! . * * 0x7FFFF320: 00000020 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF330: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF340: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF350: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF360: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF370: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF380: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF390: 00000000 00000000 00000000 00000000 0x7FFFF3A0: 00000002 7FFFF3F4 2AAB752D 2AC5154C output abbreviated ... Stack: 128 bytes. ESP 7FFFF830, TOP 7FFFFCD0</pre>	
ステップ 9	<pre>switch# system cores tftp: <i>tftp-path</i> 例 : switch(config)# system cores tftp://10.1.1.1/cores</pre>	<p>TFTP サーバを使用してコア ダンプを TFTP サーバに送信するように設定します。</p> <p>このコマンドにより、システムは TFTP サーバへのコア ファイルの自動コピーを有効にします。</p>

回復不能なシステムの再起動

以下の場合には、回復不能なシステム再起動が発生する可能性があります。

- 重要なプロセスが失敗し、再起動できない。
- プロセスがシステム設定で許可されている回数を超えて再起動した。
- プロセスは、システム設定で許可されているよりも頻繁に再起動した。

プロセスリセットの影響は、プロセスごとに設定されたポリシーによって決まります。回復不能なリセットにより、機能が失われたり、アクティブなスーパーバイザが再起動したり、スーパーバイザがスイッチオーバーしたり、システムが再起動したりすることがあります。

この項で説明している **show system reset-reason** コマンドにより、以下の情報が表示されます。

- 特定のスロット、特定のモジュールでの、最後の4つのリセット理由。モジュールが存在しない場合には、そのモジュールのリセット理由コードは表示されません。
- 予期されたリロードおよび予期しないリロードが発生したタイミングと理由の全体での履歴。
- リセットまたはリロードが発生したときのタイム スタンプ。
- モジュールのリセットまたはリロードの理由。
- リセットまたはリロードの原因となったサービス（常に使用できるわけではない）。
- リセットまたはリロード時に実行されていたソフトウェアのバージョン。

```
switch# show system reset-reason module 27
----- reset reason for Supervisor-module 27 (from Supervisor in slot 27) ---
1) At 281000 usecs after Wed Jun 26 20:16:34 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   Service:
   Version: 6.1(2)I1(1)
2) At 791071 usecs after Wed Jun 26 20:04:50 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   Service:
   Version: 6.1(2)I1(1)
3) At 70980 usecs after Wed Jun 26 19:55:52 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   Service:
   Version: 6.1(2)I1(1)
4) At 891463 usecs after Wed Jun 26 23:44:48 2013
   Reason: Reset Requested by CLI command reload
   Service:
   Version: 6.1(2)I1(1)
```

スタンバイ スーパーバイザが起動に失敗する

スタンバイ スーパーバイザは、アップグレード後に起動しません。次のシステム メッセージが表示されることがあります。

```
SYSMGR-2-STANDBY_BOOT_FAILED
```

このメッセージは、ローダが BIOS によってロードされた後 3～6 分でスタンバイ スーパーバイザがブート手順を完了できない（ローカル コンソールのログインプロンプトに到達できない）場合に出力されます。このメッセージは、通常、スタンバイ スーパーバイザに適切に設定されていないブート変数によって発生します。このメッセージは、ローダプロンプトでユーザが意図的に（Esc キーを押して）起動手順を中止した場合も発生する可能性があります。

スタンバイ スーパーバイザのローカル コンソールに接続します。スーパーバイザがローダプロンプトにいる場合は、**boot** コマンドを使用して、ブート手順を続行します。それ以外の場合は、**reload** コマンドをアクティブ スーパーバイザの VSH セッションからスタンバイ スーパーバイザに対して入力します。その際に **force-dnld** オプションを指定します。スタンバイがオンラインになったら、ブート変数を適切に設定して問題を解決します。

症状	考えられる原因	ソリューション
スタンバイスーパーバイザが起動しません。	TFTPからブートされたアクティブスーパーバイザ nx-os イメージ。	bootflash: からアクティブスーパーバイザをリロードします。

管理者パスワードの回復

次のいずれかの方法で、ネットワーク管理者パスワードを回復できます。

- network admin 権限を持つユーザ名で CLI から回復する
- デバイスの電源を再投入する
- デバイスをリロードする

ネットワーク管理者権限でのCLIの使用による管理者パスワードの回復

手順の概要

1. switch# **show user-account**
2. switch# **config terminal**
3. switch(config)# **username admin password new-password**
4. switch(config)# **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show user-account 例： switch# show user-account user:admin this user account has no expiry date roles:network-admin user:dbgusr this user account has no expiry date roles:network-admin network-operator	ユーザ名に network admin 権限があるかどうかを確認します。
ステップ 2	switch# config terminal 例： switch# config terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# username admin password new-password 例：	ユーザ名に network admin 権限がある場合は、新しいネットワーク管理者パスワードを割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>switch(config)# username admin password egBdf</code>	(注) <code>new-password</code> では、\$文字は使用できません。
ステップ 4	switch(config)# copy running-config startup-config 例： <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

管理者パスワードを回復するためのデバイスの電源再投入

network-admin 権限のあるデバイス上でセッションを開始できない場合は、デバイスの電源を再投入してネットワーク管理者パスワードを回復することができます。



注意 パスワード回復手順を実行すると、デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。デバイスとの接続はすべて 2～3 分間切断されます。



(注) 管理インターフェイスとの Telnet またはセキュア シェル (SSH) セッションから管理者パスワードを回復することはできません。ローカルコンソール接続を使用する必要があります。



(注) パスワードの回復によって更新されるのは、ローカルユーザデータベース内の新しい管理者パスワードのみです。リモート AAA サーバのパスワードは更新されません。新しいパスワードは、ローカル認証がイネーブルの場合にのみ有効になり、リモート認証の場合は有効になりません。パスワードが回復すると、コンソールからのログインに対するローカル認証がイネーブルになり、管理ユーザはコンソールから新しいパスワードでログインできるようになります。



(注) `copy configuration-file startup-config`の実行時にユーザ名がコンフィギュレーションファイルで指定されなかったためにパスワードを回復する必要がある場合 **fast-reload** または **reload** コマンドを実行し、ステップ 12 で **write erase** を実行する必要があります。

始める前に

2つのスーパーバイザモジュールを搭載したデバイスの場合は、回復手順の完了後にアクティブモジュールになるスーパーバイザモジュールでパスワード回復手順を実行する必要があります。

まず、他方のスーパーバイザモジュールがアクティブにならないようにするには、次の作業のいずれかを実行します。

- 他方のスーパーバイザモジュールをシャーシから取り外します。
- 回復手順が完了するまで、他方のスーパーバイザモジュールのコンソールプロンプトを次の2つのプロンプトのいずれかに変更します。
 - loader >
 - switch(boot)#

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アクティブなスーパーバイザモジュールのコンソールポートで端末セッションを確立します。	— (注) US キーマップ以外のキーマップを使用している場合は、ブレイクシーケンスの生成のために必要なキーシーケンスを押しても動作しない可能性があります。この場合、ご使用の端末をUSキーマップに設定することを推奨します。キーボードマッピングのため、 Ctrl-C を Ctrl-] の代わりに入力できます。
ステップ 2	SSH または端末エミュレータを使用してコンソールポートにアクセスする場合は、 ステップ 6 に進みます。	—
ステップ 3	Telnet を使用してコンソールポートにアクセスする場合、 Ctrl-] (右角カッコ) を押して、Telnet エスケープシーケンスと競合しないようにします。 例： switch login: Ctrl-]	— (注) Cisco NX-OS ログインプロンプトがそのままの状態、Telnet プロンプトが表示されない場合は、 手順 6 に進みます。
ステップ 4	Telnet プロンプトが表示される場合は、Telnet エスケープシーケンスをCtrl-] (右角カッコ) 以外の文字シーケンスに変更します。 例： telnet> set escape ^\ Escape Character is 'CTRL+\'	次に、Microsoft Telnet で Ctrl+\ をエスケープキーシーケンスとして設定する例を示します。 (注) Cisco NX-OS ログインプロンプトがそのままの状態、Telnet プロンプトが表示されない場合は、 手順 6 に進みます。
ステップ 5	Enter を 1 回または複数回押して Cisco NX-OS ログインプロンプトに戻ります。 例：	—

	コマンドまたはアクション	目的
	telnet> <Enter> switch login:	
ステップ 6	デバイスの電源を一度切ってから再投入します。	—
ステップ 7	Ctrl-C を押して、ローダー>プロンプトにアクセスします。 例： Ctrl-C loader>	—
ステップ 8	ローダー cmdline recoverymode=1 例： loader> cmdline recoverymode=1	リカバリ モードに切り替えます。
ステップ 9	ローダー> boot n9000-dk9.x.x.x.bin 例： loader> boot n9000-dk9.x.x.x.bin Booting iash Trying diskboot Filesystem type is ext2fs, partition type 0x83 Image valid MD5Sum mismatch INIT: Loading IGB driver ... Signature Envelope.(36)Invalid Tag in Signature Envelope Installing SSE module ... done Creating the sse device node ... done Installing CCTRL driver for card_type 3 ... Checking all filesystems..... Installing SPROM driver ... Installing default sprom values ... done.Configuring network ... Installing psdev ... Installing veobc ... Installing OBFL driver ... Starting portmap daemon... creating NFS state directory: done starting 8 nfsd kernel threads: done starting mountd: done starting statd: done Loading system software No system image is specified INIT: Sending processes the TERM signal INIT: Sending processes the KILL signal Bad terminal type: "linux". Will assume vt100. Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software TAC support: http://www.cisco.com/tac Copyright (c) 2002-2013, Cisco Systems, Inc. All rights reserved. The copyrights to certain works contained in this	スイッチブートプロンプトに到達するには、nx-os イメージだけでデバイスを再起動します。

	コマンドまたはアクション	目的
	software are owned by other third parties and used and distributed under license. Certain components of this software are licensed under the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each such license is available at http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php switch(boot)#	
ステップ 10	Enter を 1 回または複数回押して Cisco NX-OS ログインプロンプトに戻ります。 例： telnet> <Enter> switch login:	—
ステップ 11	switch(boot)# config terminal 例： switch(boot)# config terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(boot) (config)#	ブートコンフィギュレーションモードを開始します。 s
ステップ 12	switch(boot)(config)# admin-password new-password 例： switch(boot) (config)# admin-password egBdf WARNING! Remote Authentication for login through console has been disabled	ネットワーク管理者パスワードを再設定します。 (注) copyconfiguration-filestartup-config の実行時にユーザ名がコンフィギュレーションファイルで指定されなかったためにパスワードを回復する必要がある場合 fast-reload または reload コマンドを実行し、この手順はスキップし、 write erase コマンドを入力して、次の手順に進みます。 重要 スイッチで Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I2(2) が実行されている場合は、ステップ 12 ~ 14 をスキップして、 write erase を実行し、デバイスをリロードします。パスワード回復を試行する前に、設定がバックアップされていることを確認します。この回避策は、Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I2(2) にのみ関係します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 13	switch(boot)(config)# exit 例： switch(boot) (config) # exit switch(boot) #	ブート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 14	switch(boot)# load-nxos 例： switch(boot) # load-nxos	nx-os イメージをロードします。 load-nxos コマンドは、示されているとおりに入力する必要があります。このコマンドでは、イメージファイル名を入力しないでください。
ステップ 15	新しい管理者パスワードを使用してデバイスにログインします。 例： switch login: admin Password: egBdf	実行コンフィギュレーションにより、コンソールからのログインに対してローカル認証がイネーブルになっていることが示されます。新しいパスワードを今後のログインでも有効にするため、実行コンフィギュレーションは変更しないでください。AAA サーバ上で設定した管理者パスワードを再設定して記憶したら、リモート認証をイネーブルにできます。 switch# show running-config aaa !Command: show running-config aaa !Time: Fri Jun 7 02:39:23 2013 version 6.1(2)I1(1) logging level aaa 5 aaa authentication login ascii-authentication
ステップ 16	switch# config terminal 例： switch# config terminal switch(config) #	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 17	switch(config)# username admin password new-password 例： switch(config) # username admin password egBdf	新しいパスワードを再設定して、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) パスワードとしても使用できるようにします。
ステップ 18	switch(config)# exit 例： switch(config) # exit switch#	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 19	必要に応じて、前に取り外したスタンバイ スーパーバイザ モジュールをシャーシに取り付けます。	—

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 20	必要に応じて、スタンバイ スーパーバイザ モジュールで <code>nx-os</code> イメージを起動します。	—
ステップ 21	switch(config)# copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

管理者パスワードを回復するためのデバイスのリロード

デバイスの電源を再投入してネットワーク管理者パスワードを再設定できます。



注意 この手順を実行すると、デバイス上のすべてのトラフィックが中断されます。デバイスとの接続はすべて 2～3 分間切断されます。



(注) 管理インターフェイスとの Telnet またはセキュア シェル (SSH) セッションから管理者パスワードを回復することはできません。ローカルコンソール接続を使用できる必要があります。



(注) パスワードの回復によって更新されるのは、ローカル ユーザ データベース内の新しい管理者パスワードのみです。リモート AAA サーバのパスワードは更新されません。新しいパスワードは、ローカル認証がイネーブルの場合にのみ有効になり、リモート認証の場合は有効になりません。パスワードが回復すると、コンソールからのログインに対するローカル認証がイネーブルになり、管理ユーザはコンソールから新しいパスワードでログインできるようになります。

手順の概要

1. アクティブなスーパーバイザ モジュールのコンソール ポートで端末セッションを確立します。
2. `switch# reload`
3. ローダー> `boot n9000-dk9.x.x.x.bin`
4. [管理者パスワードを回復するためのデバイスの電源再投入 \(29 ページ\)](#) のステップ 6～20 を実行して、ネットワーク管理者パスワードを再設定します。

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アクティブなスーパーバイザモジュールのコンソールポートで端末セッションを確立します。	—
ステップ 2	<p>switch# reload</p> <p>例 :</p> <pre>switch# reload This command will reboot the system. (y/n)? [n] Y 2013 Jun 7 13:09:56 switch %\$ VDC-1 %\$ %PLATFORM-2-PFM_SYSTEM_RESET: Manual system restart from Command Line Interface writing reset reason 9, GNU GRUB version 0.97 Autobooting bootflash:/n9000-dk9.x.x.x.bin bootflash:/n... Filesystem type is ext2fs, partition type 0x83 Booting nx-os image: bootflash:/n9000-dk9.x.x.x.bin....(----> Press Ctrl + C)Aborting Image Boot GNU GRUB version 0.97 Loader Version 3.22.0 loader></pre>	<p>ローダプロンプトに到達するようにデバイスをリロードします。次のメッセージが表示されたら、Ctrl-C を押す必要があります。</p> <pre>Booting nx-os image: bootflash:/n9000-dk9.x.x.x.bin....</pre>
ステップ 3	<p>ローダー> boot n9000-dk9.x.x.x.bin</p> <p>例 :</p> <pre>loader> boot n9000-dk9.x.x.x.bin Filesystem type is ext2fs, partition type 0x83 Booting nx-os image: n9000-dk9.6.1.2.I1.1.gbin....Image verification OK Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each such license is available at http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php switch(boot) #</pre>	スイッチブートプロンプトに到達するには、nx-os イメージだけでデバイスを再起動します。
ステップ 4	管理者パスワードを回復するためのデバイスの電源再投入 (29 ページ) のステップ 6 ~ 20 を実行して、ネットワーク管理者パスワードを再設定します。	—

管理者パスワードの変更

ネットワーク管理者パスワードを変更するには、**admin** としてログインする必要があります。

管理者パスワードの変更に関するガイドラインと制限事項

管理者パスワードを変更するには、次の注意事項と制約事項に従ってください。

- CLIコマンド `no service password-recovery` を有効または無効にするには、管理者である必要があります。
- 管理者パスワードを変更するには、管理者としてログインする必要があります。
- 前回のブートで管理者が CLI を無効にした場合、ブートプロンプトから管理者パスワードを変更することはできません。



(注) 管理者としてログインしていない場合は、エラーが表示されます。

管理者ユーザのみへの変更管理者パスワードの付与

手順の概要

1. `switch# show user-account`
2. `switch# configure terminal`
3. `switch(config)# no service password-recovery`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show user-account 例 : <pre>switch# show user-account user:admin this user account has no expiry date roles:network-admin user:dbgusr this user account has no expiry date roles:network-admin network-operator</pre>	ユーザ名に <code>network admin</code> 権限があるかどうかを確認します。
ステップ 2	switch# configure terminal 例 :	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	
ステップ 3	<p>switch(config)# no service password-recovery</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# no service password-recovery WARNING: executing this command will disable the password recovery mechanism. Do not execute this command without another plan for password recovery. Are you sure you want to continue? (y/n) : [y] y</pre>	<p>パスワード回復を有効または無効にします。</p> <p>(注) 別のユーザが管理者パスワードを変更できるようにするには、ネットワーク管理者権限を持つ管理者としてログインしたときに service password-recovery を実行します。</p>



第 4 章

ライセンスの問題のトラブルシューティング

- [ライセンスの問題のトラブルシューティングに関する情報](#) (39 ページ)
- [ライセンスの注意事項および制約事項](#) (39 ページ)
- [ライセンスのトラブルシューティングの初期チェックリスト](#) (40 ページ)
- [CLI を使用したライセンス情報の表示](#) (41 ページ)
- [ライセンスのインストールの問題](#) (42 ページ)

ライセンスの問題のトラブルシューティングに関する情報

Cisco NX-OS では、一部の機能にライセンスが必要です。ライセンスは、システムでこれらの機能を有効にします。ライセンス機能を有効にするシステムごとにライセンスを購入する必要があります。

シャーシのシリアル番号

ライセンスは、ライセンスファイルがインストールされるシャーシのシリアル番号を使用して作成されます。シャーシのシリアル番号に基づいてライセンスを注文すると、このライセンスを他のシステムで使用することはできません。

シャーシの交換

ライセンスを含むシャーシを交換する場合は、TAC に連絡して新しいライセンスを生成する必要があります。古いライセンスはシャーシのシリアル番号に基づいており、新しいシャーシでは機能しません。

ライセンスの注意事項および制約事項

Cisco NX-OS のライセンスを扱う場合は、次のガイドラインに従ってください。

- ライセンスが必要な機能に基づいて、必要なライセンスを慎重に決定します。
- 次のように、ライセンスを正確に注文します。
 - システムに付属の購入証明書に記載されている製品認証キーを入力します。
 - ライセンスを注文する際は、正しいシャーシシリアル番号を入力してください。シリアル番号は、ライセンスをインストールするシャーシと同じである必要があります。**show license host-id** コマンドを使用し、コマンドを入力して、シャーシのシリアル番号を取得します。
 - シリアル番号を正確に入力します。シリアル番号には、ゼロの代わりに文字「0」を使用しないでください。
 - シャーシに固有のライセンスを注文します。
- ライセンス ファイルをリモートの安全な場所にバックアップします。ライセンス ファイルをアーカイブすると、システムで障害が発生した場合にライセンスが失われることがなくなります。
- システムのシリアル番号を使用して注文したライセンスを使用して、各システムに正しいライセンスをインストールします。ライセンスは、シリアル番号とプラットフォームに固有です。
- **show license usage** を使用 コマンドは、インストールの確認に使用されます。
- ライセンスファイルを変更したり、注文していないシステムで使用したりしないでください。シャーシを返却する場合は、カスタマーサポート担当者に連絡して、新しいシャーシの交換ライセンスを注文してください。

ライセンスのトラブルシューティングの初期チェックリスト

ライセンスの問題をトラブルシューティングする際は、まず次のことを確認します。

チェックリスト	Done
注文したすべてのライセンスのシャーシ シリアル番号を確認します。	
注文したすべてのライセンスのプラットフォームまたはモジュールタイプを確認します。	
ライセンスの注文に使用した製品認証キーが、シャーシのシリアル番号を取得したのと同じシャーシからのものであることを確認します。	
有効にする機能のライセンスを必要とするすべてのシステムに、すべてのライセンスがインストールされていることを確認します。	

CLI を使用したライセンス情報の表示

手順の概要

1. show license [host-id | usage [package]]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show license [host-id usage [package]] 例 : <pre>switch# show license usage LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG</pre>	このシステムに設定されているライセンス情報を表示します。ライセンスのホスト ID を表示するには、 host-id キーワードを使用します。すべてのライセンス済み機能のリストまたは指定したパッケージ内の機能のリストを表示するには、 usage キーワードを使用します。

例

次に、インストールされているすべてのライセンス キーファイルと内容を表示する例を示します。

```
switch# show license
entp.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
INCREMENT LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=<LIC_SOURCE>MDS_SWIFT</LIC_SOURCE><SKU>N95-LAN1K9=</SKU> \
  HOSTID=VDH=TBC10412106 \ >
  NOTICE="<LicFileID>20071025133322456</LicFileID>LicLineID>1/LicLineID>
\
```

この例では、現在のライセンスの使用状況に関する情報を表示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins   Lic  Status   Expiry Date  Comments          Count
-----
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG          No    -    In use
```

次に、指定したパッケージの機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG
Application
-----
bgp
pim
msdp
ospf
ospfv3
```

次に、ライセンスのホスト ID を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id
License hostid: VDH=FOX0646S017
```



(注) コロン (:) 記号の後に表示される ID 全体を使用します。VDH はベンダー ホスト ID です。

ライセンスのインストールの問題

シリアル番号の問題

ライセンスを注文する際は、正しいシャーシシリアル番号を使用するようにしてください。**show license host-id** コマンドを使用して、CLI を使用しているシステムの適切なシャーシシリアル番号を入手します。

別のシャーシ用のライセンスを使用すると、次のシステムメッセージが表示されることがあります。

Error Message: LICMGR-3-LOG_LIC_INVALID_HOSTID: Invalid license hostid VDH=[chars] for feature [chars].

Explanation: The feature has a license with an invalid license Host ID. This can happen if a supervisor module with licensed features for one system is installed on another system.

Recommended Action: Reinstall the correct license for the chassis where the supervisor module is installed.



(注) ライセンスの注文プロセスでシャーシのシリアル番号を入力する場合は、シリアル番号にゼロの代わりに文字「0」を使用しないでください。

システム間の RMA シャーシエラーまたはライセンス転送

ライセンスは発行されたシステムに対して固有であり、その他のシステムでは無効です。ライセンスをシステム間で移動する場合は、テクニカル サポートの担当者にお問い合わせください。

欠落しているとリストされたライセンス

ライセンスがインストールされ、正常に動作した後、システムハードウェアを変更したり、bootflash: の問題が発生したりすると、ライセンスがないとして表示されることがあります。

症状	考えられる原因	対処方法
ライセンスは欠落しているとリストされています。	スーパーバイザモジュールは、ライセンスのインストール後に交換されました。	破損した bootflash: から回復するには、 破損したブートフラッシュの回復 (16 ページ) を参照してください。ライセンスを再インストールします。
	スーパーバイザ bootflash: が破損しています。	

■ 欠落しているとリストされたライセンス



第 5 章

ポートのトラブルシューティング

- ポートのトラブルシューティングについて (45 ページ)
- ポートのトラブルシューティングの注意事項と制約事項 (45 ページ)
- ポートのトラブルシューティングの初期チェックリスト (46 ページ)
- ポート情報の表示 (46 ページ)
- CLI からのポート統計情報のトラブルシューティング (47 ページ)
- ポートインターフェイスの問題のトラブルシューティング (48 ページ)

ポートのトラブルシューティングについて

デバイスで1つのデータリンクから別のデータリンクへのフレームリレーを行うには、フレームが送受信されるインターフェイスの特性を定義する必要があります。設定されているインターフェイスは、イーサネットインターフェイス、VLAN インターフェイス (SVI)、または管理インターフェイス (mgmt0) です。

各インターフェイスには、次のように管理設定と動作ステータスが関連付けられています。

- 管理設定は、修正を加えない限り変更されません。この設定には、管理モードで設定できる各種の属性があります。
- 動作ステータスは、インターフェイス速度のような指定された属性の現在のステータスを表します。このステータスは変更できず、読み取り専用です。インターフェイスがダウンしているときは、一部の値 (動作速度など) が有効にならない場合があります。

ポートモード、管理状態、および動作状態の詳細については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS インターフェイス設定ガイド』を参照してください。

ポートのトラブルシューティングの注意事項と制約事項

ポートインターフェイスを設定する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- デバイスの設定を始める前に、シャーシのモジュールが設計どおりに機能していることを確認してください。 **show module** コマンドを使用し、して、設定を続行する前にモジュールが正常またはアクティブであることを確認します。
- ポート グループに専用ポートを設定する場合は、次のポート モードの注意事項に従ってください。
 - 専用モードでは、4 ポートグループごとに1つのポートのみを設定できます。他の3つのポートは使用できず、シャットダウンされたままになります。
 - 他の3つのポートのいずれかがイネーブルの場合、残りのポートを専用モードに設定することはできません。その他の3つのポートは、引き続きイネーブル状態になります。
- Cisco NX-OS のポート設定のライセンス要件はありません。

ポートのトラブルシューティングの初期チェックリスト

トラブルシューティングを始める際は、まず次のことを確認します。

チェックリスト	Done
物理メディアをチェックして、損傷した部分がないことを確認します。	
使用中のSFP (Small Form-Factor Pluggable) デバイスがシスコによって承認されたものであり、故障していないことを確認します。	
ポートが有効になっていることを、 no shutdown コマンドを使用する必要があります。	
show interface コマンドを使用し、して、インターフェイスの状態を確認します。ポートが動作的なダウン状態になる理由については、『 <i>Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide</i> 』を参照してください。	
ポートを専用として設定したこと、ポートグループ内の他の3つのポートに接続していないことを確認します。	

ポート情報の表示

show interface counters コマンドを使用すればポートカウンタを表示するためのコマンド通常は、アクティブなトラブルシューティング中にのみカウンタを確認します。この場合、まずカウンタをクリアしてベースラインを作成する必要があります。長期間にわたってアクティブになっていたポートの場合、カウンタに格納されている値は意味を持たないことがあります。カウンタをクリアすることにより、現時点での実際のリンクの動作をより正確に把握できます。

すべてのポートカウンタまたは指定したインターフェイスのカウンタをクリアするには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **clear counters interface all**
- **clear counters interface range**

カウンタを使用して受信フレーム数と送信フレーム数の有意差を表示することにより、同期の問題を識別できます。

ポートに関する詳細情報を収集するには、次のコマンドを使用します。

- **show interface status**
- **show interface capabilities**
- **show uddl**
- **show tech-support uddl**

CLIからのポート統計情報のトラブルシューティング

インターフェイスの完全な情報を表示するには、**show interface** コマンドを使用します。このコマンドは、ポートの状態に加えて、次の情報を表示します。

- Speed
- トランク VLAN のステータス
- 送受信されたフレームの数
- 伝送エラー（破棄、エラー、不正なフレームなど）

```
switch# show interface ethernet 2/45
Ethernet2/45 is down (Administratively down)
  Hardware is 10/100/1000 Ethernet, address is 0019.076c.4dd8 (bia 0019.076c.4dd8)
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA
  auto-duplex, auto-speed
  Beacon is turned off
  Auto-Negotiation is turned on
  Input flow-control is off, output flow-control is off
  Auto-mdix is turned on
  Last clearing of "show interface" counters never
  1 minute input rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  1 minute output rate 0 bytes/sec, 0 packets/sec
  L3 Switched:
    input: 0 pkts, 0 bytes - output: 0 pkts, 0 bytes
  Rx
    0 input packets 0 unicast packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets 0 storm suppression packets
    0 bytes
  Tx
    0 output packets 0 multicast packets
    0 broadcast packets 0 jumbo packets
    0 bytes
    0 input error 0 short frame 0 watchdog
    0 no buffer 0 runt 0 CRC 0 ecc
    0 overrun 0 underrun 0 ignored 0 bad etype drop
    0 bad proto drop 0 if down drop 0 input with dribble
```

```

0 output error 0 collision 0 deferred
0 late collision 0 lost carrier 0 no carrier
0 babble
0 Rx pause 0 Tx pause 0 reset
Receive data field Size is 2112

```

ポートインターフェイスの問題のトラブルシューティング

インターフェイス設定が消えました

インターフェイス設定が消える問題が発生している可能性があります。

Symptoms	考えられる原因	ソリューション
インターフェイス設定が消えました。	インターフェイスモードがスイッチポートモードに変更されました。	Cisco NX-OS は、レイヤ2ポートモードとレイヤ3ポートモードを切り替えるときにインターフェイス設定を削除します。インターフェイスを再設定する必要があります。

インターフェイスを有効にできない

インターフェイスを有効にするときに問題が発生する可能性があります。

問題	考えられる原因	ソリューション
インターフェイスを有効にできません。	インターフェイスは専用ポートグループの一部です。	1つのポートが専用ポートである場合、ポートグループ内の他の3つのポートを有効にすることはできません。 show running-config interface コマンドを使用し、CLI コマンドを使用して、レートモード設定を確認します。
	インターフェイス設定にリモートポートとの互換性がありません。	show interface capabilities コマンドを使用し、コマンドを使用して、両方のポートに同じ機能があるかどうかを確認します。必要に応じて設定を変更し、ポートの互換性を確保します。
	レイヤ 2 ポートがアクセス VLAN に関連付けられていない、または VLAN が一時停止状態にあります。	show interface brief コマンドを使用し、コマンドを使用して、VLAN 内でインターフェイスが設定されているかどうかを調べます。 show vlan brief コマンドを使用し、コマンドを使用して、VLAN のステータスを調べます。 state active コマンドを使用し、コマンドを VLAN コンフィギュレーションモードで使用して、VLAN の状態をアクティブに設定します。
	誤った SFP がポートに接続されています。	show interface brief コマンドを使用し、コマンドを使用して、誤ったトランシーバを使用しているかどうかを確認します。シスコがサポートする SFP と交換します。

専用ポートを設定できない

ポートを専用として設定しようとする、問題が発生する可能性があります。

ポートがリンク障害または接続されていない状態のままになっている

問題	考えられる原因	ソリューション
専用ポートを設定できません。	ポートグループ内の他の3つのポートはシャットダウンされません。	shutdown コマンドを使用し、コマンドをインターフェイス コンフィギュレーションモードで使用して、ポートグループ内の他の3つのポートを無効にします。
	ポートは、ポートグループの最初のポートではありません。	ポートグループの最初のポートのみを専用モードに設定できます。

ポートがリンク障害または接続されていない状態のままになっている

ポートまたはリンクが動作可能にならない問題が発生する可能性があります。

問題	考えられる原因	ソリューション
ポートが link-failure 状態のままになっている。	ポート接続が不良である。	使用中のメディアのタイプを確認します。光、シングルモード (SM)、またはマルチモード (MM) か shutdown コマンドを使用し、 command followed by the no shutdown コマンドを使用して、ポートを無効にしてから有効にします。これで問題が続く場合は、同じモジュールの別のポートまたは他のモジュールのポートに接続を移動してみます。
	Small Form-Factor Pluggable (SFP) の中継障害が原因で信号がないか、SFP に障害がある可能性があります。	この問題が発生すると、ポートはトランジットポート状態のままになり、信号は表示されません。MAC レベルで同期しない。この問題は、ポート速度の設定または自動ネゴシエーションに関連している可能性があります。インターフェイスに SFP が正しく取り付けられていることを確認します。SFP を取り付け直しても問題が解決しない場合は、SFP を交換するか、スイッチの別のポートを試してください。
	リンクが初期化状態で停止している。または、リンクがポイントツーポイント状態になっている。	show logging コマンドを使用し、して、「Link Failure, Not Connected」システムメッセージが出力されるかどうかを調べます。 shutdown コマンドを使用し、 command followed by the no shutdown コマンドを使用して、ポートを無効にしてから有効にします。これで問題が続く場合は、同じモジュールの別のポートまたは他のモジュールのポートに接続を移動してみます。

予期しないリンクフラッピングが発生する

ポートでフラッピングが発生すると、ポート状態が次の順序で変化し、一巡すると、最初の状態に戻って繰り返します。

1. **Initializing** : リンクを初期化しています。
2. **Offline** : ポートはオフライン状態です。

3. **Link failure or not connected** : 物理層リンクが動作不能で、アクティブなデバイス接続がありません。

予期しないリンクフラッピングのトラブルシューティング時には、次の情報を把握することが重要です。

- リンクフラッピングを発生させたユーザ
- 実際のリンクダウンの理由。

問題	考えられる原因	ソリューション
予期しないリンクフラッピングが発生します。	ビットレートがしきい値を超えたために、ポートが errDisable ステートになっています。	shutdown コマンドを使用し、 command followed by the no shutdown コマンドでポートが通常の状態に戻ります。
	<p>スイッチの問題により、エンドデバイスでリンクフラップ動作が発生しています。原因の一部は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア障害または断続的なハードウェアエラーにより、スイッチでパケットが廃棄されました。 • ソフトウェアエラーによってパケットが廃棄されました。 • 制御フレームが誤ってデバイスに送信された。 	MAC ドライバによって示されるリンクフラップの理由を判別します。エンドデバイス上のデバッグ機能を使用して、問題のトラブルシューティングを行います。外部デバイスでは、エラーが発生すると、リンクの再初期化が選択されることがあります。このような場合、リンクを再初期化する方法はデバイスによって異なります。

ポートが **ErrDisable** 状態にある

errDisabled 状態とは、スイッチがポートの問題を検出して、そのポートをディセーブルにしたことを示します。この状態は、ポートのフラッピングにより生じていて、メディアの問題を示している可能性があります。

問題	考えられる原因	ソリューション
ポートが ErrDisable 状態にある	ポートがフラッピングしています。	SFP、ケーブル、および接続を確認するには、 CLI を使用した ErrDisable 状態の確認 (53 ページ) を参照してください。

CLI を使用した ErrDisable 状態の確認

手順の概要

1. switch# **show interface interface slot/port**
2. switch# **show logging logfile**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show interface interface slot/port 例： switch# show interface ethernet 1/14 e1/7 is down (errDisabled)	デバイスが問題を検出し、ポートをディセーブルにしたことを確認します。 (注) ポートがディセーブルになっていることを確認したら、ケーブル、SFP、および光ファイバを確認します。
ステップ 2	switch# show logging logfile 例： switch# show logging logfile	スイッチのログファイルを表示し、ポート状態の変化のリストを確認します。

例

この例は、スイッチのログファイルを表示して、ポート状態変化のリストを確認する方法を示しています。誰かがポート e1/7 をポートチャネル 7 に追加しようとしたときに、エラーが記録されました。このポートがポートチャネル 7 とまったく同じように設定されていなかったため、試行が失敗しました。

```
switch# show logging logfile
. . .
Jan 4 06:54:04 switch %PORT_CHANNEL-5-CREATED: port-channel 7 created
Jan 4 06:54:24 switch %PORT-5-IF_DOWN_PORT_CHANNEL_MEMBERS_DOWN: Interface
port-channel 7 is down (No operational members)
Jan 4 06:54:40 switch %PORT_CHANNEL-5-PORT_ADDED: e1/8 added to port-channel 7
Jan 4 06:54:56 switch %PORT-5-IF_DOWN_ADMIN_DOWN: Interface e1/7 is down
(Administratively down)
Jan 4 06:54:59 switch %PORT_CHANNEL-3-COMPAT_CHECK_FAILURE:
speed is not compatible
Jan 4 06:55:56 switch%PORT_CHANNEL-5-PORT_ADDED: e1/7 added to port-channel 7
```




第 6 章

vPC のトラブルシューティング

- vPC のトラブルシューティングに関する詳細 (55 ページ)
- vPC の初期トラブルシューティングのチェックリスト (55 ページ)
- CLI を使用した vPC の確認 (56 ページ)
- 受信したタイプ 1 設定要素の不一致 (58 ページ)
- vPC 機能を有効にできない (58 ページ)
- ブロッキング状態の vPC (59 ページ)
- 中断状態に移行した vPC 上の VLAN (59 ページ)
- HSRP ゲートウェイを持つホストが VLAN を超えてアクセスできない (59 ページ)

vPC のトラブルシューティングに関する詳細

vPC は、2 つの異なるデバイスに物理的に接続されたリンクを、その他のデバイスから単一のポート チャネルとして見えるようにします。

vPC の初期トラブルシューティングのチェックリスト

vPC の問題をトラブルシューティングする際は、まず次のことを確認します。

チェックリスト	Done
vPC キープアライブリンクは別の VRF にマッピングされますか。そうでない場合は、デフォルトで管理 VRF にマッピングされます。この場合、両方の vPC ピア デバイスの管理ポートに管理スイッチが接続されていますか。	
ピア キープアライブ メッセージに使用される送信元 IP アドレスと宛先 IP アドレスがどちらもその vPC ピア キープアライブリンクに関連付けられている VRF から到達可能であることを確認してください。	
ピア キープアライブリンクがアップしていることを確認します。そうしないと、vPC ピアリンクが起動しません。	

チェックリスト	Done
vPC ピア リンクが、vPC VLAN のみを許可するレイヤ 2 ポート チャネル トランクとして設定されていることを確認します。	
vPC ピア デバイスからダウンストリーム デバイスに接続するためにポート チャネルに割り当てる vPC 番号は、両方の vPC ピア デバイスで同じである必要があります。	
システム優先順位を手動で設定する場合は、両方の vPC ピア デバイス上で同じプライオリティ値を割り当てていることを確認します。	
show vpc consistency-parameters が設定されており、コマンドで両方の vPC ピア デバイスに同じタイプ 1 パラメータがあることを確認します。	
プライマリ vPC がプライマリ STP ルートであり、セカンダリ vPC がセカンダリ STP ルートであることを確認します。	

CLI を使用した vPC の確認

CLI を使用して vPC を確認するには、次のいずれかのタスクを実行します。

コマンド	目的
show running-config vpc	vPC 設定の確認
show vpc	vPC のステータスを確認します。
show vpc peer-keepalive	vPC peer-keepalive リンクのステータスを表示します。
show vpc consistency-parameters	vPC ピアに同じタイプ 1 パラメータがあることを確認します。
show tech-support vpc	vPC のテクニカル サポートの詳細情報が表示されます。
show port-channel summary	ポート チャネルのメンバーが vPC にマッピングされていることを確認します。

コマンド	目的
show spanning-tree	<p>STP が有効な場合、次の STP パラメータが同一であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BPDU フィルタ • BPDU ガード • コスト • リンク タイプ • プライオリティ • VLAN (PVRST+)

次の例は、**show vpc** コマンドのサンプル出力を示しています。コマンドに対して表示されません。

Legend:

(*) - local vPC is down, forwarding via vPC peer-link

```

vPC domain id                : 1
Peer status                   : peer link is down

vPC keep-alive status        : Suspended (Destination IP not reachable)
Configuration consistency status : failed
Per-vlan consistency status   : success

Configuration inconsistency reason: Consistency Check Not Performed
Type-2 inconsistency reason    : Consistency Check Not Performed
vPC role                       : none established

Number of vPCs configured     : 2
Peer Gateway                   : Enabled
Dual-active excluded VLANs    : -
Graceful Consistency Check    : Disabled (due to peer configuration)
Auto-recovery status          : Disabled

vPC Peer-link status
-----
id   Port   Status Active vlans
--   ---   -
1    Po10   down   -

vPC status
-----
id   Port   Status Consistency Reason          Active vlans
--   ---   -
2    Po20   down   failed      Peer-link is down          -

50   Po50   down   failed      Peer-link is down          -

```

受信したタイプ1 設定要素の不一致

タイプ1の設定要素の不一致が原因でvPCリンクを起動できないという問題が発生する場合があります。

症状	考えられる原因	ソリューション
タイプ1の設定要素の不一致を受信しました。	vPCピアポートまたはメンバーシップポートの設定が同一ではありません。	show vpc consistency-parameters interface コマンドを使用し、コマンドを使用して、設定の不一致が発生する場所を特定します。

次に、ポートチャネルのvPC整合性パラメータを表示する例を示します。

```
switch# show vpc consistency-parameters interface po 10
Legend:
Type 1 : vPC will be suspended in case of mismatch
Name                               Type  Local Value          Peer Value
-----
STP Mode                           1      Rapid-PVST            Rapid-PVST
STP Disabled                        1      None                  None
STP MST Region Name                 1      ""                    ""
STP MST Region Revision             1      0                     0
STP MST Region Instance to VLAN   1
Mapping
STP Loopguard                      1      Disabled              Disabled
STP Bridge Assurance                1      Enabled               Enabled
STP Port Type                       1      Normal                Normal
STP MST Simulate PVST               1      Enabled               Enabled
Allowed VLANs                       -      1-10,15-20,30,37,99  1-10,15-20,30,37,99
```

vPC 機能を有効にできない

vPC機能を有効にすると、エラーが表示されることがあります。

症状	考えられる原因	ソリューション
vPC機能を有効にします。	ハードウェアがvPCと互換性がありません。	show module コマンドを使用し、コマンドを使用して、各イーサネットモジュールのハードウェアバージョンを確認します。

次に、モジュールハードウェアバージョンを表示する例を示します。

```
switch# show module
Mod Ports Module-Type                               Model          Status
-----
22   0   Fabric Module                               N9K-C9508-FM   ok
24   0   Fabric Module                               N9K-C9508-FM   ok
26   0   Fabric Module                               N9K-C9508-FM   ok
27   0   Supervisor Module                           N9K-SUP-A      active *
29   0   System Controller                            N9K-SC-A       active
```



```

30    0    System Controller                N9K-SC-A                standby

Mod Sw                Hw
-----
22  6.1(2) I1(1)      0.4040
24  6.1(2) I1(1)      0.4040
26  6.1(2) I1(1)      0.4040
27  6.1(2) I1(1)      0.4080
29  6.1(2) I1(1)      0.2170
30  6.1(2) I1(1)      0.2170

```

ブロッキング状態の vPC

Bridge Assurance (BA) が原因で、vPC がブロッキング状態になることがあります。

症状	考えられる原因	ソリューション
vPC がブロッキング状態。	BPDU は、ポートチャネルの単一リンクでのみ送信します。BA の拮抗が検出されると、vPC 全体がブロッキング状態になります。	vPC では BA を有効にしないでください。

中断状態に移行した vPC 上の VLAN

vPC 上の VLAN が中断状態になることがあります。

症状	考えられる原因	ソリューション
vPC 上の VLAN が中断状態に移行した。	vPC で許可されている VLAN が vPC ピアリンクで許可されていない。	vPC で許可されているすべての VLAN は、vPC ピアリンクでも許可される必要があります。また、vPC ピアリンク上では、vPC VLAN のみを許可することを推奨します。

HSRP ゲートウェイを持つホストが VLAN を超えてアクセスできない

VLAN 上の vPC ピアデバイスとその VLAN 上のホストの両方で HSRP が有効になっている場合、それらのデバイスは自身の VLAN の外部に到達できない可能性があります。

症状	考えられる原因	ソリューション
HSRP ゲートウェイを持つホストは、VLAN を超えてアクセスできません。	ホスト ゲートウェイの MAC アドレスが vPC ピアデバイスのいずれかの物理 MAC アドレスにマッピングされている場合、vPC のループ防止メカニズムが原因でパケットがドロップされることがあります。	ホスト ゲートウェイの MAC アドレスを、いずれかの vPC ピアデバイスの物理 MAC アドレスではなく、HSRP MAC アドレスにマッピングします。ピア ゲートウェイは、このシナリオの回避策になります。実装する前に、ピア ゲートウェイの詳細についてコンフィギュレーション ガイドを参照してください。



第 7 章

VLAN のトラブルシューティング

- VXLAN の問題のトラブルシューティング (61 ページ)
- Broadcom シェル テーブルについて (71 ページ)
- GPORT と前面パネルのポート番号マッピングの取得 (75 ページ)
- 入力ポートのためにどのインターフェイスがトラフィックが使用されるかを特定する (76 ページ)
- VLAN のフラッドリストの検索 (76 ページ)
- カプセル化ポートがフラッドリストの一部であるかどうかの判別 (76 ページ)

VXLAN の問題のトラブルシューティング

VXLAN データ パスには、次のパスが含まれます。

- マルチキャスト カプセル化パス：ネイティブ レイヤ 2 パケットは、ネットワーク（レイヤ 2 からレイヤ 3）方向へのアクセスで VXLAN にカプセル化されます。
- マルチキャスト カプセル化解除パス：ネイティブ レイヤ 2 パケットはネットワークの VXLAN でカプセル化解除され、（レイヤ 3 からレイヤ 2 へ）方向にアクセスします。
- ユニキャスト カプセル化パス：ネイティブ レイヤ 2 パケットは、ネットワーク（レイヤ 2 からレイヤ 3）方向へのアクセスで VXLAN にカプセル化されます。
- ユニキャスト カプセル化解除パス：ネイティブのレイヤ 2 パケットがネットワークの VXLAN でカプセル化解除され、（レイヤ 3 からレイヤ 2 へ）方向にアクセスします。

これらのデータパスを理解すると、VXLAN の問題のトラブルシューティングに役立ちます。



注意 VXLAN の問題をトラブルシューティングするには、Broadcom シェル コマンドを実行する必要があります。Broadcom シェル コマンドは、シスコのサポート担当者の直接監督下または要求された場合のみ注意して使用してください。



(注) Cisco Nexus 9300 シリーズ スイッチは、VXLAN をサポートしています。Cisco Nexus 9500 シリーズ スイッチはサポートしていません。

この例では、xe23 は VLAN 3 の一部である必要があります。

ステップ 4 mc show コマンドの出力を調べて、ローカル VLAN ポートとカプセル化ポートがカプセル化フラッドリストに含まれているかどうかを確認します。

a) カプセル化フラッドリストを取得します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg vfi 3
Private image version: R
VFI.ipipe0[3]:
<VP_1=0xc01,VP_0=0x1803,UUC_INDEX=0x1803,UMC_INDEX=0x1803,RSVD_VP_0=1,BC_INDEX=0x1803>
```

この例では、0x1803 がカプセル化フラッドリストです。

b) カプセル化フラッドリストを **mc show** コマンドに入力します。

例：

```
bcm-shell.0> mc show 0x1803
Group 0xc001803 (VXLAN)
  port hg7, encap id 400053
  port xe23, encap id 400057
```

この例では、hg7 はアップリンク トンネル ポートで、xe23 は VLAN のローカル ポートです。

アップリンクがポートチャンネルの場合、ポートチャンネルのすべてのメンバーが出力に表示されます。出力に重複エントリが含まれている場合、対応するパケット レプリケーションがあります。

ステップ 5 mc show コマンドの出力が正しくない場合は、Broadcom シェルモードを終了し、**showtech-support pixm**、**show tech-support pixm-all**、**show tech-support pixmc-all** コマンドを実行し、出力を表示します。

例：

```
bcm-shell.0> exit
switch# show tech-support pixm
switch# show tech-support pixm-all
switch# show tech-support pixmc-all
```

マルチキャスト カプセル化解除パスでドロップされたパケット

ネットワークがアクセスする方向にデバイスで ARP 要求またはマルチキャスト パケットがドロップされている場合は、次の手順に従います。

手順の概要

1. パケットがスーパーバイザに送信されたかどうか、およびリモート VXLAN トンネルエンドポイント (VTEP) の検出が行われたかどうかを確認します。
2. ハードウェアに `mpls_entry` が存在する場合は、`vlan_xlate` テーブルを確認します。

3. `vlan_xlate` テーブルにマルチキャスト DIP の正しいエントリがある場合は、VLAN フラッディングリストに正しいメンバー（カプセル化トンネルポートを除く VLAN のメンバー）が表示されているかどうかを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 パケットがスーパーバイザに送信されたかどうか、およびリモート VXLAN トンネルエンドポイント (VTEP) の検出が行われたかどうかを確認します。

- a) リモートピアがソフトウェアで学習されたかどうかを確認します。

例：

```
switch# show nve peers
Interface          Peer-IP            VNI      Up Time
-----
nve1                100.100.100.5     10000    00:02:23
```

- b) `mpls_entry` テーブルを確認して、リモートピアがハードウェアで学習されたかどうかを確認します。

例：

```
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> d chg mpls_entry | grep SVP
MPLS_ENTRY.ipipe0[12368]:
<VXLAN_SIP:SVP=0x1751,VXLAN_SIP:SIP=0x66666666,VXLAN_SIP:KEY=0x666666668,VXLAN_SIP:HASH_LSB=0x666
VXLAN_SIP:DATA=0
x1751,VALID=1,KEY_TYPE=8,>
```

- c) `mpls_entry` がなく、送信元仮想ポート (SVP) がない場合は、パケットがスーパーバイザに送信されているかどうかを確認し、IPFIB エラーがないかどうかを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> show c cpu0
bcm-shell.0> exit
switch# attach module 1
module-1# show system internal ipfib errors
```

ステップ 2 ハードウェアに `mpls_entry` が存在する場合は、`vlan_xlate` テーブルを確認します。

例：

```
module-1# exit
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0xe1000003
VLAN_XLATE.ipipe0[8464]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x7080000192,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=3,VXLAN_DIP:DIP=0xe1000003,
XLAN_DIP
:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

`vlan_xlate` テーブルには、パケットのマルチキャスト宛先 IP アドレス (DIP) のエントリが 1 つ必要です。この例では、マルチキャストパケットが 225.0.0.3 に送信される場合を示しています。

ステップ 3 `vlan_xlate` テーブルにマルチキャスト DIP の正しいエントリがある場合は、VLAN フラッディング リストに正しいメンバー（カプセル化トンネルポートを除く VLAN のメンバー）が表示されているかどうかを確認します。

- a) VLAN フラッディング リストを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg vfi 3
Private image version: R
VFI.ipipe0[3]:
<VP_1=0xc01,VP_0=0x1803,UUC_INDEX=0x1803,UMC_INDEX=0x1803,RSVD_VP_0=1,BC_INDEX=0x1803>
```

0x1803 のカプセル化フラッド リストの場合、対応するカプセル化解除フラッド リストは 0x1c03 になります。

- b) ローカル ポートがカプセル化解除フラッド リストに含まれているかどうかを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> mc show
Group 0xc001c03 (VXLAN)
    port xe23, encap id 400057
```

xe23 はカプセル化解除フラッド リストの一部である必要があります。

- c) ポートがフォワーディング ステートであり、VLAN の一部であることを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> stg show
bcm-shell.0> vlan show
```

ユニキャスト カプセル化パスでドロップされたパケット

単一のネクスト ホップで VTEP に到達している場合にドロップユニキャストパケット

アクセスからネットワーク方向のデバイスでユニキャストパケットがドロップされ、VTEP が ECMP パスを介して到達可能である場合は、次の手順に従います。

手順の概要

1. リモート ピアがハードウェアで検出されたかどうかを確認します。
2. ネクストホップへの送信元仮想ポート（SVP）のマッピングを取得します。
3. ネクストホップ インデックスからポート番号を取得します。
4. ポート番号からチップ上の物理ポートへのマッピングを取得します。
5. 出力ポートからネクストホップ インデックスへのマッピングを取得します。
6. トンネルパラメータをチェックして、EGR IP トンネルの SIP フィールドに正しいローカル VTEP IP アドレスが表示されていることを確認します。

単一のネクストホップでVTEPに到達している場合にドロップユニキャストパケット

7. トンネルDIPがプログラムされていることを確認します。

手順の詳細

ステップ1 リモートピアがハードウェアで検出されたかどうかを確認します。

例：

```
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> d chg mpls_entry | grep SVP
MPLS_ENTRY.ipipe0[12368]:
<VXLAN_SIP:SVP=0x1751,VXLAN_SIP:SIP=0x66666666,VXLAN_SIP:KEY=0x666666668,VXLAN_SIP:HASH_LSB=0x666
VXLAN_SIP:DATA=0
x1751,VALID=1,KEY_TYPE=8,>
```

有効な送信元IPアドレス（SIP）が存在することを確認します。

この例では、102.102.102.102がリモートVTEP IPアドレスです。

ステップ2 ネクストホップへの送信元仮想ポート（SVP）のマッピングを取得します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg ing_dvp_table 0x1751
Private image version: R
ING_DVP_TABLE.ipipe0[5969]:
<VP_TYPE=3,NEXT_HOP_INDEX=0x18,NETWORK_PORT=1,ECMP_PTR=0x18,DVP_GROUP_PTR=0x18,>
```

この例では、ネクストホップインデックスは0x18です。

ステップ3 ネクストホップインデックスからポート番号を取得します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg ing_l3_next_hop 0x18
Private image version: R
ING_L3_NEXT_HOP.ipipe0[24]:
<VLAN_ID=0xffff,TGID=0x88,PORT_NUM=8,MTU_SIZE=0x3fff,MODULE_ID=1,L3_OIF=0x1fff,ENTRY_TYPE=2
ENTRY_INFO_UPPER=3,DV
P_RES_INFO=0x7f,>
```

この例では、ポート番号は8です。

ステップ4 ポート番号からチップ上の物理ポートへのマッピングを取得します。

例：

```
bcm-shell.0> phy info
Phy mapping dump:
  port  id0  id1  addr iaddr      name      timeout
hg0(  1) 600d  8770  lb1  lb1    TSC-A2/31/4  250000
hg1(  2) 600d  8770   81   81    TSC-A2/00/4  250000
hg2(  3) 600d  8770  1ad  1ad    TSC-A2/30/4  250000
hg3(  4) 600d  8770   85   85    TSC-A2/01/4  250000
hg4(  5) 600d  8770  189  189    TSC-A2/23/4  250000
hg5(  6) 600d  8770   ad   ad    TSC-A2/08/4  250000
hg6(  7) 600d  8770  185  185    TSC-A2/22/4  250000
hg7(  8) 600d  8770   b1   b1    TSC-A2/09/4  250000
xe0(  9) 600d  84f9   0    89    BCM84848    250000
```



```
xe1( 10) 600d 84f9 1 8a BCM84848 250000
xe2( 11) 600d 84f9 2 8b BCM84848 250000
xe3( 12) 600d 84f9 3 8c BCM84848 250000
```

この例では、ポート番号 8 は hg7 です。

ステップ 5 出力ポートからネクストホップ インデックスへのマッピングを取得します。

例：

```
bcm-shell.0> g chg egr_port_to_nhi_mapping
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg7[2][0x4001808]=0x18: <NEXT_HOP_INDEX=0x18>
```

この例では、ネクストホップ インデックス 0x18 は hg7 を指しています。

ステップ 6 トンネルパラメータをチェックして、EGR IP トンネルの SIP フィールドに正しいローカル VTEP IP アドレスが表示されていることを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg egr_ip_tunnel
Private image version: R
EGR_IP_TUNNEL.epipe0[1]:
<TUNNEL_TYPE=0xb,TTL=0xff,SIP=0x65656565,L4_DEST_PORT=0x2118,ENTRY_TYPE=1,DSCP_SEL=1,>
```

この例では、SIP はローカル VTEP IP アドレス (101.101.101.101) で、L4_DEST_PORT は 0x2118 (ポート 8472) で、DSCP_SEL=1 は内部 DSCP パケットが外部 DSCP パケットにコピーされることを意味します。

ステップ 7 トンネル DIP がプログラムされていることを確認します。

例：

```
bcm-shell.0> d chg egr_dvp_attribute 0x1751
Private image version: R
EGR_DVP_ATTRIBUTE.epipe0[5969]:
<VXLAN:TUNNEL_INDEX=1,VXLAN:DVP_IS_NETWORK_PORT=1,VXLAN:DIP=0x66666666,VP_TYPE=2,>
```

VTEP が ECMP パスを介して到達可能な場合にドロップされるユニキャストパケット

ネットワーク方向にアクセスするデバイスでユニキャストパケットがドロップされ、VTEP が ECMP パスを介して到達可能である場合は、次の手順に従います。

手順の概要

1. 特定のリモートピア仮想ポート (VP) の ECMP ネクストホップを取得します。
2. ECMP_PTR を 10 進数に変換し、200000 を追加してポート番号を取得します。
3. ECMP ネクストホップセット内のインターフェイスのリストを取得します。
4. ポート チャンネルのメンバーを検索します。
5. 特定のネクストホップ インデックスの物理ネクストホップ インターフェイスを検索します。

手順の詳細

ステップ 1 特定のリモートピア仮想ポート (VP) の ECMP ネクストホップを取得します。

例 :

```
bcm-shell.0> d chg ing_dvp_table 0x1751
Private image version: R
ING_DVP_TABLE.ipipe0[5969]:
<VP_TYPE=3,NEXT_HOP_INDEX=0x108,NETWORK_PORT=1,ECMP_PTR=0x108,ECMP=1,DVP_GROUP_PTR=0x108,>
```

この例では、0x1751 は、d chg mpls_entry 出力を使用して取得されたリモートピア IP アドレスの VP 番号です。

(注) リモート VTEP が ECMP パスを介して到達可能である場合、出力に ECMP=1 が存在する必要があります。

ステップ 2 ECMP_PTR を 10 進数に変換し、200000 を追加してポート番号を取得します。

例 :

```
0x108 (264) + 200000 = 200264
```

この例では、ポート番号は 200264 です。

ステップ 3 ECMP ネクストホップセット内のインターフェイスのリストを取得します。

例 :

```
bcm-shell.0> d chg 13 multipath show 200264
Multipath Egress Object 200264
Interfaces: 100606 100607 100608
Reference count: 2
bcm-shell.0> 13 egress show | grep 100606
100606 00:22:bd:f5:1a:60 4095 4101 1t 0 -1 no no
bcm-shell.0> 13 egress show | grep 100607
100607 00:22:bd:f5:1a:60 4095 4102 2t 0 -1 no no
bcm-shell.0> 13 egress show | grep 100608
100608 00:22:bd:f5:1a:60 4095 4103 3t 0 -1 no no
```

この例では、ネクストホップインターフェイスはポートチャネルである 1t、2t、および 3t です。

ステップ 4 ポートチャネルのメンバーを検索します。

例 :

```
bcm-shell.0> trunk show
Device supports 1072 trunk groups:
 1024 front panel trunks (0..1023), 256 ports/trunk
 48 fabric trunks (1024..1071), 64 ports/trunk
trunk 0: (front panel, 0 ports)
trunk 1: (front panel, 1 ports)=hg6 dlf=any mc=any ipmc=any psc=portflow (0x9)
trunk 2: (front panel, 1 ports)=hg4 dlf=any mc=any ipmc=any psc=portflow (0x9)
trunk 3: (front panel, 1 ports)=hg7 dlf=any mc=any ipmc=any psc=portflow (0x9)
```

ステップ 5 特定のネクストホップインデックスの物理ネクストホップインターフェイスを検索します。

例 :

```
bcm-shell.0> g chg egr_port_to_nhi_mapping
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg4[2][0x4001805]=0x5f7: <NEXT_HOP_INDEX=0x5f7>
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg6[2][0x4001807]=0x9b3: <NEXT_HOP_INDEX=0x9b3>
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg7[2][0x4001808]=0x5f8: <NEXT_HOP_INDEX=0x5f8>
```

この例では、ネクストホップインデックス 0x5f7 は hg4 を指し、0x9b3 は hg6 を指し、0x5f8 は hg7 を指します。

ユニキャスト カプセル化解除パスでドロップされたパケット

方向にアクセスするために、ネットワーク内のデバイスでユニキャストパケットがドロップされる場合は、次の手順に従います。

手順の概要

1. パケットがスーパーバイザに送信されたかどうか、およびリモート VXLAN トンネルエンドポイント (VTEP) の検出が行われたかどうかを確認します。
2. ハードウェアに `mpls_entry` が存在する場合は、`vlan_xlate` テーブルを確認します。
3. ユニキャスト DIP エントリが `vlan_xlate` テーブルに存在するかどうかを確認します。
4. ユニキャスト DIP エントリが `vlan_xlate` テーブルに存在するかどうかを確認します。
5. 宛先 MAC アドレスがレイヤ 2 MAC アドレス テーブルに表示されていることを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 パケットがスーパーバイザに送信されたかどうか、およびリモート VXLAN トンネルエンドポイント (VTEP) の検出が行われたかどうかを確認します。

- a) リモート ピアがソフトウェアで学習されたかどうかを確認します。

例 :

```
switch# show nve peers
Interface          Peer-IP            VNI                Up Time
-----
nve1                100.100.100.5     10000              00:06:54
```

- b) `mpls_entry` テーブルを確認して、リモート ピアがハードウェアで学習されたかどうかを確認します。

例 :

```
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> d chg mpls_entry | grep SVP
MPLS_ENTRY.ipipe0[12368]:
<VXLAN_SIP:SVP=0x1751,VXLAN_SIP:SIP=0x66666666,VXLAN_SIP:KEY=0x66666666,VXLAN_SIP:HASH_LSB=0x666
VXLAN_SIP:DATA=0
x1751,VALID=1,KEY_TYPE=8,>
```

- c) `mpls_entry` がなく、送信元仮想ポート (SVP) がない場合は、パケットがスーパーバイザに送信されているかどうかを確認し、IPFIB エラーがないかどうかを確認します。

例 :

```
bcm-shell.0> show c cpu0
bcm-shell.0> exit
switch# attach module 1
module-1# show system internal ipfib errors
```

ステップ 2 ハードウェアに `mpls_entry` が存在する場合は、`vlan_xlate` テーブルを確認します。

例 :

```
module-1# exit
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0xe1000003
VLAN_XLATE.ipipe0[8464]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x7080000192,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=3,VXLAN_DIP:DIP=0xe1000003,
XLAN_DIP
:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

`vlan_xlate` テーブルには、パケットのマルチキャスト宛先 IP アドレス (DIP) のエントリが 1 つ必要です。この例では、マルチキャストパケットが 225.0.0.3 に送信される場合を示しています。

ステップ 3 ユニキャスト DIP エントリが `vlan_xlate` テーブルに存在するかどうかを確認します。

例 :

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0x65656565
VLAN_XLATE.ipipe0[14152]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x32b2b2b292,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=0x565
VXLAN_DIP:DIP=0x65656565,VXLAN_DIP:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

エントリが存在する場合は、カプセル化が解除されます。

ステップ 4 ユニキャスト DIP エントリが `vlan_xlate` テーブルに存在するかどうかを確認します。

例 :

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0x65656565
VLAN_XLATE.ipipe0[14152]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x32b2b2b292,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=0x565
VXLAN_DIP:DIP=0x65656565,VXLAN_DIP:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

エントリが存在する場合は、カプセル化が解除されます。

ステップ 5 宛先 MAC アドレスがレイヤ 2 MAC アドレス テーブルに表示されていることを確認します。

例 :

```
bcm-shell.0> 12 show
mac=00:00:bb:01:00:03 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:0a vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:05 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:0a vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:07 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:01 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:08 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:01 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
```

```
mac=00:00:cc:01:00:07 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:02 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:04 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:04 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:02 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:09 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:09 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:06 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:06 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:06 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:09 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:04 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:02 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:08 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:07 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:08 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:01 vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:05 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:03 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:bb:01:00:0a vlan=28772 GPORT=0x80000215Unknown GPORT format
mac=00:00:cc:01:00:03 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
mac=00:00:aa:01:00:05 vlan=28772 GPORT=0x80003401Unknown GPORT format
```

宛先 MAC アドレスが存在する場合、レイヤ 2 転送が発生します。それ以外の場合、パケットはカプセル化解除フラッディングリストを使用してフラッディングされます。

Broadcom シェル テーブルについて

このセクションでは、VXLAN に関する Broadcom シェル テーブルについて説明します。

MPLS エントリ テーブル

MPLS エントリ (mpls_entry) テーブルには、次の情報が含まれます。

- リモート VTEP (SIP) の IP アドレス
- トンネルカプセル化ポート (SVP)
- VLAN と VNID (VFI、VN_ID) 間のマッピング

SIP エントリが mpls_entry テーブルにない場合、パケットは VTEP 学習のためにスーパーバイザに送信されます。エントリがハードウェアにインストールされると、パケットはスーパーバイザに送信されなくなります。



(注) 一部のパケットは、ソフトウェア転送が VXLAN パケットに対して実行されないため、学習フェーズ中にドロップされます。



- (注) スーパーバイザに送信されるパケットは、`class-default` CPU キューを使用します。現在、VxLAN 専用の COPP クラスはありません。

次の例は、リモート VTEP IP アドレスが 100.100.100.1 で、VLAN 100 が VNID 10000 にマッピングされるテーブルを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg mpls_entry
Private image version: R
MPLS_ENTRY.ipipe0[6816]:
<VXLAN_SIP:SVP=8,VXLAN_SIP:SIP=0x64646401,VXLAN_SIP:KEY=0x646464018
VXLAN_SIP:HASH_LSB=0x401,VXLAN_SIP:DATA=8,VALID=1,KEY_TYPE=8,>
MPLS_ENTRY.ipipe0[8680]:
<VXLAN_VN_ID:VN_ID=0x2710,VXLAN_VN_ID:VFI=0x64,VXLAN_VN_ID:KEY=0x27109
VXLAN_VN_ID:HASH_LSB=0x710,VXLAN_VN_ID:DATA=0x64,VALID=1,KEY_TYPE=9,>
```

出力では、VLAN-VNID マッピングごとに 1 つのエントリが検索されます。この例では、VN_ID = 0x2710 は 16 進表記の VNID、VFI = 0x64 は 16 進表記のマッピング VLAN、0x64 = 100 は 0x2710 VNID 10000 にマッピングされます。

MAC アドレス ラーニング

VXLAN VLAN で学習された MAC アドレスは、内部変換 VLAN で学習されたものとして表示されます（たとえば、VLAN 100 は VLAN 28772 として表示されます）。

GPORT は、MAC アドレスが学習されたポートまたは仮想ポートを参照します。ローカル MAC アドレスの場合、GPORT # と前面パネルの port # の間にマッピングがあります。リモート MAC アドレスは、トンネルポートを指している SVP に対して学習する必要があります。

このテーブルのミスは、VLAN のローカルポートおよびトンネルポートにパケットをフラグディングすることを意味します。このテーブルのヒットは、パケットを対応する GPORT に転送することを意味します。GPORT がトンネルポートの場合は、パケットを VXLAN にカプセル化する必要があります。GPORT がローカルポートの場合、通常のレイヤ 2 学習 MAC アドレス転送が発生します。



- (注) GPORT と前面パネルのポート番号の間のマッピングを取得するには、[GPORT と前面パネルのポート番号マッピングの取得 \(75 ページ\)](#) セクションを参照してください。

入力 DVP テーブル

入力 DVP テーブルは、仮想ポートをネクストホップ インデックスにマッピングします。これはユニキャスト カプセル化パスで使用され、仮想ポートによってインデックスが作成されず。ECMP の場合は、ECMP = 1 フィールドが必要です。

次の例は、VP 0x1751 のネクストホップ インデックスが 0x35 であることを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg ing_dvp_table 0x1751
Private image version: R
ING_DVP_TABLE.ipipe0[5969]:
<VP_TYPE=3,NEXT_HOP_INDEX=0x35,NETWORK_PORT=1,ECMP_PTR=0x35,DVP_GROUP_PTR=0x35,>
```

入力レイヤ3ネクストホップ

入力レイヤ3ネクストホップは、特定のネクストホップインデックスのポート番号を示します。ユニキャストカプセル化パスで使用されます。phy_infoを使用すれば、ポート番号と実際の前面パネルのポート番号の間のマッピングを取得できます。

```
bcm-shell.0> d chg ing_l3_next_hop
ING_L3_NEXT_HOP.ipipe0[16]:
<VLAN_ID=0xffff,TGID=0x9f,PORT_NUM=0x1f,MTU_SIZE=0x3fff,MODULE_ID=1,L3_OIF=0x1fff,ENTRY_TYPE=2
ENTRY_INFO_UPPER=3,DVP_RES_INFO=0x7f,>
```

VLAN 変換テーブル

VLAN 変換テーブルは、VXLAN マルチキャストとユニキャストの両方のカプセル化解除パスで使用されます。次の3種類のエントリが含まれます。

- 外部マルチキャストグループごとに1つのエントリ（マルチキャストDIP）
- ローカルVTEP（ユニキャストDIP）の1つのエントリ
- ポートごとにVLANごとに1つのエントリ

次の例は、マルチキャストDIPエントリを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0xe1000003
VLAN_XLATE.ipipe0[8464]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x7080000192,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=3
VXLAN_DIP:DIP=0xe1000003,VXLAN_DIP:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

次の例は、ユニキャストDIPエントリを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep 0x65656565
VLAN_XLATE.ipipe0[14152]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x32b2b2b292,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=0x565
VXLAN_DIP:DIP=0x65656565,VXLAN_DIP:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```

次の例は、VLANごと、ポートごとに1つのエントリを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate | grep VLAN_ID=3
VLAN_XLATE.ipipe0[3216]:
<XLATE:VLAN_ID=3,XLATE:TGID=0xa0,XLATE:SVP_VALID=1,XLATE:SOURCE_VP=0x201,XLATE:SOURCE_FIELD=0xa0
XLATE:PORT_NUM=0x20,XLATE:OVID=3,XLATE:OTAG=3,XLATE:OLD_VLAN_ID=3,XLATE:MPLS_ACTION=1
XLATE:MODULE_ID=1,XLATE:KEY=0x1805024,XLATE:ITAG=3,XLATE:INCOMING_VIDS=3,XLATE:HASH_LSB=3
XLATE:GLP=0xa0,XLATE:DISABLE_VLAN_CHECKS=1,XLATE:DATA=0x100a000000000000000001,VLAN_ID=3
VALID=1,TGID=0xa0,SVP_VALID=1,SOURCE_VP=0x201,SOURCE_TYPE=1,SOURCE_FIELD=0xa0,PORT_NUM=0x20,OVID=3
OTAG=3,OLD_VLAN_ID=3,MPLS_ACTION=1,MODULE_ID=1,KEY_TYPE=4,KEY=0x1805024,ITAG=3,INCOMING_VIDS=3
HASH_LSB=3,GLP=0xa0,DISABLE_VLAN_CHECKS=1,DATA=0x100a000000000000000001>
```

EGR ポートから NHI へのマッピング

EGR ポートから NHI へのマッピングは、ネクストホップインデックスを出力ポートにマッピングします。ユニキャストカプセル化パスで使用されます。

```
bcm-shell.0> g chg egr_port_to_nhi_mapping
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg7[2][0x4001808]=0x36: <NEXT_HOP_INDEX=0x36>
```

VLAN フラッドインデックス テーブル

VLANフラッドインデックス (VFI) テーブルには、特定の VLAN または VFI の BC/UUC/UMC インデックスが表示されます。 **mcshow** コマンドの出力でフラディングインデックスを使用して、トンネルカプセル化ポートを含む VLAN のメンバーを検索できます。

次の例は、ポート番号を取得する例を示しています。

```
bcm-shell.0> d chg vfi 3
Private image version: R
VFI.ipipe0[3]:
<VP_1=0xc01,VP_0=0x1803,UUC_INDEX=0x1803,UMC_INDEX=0x1803,RSVD_VP_0=1,BC_INDEX=0x1803>
```

次の例は、このポート番号を `phy_info` に入力して、前面パネルのポート番号を取得する方法を示しています。

```
bcm-shell.0> d chg ing_l3_next_hop
ING_L3_NEXT_HOP.ipipe0[16]:
<VLAN_ID=0xffff,TGID=0x9f,PORT_NUM=0x1f,MTU_SIZE=0x3fff,MODULE_ID=1,L3_OIF=0x1fff,ENTRY_TYPE=2
ENTRY_INFO_UPPER=3,DVP_RES_INFO=0x7f,>
```

```
bcm-shell.0> phy info
Phy mapping dump:
      port  id0  id1  addr iaddr          name      timeout
hg0(  1)  600d  8770  1b1  1b1      TSC-A0/31/4  250000
hg1(  2)  600d  8770   81   81      TSC-A0/00/4  250000
hg2(  3)  600d  8770  1ad  1ad      TSC-A0/30/4  250000
hg3(  4)  600d  8770   85   85      TSC-A0/01/4  250000
hg4(  5)  600d  8770  1a9  1a9      TSC-A0/29/4  250000
hg5(  6)  600d  8770   89   89      TSC-A0/02/4  250000
hg6(  7)  600d  8770  195  195      TSC-A0/26/4  250000
hg7(  8)  600d  8770   a1   a1      TSC-A0/05/4  250000
hg8(  9)  600d  8770  191  191      TSC-A0/25/4  250000
```

次の例は、カプセル化解除ルートを示しています。

```
bcm-shell.0> d chg vlan_xlate
Private image version: R
VLAN_XLATE.ipipe0[768]:
<VXLAN_DIP:NETWORK_RECEIVERS_PRESENT=1,VXLAN_DIP:KEY=0x7080000092,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1
VXLAN_DIP:HASH_LSB=1,VXLAN_DIP:DIP=0xe1000001,VXLAN_DIP:DATA=0x400001,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
VLAN_XLATE.ipipe0[1472]:
<VXLAN_DIP:KEY=0x3232320112,VXLAN_DIP:IGNORE_UDP_CHECKSUM=1,VXLAN_DIP:HASH_LSB=0x402
VXLAN_DIP:DIP=0x64646402,VXLAN_DIP:DATA=0x400000,VALID=1,KEY_TYPE=0x12,>
```



(注) NETWORK_RECEIVERS_PRESENT は 0 に設定する必要があります。

GPORT と前面パネルのポート番号マッピングの取得

次の手順に従って、GPORT から前面パネルのポート番号へのマッピングを取得します。

手順の概要

1. GPORT # からローカル ターゲット ロジック (LTL) を取得するには、次の式を使用します : $LTL \# = 0x10000 - 512 + GPORT \#$
2. 対象とする LTL の ifindex を取得します。
3. 前面パネル ポートの ifindex を取得します。
4. GPORT から前面パネル ポート番号へのマッピングを表示します。

手順の詳細

ステップ 1 GPORT # からローカルターゲットロジック (LTL) を取得するには、次の式を使用します : $LTL \# = 0x10000 - 512 + GPORT \#$

GPORT が 0x201 の場合、LTL は $0x10000 + 0x201 (513) - 0x200 (512) = 0x10001$ です。

ステップ 2 対象とする LTL の ifindex を取得します。

例 :

```
switch# attach module 1
module-1# show system internal pixmc info sdb ltl 0x10001
```

ステップ 3 前面パネル ポートの ifindex を取得します。

例 :

```
module-1# exit
switch# show int snmp-ifindex | grep 0x1a002e00
Eth1/24      436219392  (0x1a002e00)
```

ステップ 4 GPORT から前面パネル ポート番号へのマッピングを表示します。

例 :

```
switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> l2 show
mac=00:00:00:00:00:00 vlan=0 GPORT=0xc000000 Trunk=0^M
mac=00:00:bb:01:00:03 vlan=28772 GPORT=0x80001751Unknown GPORT format ^M
mac=00:00:cc:01:00:0a vlan=28772 GPORT=0x80000201Unknown GPORT format ^M
mac=00:00:bb:01:00:05 vlan=28772 GPORT=0x80001751Unknown GPORT format ^M
mac=00:00:aa:01:00:0a vlan=28772 GPORT=0x80000202Unknown GPORT format ^M
```

この例では、MAC アドレス 00:00:bb:01:00:05 はトンネルを通して学習されるので、GPORT 0x1751 はトンネル SVP に対応します。MAC アドレス 00:00:aa:01:00:0a はローカルに学習されるので、GPORT 0x202 は前面パネル ポートに対応します。

■ 入力ポートのためにどのインターフェイスがトラフィックが使用されるかを特定する

入力ポートのためにどのインターフェイスがトラフィックが使用されるかを特定する

次に、特定の出力ポートでトラフィックが使用するインターフェイスを検索する例を示します。

```
switch# show system internal ethpm info interface ethernet 2/3 | grep ns_pid
  IF_STATIC_INFO:
port_name=Ethernet2/3,if_index:0x1a006400,ltl=2543,slot=0,nxos_port=50,dmod=1,dpid=9,unit=0
queue=2064,xbar_unitbmp=0x0
ns_pid=8

- dpid=9 is higig8

switch# bcm-shell module 1
bcm-shell.0> g chg egr_port_to_nhi_mapping
EGR_PORT_TO_NHI_MAPPING.hg7[2][0x4001808]=0x36: <NEXT_HOP_INDEX=0x36>
bcm-shell.0> d chg egr_l3_next_hop 0x36
Private image version: R
EGR_L3_NEXT_HOP.epipe0[54]:
<OVID=0x65,MAC_ADDRESS=0x60735cde6e41,L3MC:VNTAG_P=1,L3MC:VNTAG_FORCE_L=1,L3MC:VNTAG_DST_VIF=0x18
L3MC:RSVD_DVP=1,L3MC:INTF_NUM=0x1065,L3MC:FLEX_CTR_POOL_NUMBER=3,L3MC:FLEX_CTR_OFFSET_MODE=3
L3MC:FLEX_CTR_BASE_COUNTER_IDX=0xe41,L3MC:ETAG_PCP_DE_SOURCE=3,L3MC:ETAG_PCP=1
L3MC:ETAG_DOT1P_MAPPING_PTR=1,L3MC:DVP=0x2b9b,L3:OVID=0x65,L3:MAC_ADDRESS=0x60735cde6e41
L3:IVID=0xc83,L3:INTF_NUM=0x1065,IVID=0xc83,INTF_NUM=0x1065,>
```

VLAN のフラッドリストの検索

次に、特定の VLAN のフラッドリストを検索する例を示します。

```
bcm-shell.0> d chg vfi 3
Private image version: R
VFI.ipipe0[3]:
<VP_1=0xc01,VP_0=0x1803,UUC_INDEX=0x1803,UMC_INDEX=0x1803,RSVD_VP_0=1,BC_INDEX=0x1803>
```

カプセル化ポートがフラッドリストの一部であるかどうかの判別

次に、ネットワーク方向へのアクセスにおいて、カプセル化ポートがフラッドリストの一部であるかどうかを確認する例を示します。

```
bcm-shell.0> mc show 0x1803
Group 0xc001803 (VXLAN)
  port hg7, encap id 400053
  port xe23, encap id 400057
```



第 8 章

STP のトラブルシューティング

- [STP のトラブルシューティング \(77 ページ\)](#)
- [STP の初期トラブルシューティングのチェックリスト \(77 ページ\)](#)
- [STP データループのトラブルシューティング \(78 ページ\)](#)
- [過剰なパケットフラディングのトラブルシューティング \(81 ページ\)](#)
- [コンバージェンス時間の問題のトラブルシューティング \(82 ページ\)](#)
- [フォワーディングループに対するネットワークの保護 \(83 ページ\)](#)

STP のトラブルシューティング

STP は、レイヤ 2 レベルで、ループのないネットワークを実現します。レイヤ 2 LAN ポートは定期的に STP フレームを送受信します。ネットワーク デバイスは、これらのフレームを転送せずに、フレームを使用してループフリーパスを構築します。レイヤ 2 の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide』を参照してください。

STP の初期トラブルシューティングのチェックリスト

STP の問題のトラブルシューティングでは、個々のデバイスおよびネットワーク全体の設定と接続に関する情報を収集する必要があります。

STP の問題をトラブルシューティングする際は、まず次のことを確認します。

チェックリスト	Done
デバイスで設定されているスパンニング ツリーのタイプを確認します。	
すべての相互接続ポートとスイッチを含む、ネットワーク トポロジを確認します。ネットワーク上のすべての冗長パスを特定し、冗長パスはブロック状態であることを確認します。	

チェックリスト	Done
show spanning-tree summary totals コマンドを使用し、して、アクティブ状態の論理インターフェイスの総数が、最大許容数を下回っていることを確認します。これらの限界値の詳細については、『 <i>Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide</i> 』を参照してください。	
プライマリおよびセカンダリルートブリッジと、設定されている Cisco 拡張機能を確認します。	

STP 設定と動作の詳細を表示するには、次のコマンドを使用します。

- **show running-config spanning-tree**
- **show spanning-tree summary**
- **show spanning-tree detail**
- **show spanning-tree bridge**
- **show spanning-tree mst**
- **show spanning-tree mst configuration**
- **show spanning-tree interface interface-type slot/port [detail]**
- **show tech-support stp**
- **show spanning-tree vlan**

STP によってブロックされているポートを表示するには、**show spanning-tree blockedports** コマンドを使用します。

各ノードで学習またはエージングが発生するかどうかを確認するには、**show mac address-table dynamic vlan** コマンドを使用します。

STP データ ループのトラブルシューティング

データ ループは、STP ネットワークでよく見られる問題です。データ ループの症状の一部は次のとおりです。

- 高いリンク使用率、最大 100%
- 高い CPU およびバックプレーン トラフィック使用率
- 一定の MAC アドレスの再学習とフラッピング
- インターフェイスでの過剰な出力ドロップ

12fm ログレベルが 4 以上の場合、スイッチはホスト MAC アドレス フラッピングの発生をログに記録し、STP データ ループの特定に役立ちます。1 秒以内に MAC アドレスの移動が検出され、10 回連続して移動すると、スイッチは MAC アドレスが移動しているポートの 1 つの VLAN で学習を無効にします。学習は 120 秒間無効になり、自動的に再度有効になります。

Syslog は、学習が無効または有効になっている間に生成されます。**logging level l2fm log-level** コマンドを使用して、ログ レベルを設定できます。

手順の概要

1. switch# **show interface interface-type slot/port include rate**
2. switch(config)# **interface interface-type slot/port**
3. switch(config-if)# **shutdown**
4. switch(config-if)# **show spanning-tree vlan vlan-id**
5. (任意) switch(config-if)# **show spanning-tree interface interface-type slot/port detail**
6. (任意) switch(config-if)# **show interface counters errors**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# show interface interface-type slot/port include rate 例： switch# show interface ethernet 2/1 include rate 1 minute input rate 19968 bits/sec, 0 packets/sec 1 minute output rate 3952023552 bits/sec, 957312 packets/sec	リンク使用率が高いインターフェイスを調べること で、ループに関与するポートを特定します。
ステップ 2	switch(config)# interface interface-type slot/port 例： switch(config)# interface ethernet 2/1	インターフェイス タイプと位置を設定します。
ステップ 3	switch(config-if)# shutdown 例： switch(config-if)# shutdown	影響を受けるポートをシャットダウンまたは切断し ます。 影響を受けるポートを切断した後、ネットワーク ポロジ図を使用して冗長パス内のすべてのスイッチ を特定します。
ステップ 4	switch(config-if)# show spanning-tree vlan vlan-id 例： switch(config-if)# show spanning-tree vlan 9 VLAN0009 Spanning tree enabled protocol rstp Root ID Priority 32777'' Address 0018.bad7.db15'' Cost 4 ...	スイッチが、影響を受けないその他のスイッチと同 じ STP ルートブリッジをリストすることを確認し ます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p>(任意) switch(config-if)# show spanning-tree interface interface-type slot/port detail</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-if)# show spanning-tree interface ethernet 3/1 detail Port 385 (Ethernet3/1) of VLAN0001 is root forwarding Port path cost 4, Port priority 128, Port Identifier 128.385 Designated root has priority 32769, address 0018.bad7.db15 Designated bridge has priority 32769, address 0018.bad7.db15 Designated port id is 128.385, designated path cost 0 Timers: message age 16, forward delay 0, hold 0 Number of transitions to forwarding state: 1 The port type is network by default Link type is point-to-point by default BPDU: sent 1265, received 1269</pre>	ルートポートおよび代替ポートがBPDUを定期的に受信していることを確認します。
ステップ 6	<p>(任意) switch(config-if)# show interface counters errors</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-if)# show interface counters errors</pre> <hr/> <pre>Port Align-Err FCS-Err Xmit-Err Rcv-Err UnderSize OutDiscards</pre> <hr/> <pre>mgmt0 -- -- -- -- -- -- Eth1/1 0 0 0 0 0 0 Eth1/2 0 0 0 0 0 0 Eth1/3 0 0 0 0 0 0 Eth1/4 0 0 0 0 0 0 Eth1/5 0 0 0 0 0 0 Eth1/6 0 0 0 0 0 0 Eth1/7 0 0 0 0 0 0 Eth1/8 0 0 0 0 0 0</pre>	ハードウェアパケット統計情報 (エラードロップ) カウンタをチェックします。

例

次に、指定ポートが定期的にBPDUを送信している例を示します。

```
switch# show spanning-tree interface ethernet 3/1 detail
Port 385 (Ethernet3/1) of VLAN0001 is root forwarding
  Port path cost 4, Port priority 128, Port Identifier 128.385
  Designated root has priority 32769, address 0018.bad7.db15
  Designated bridge has priority 32769, address 0018.bad7.db15
  Designated port id is 128.385, designated path cost 0
  Timers: message age 16, forward delay 0, hold 0
  Number of transitions to forwarding state: 1
  The port type is network by default
  Link type is point-to-point by default
  BPDU: sent 1265, received 1269
```

次に、ハードウェアパケット統計カウンタでBPDUエラードロップの可能性をチェックする例を示します。

```
switch# show interface counters errors
-----
Port Align-Err FCS-Err Xmit-Err Rcv-Err UnderSize OutDiscards
-----
mgmt0  --      --      --      --      --      --
Eth1/1  0        0        0        0        0        0
Eth1/2  0        0        0        0        0        0
Eth1/3  0        0        0        0        0        0
Eth1/4  0        0        0        0        0        0
Eth1/5  0        0        0        0        0        0
Eth1/6  0        0        0        0        0        0
Eth1/7  0        0        0        0        0        0
Eth1/8  0        0        0        0        0        0
```

過剰なパケットフラッディングのトラブルシューティング

STP トポロジが不安定になると、STP ネットワークで過剰なパケットフラッディングが発生する可能性があります。Rapid STP または Multiple STP (MST) では、ポートの状態が転送に変更され、ロールが指定からルートに変更されると、トポロジが変更されることがあります。Rapid STP は、レイヤ 2 転送テーブルをただちにフラッシュします。802.1D はエージングタイムを短縮します。転送テーブルの即時フラッシュにより、接続はより高速に復元されますが、フラッディングが増加します。

安定したトポロジでは、トポロジを変更しても過剰なフラッディングは発生しません。リンクフラップはトポロジの変更を引き起こす可能性があるため、継続的なリンクフラップはトポロジの変更とフラッディングを繰り返す可能性があります。フラッディングはネットワークパフォーマンスを低下させ、インターフェイスでパケットドロップを引き起こす可能性があります。

手順の概要

1. switch# show spanning-tree vlan *vlan-id* detail
2. switch# show spanning-tree vlan *vlan-id* detail

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>switch# show spanning-tree vlan <i>vlan-id</i> detail</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show spanning-tree vlan 9 detail VLAN0009 is executing the rstp compatible Spanning Tree protocol Bridge Identifier has priority 32768, sysid 9, address 0018.bad8.27ad Configured hello time 2, max age 20, forward delay 15 Current root has priority 32777, address 0018.bad7.db15 Root port is 385 (Ethernet3/1), cost of root path is 4 Topology change flag not set, detected flag not set '' Number of topology changes 8 last change occurred 1:32:11 ago'' '' from Ethernet3/1'' Times: hold 1, topology change 35, notification 2 ...</pre>	過剰なトポロジ変更の原因を判別します。
ステップ 2	<p>switch# show spanning-tree vlan <i>vlan-id</i> detail</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show spanning-tree vlan 9 detail VLAN0009 is executing the rstp compatible Spanning Tree protocol Bridge Identifier has priority 32768, sysid 9, address 0018.bad8.27ad Configured hello time 2, max age 20, forward delay 15 Current root has priority 32777, address 0018.bad7.db15 Root port is 385 (Ethernet3/1), cost of root path is 4 Topology change flag not set, detected flag not set Number of topology changes 8 last change occurred 1:32:11 ago '' from Ethernet3/1'' Times: hold 1, topology change 35, notification 2 ...</pre>	<p>トポロジ変更が発生したインターフェイスを特定します。</p> <p>トポロジの変更を開始したデバイスを分離できるようになるまで、インターフェイスに接続されているデバイスでこの手順を繰り返します。</p> <p>このデバイスのインターフェイスのリンクフラップを確認します。</p>

コンバージェンス時間の問題のトラブルシューティング

STPのコンバージェンスに予想よりも長い時間がかかるか、予期しない最終的なネットワークトポロジが発生する可能性があります。

コンバージェンスの問題をトラブルシューティングするには、次の問題を確認します。

- 文書化されたネットワーク トポロジ図のエラー。

- タイマーの設定ミス、直径、ブリッジ保証、ルートガード、BPDU ガードなどのシスコ拡張機能など。
- 推奨論理ポート（ポート VLAN）の制限を超えたコンバージェンス中のスイッチ CPU の過負荷。
- STP に影響するソフトウェア障害。

フォワーディング ループに対するネットワークの保護

STP が特定の障害に正しく対処できないことを処理するために、シスコでは、ネットワークを転送ループから保護するための多数の機能と拡張機能を開発しました。

STP のトラブルシューティングは、特定の障害の原因を切り分けて見つけるのに役立ちますが、これらの拡張機能の実装は、ネットワークを転送ループから保護する唯一の方法です。

始める前に

- すべてのスイッチ間リンクでシスコ独自の単方向リンク検出 (UDLD) プロトコルを有効にします。詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。
- すべてのスイッチ間リンクをスパニング ツリー ネットワーク ポート タイプとして設定して、ブリッジ保証機能を設定します。



(注) リンクの両側でブリッジ保証機能をイネーブルにする必要があります。そうでない場合は、Cisco NX-OS はブリッジ保証の不整合のためにポートがブロック状態になります。

- すべてのエンドステーションポートをスパニング ツリー エッジポート タイプとして設定します。

STP エッジポートを設定して、ネットワークのパフォーマンスに影響を与える可能性のあるトポロジ変更通知および後続のフラッディングの量を制限する必要があります。このコマンドは、エンドステーションに接続するポートでのみ使用します。そうしないと、偶発的なトポジグループによってデータ パケット ループが発生し、デバイスとネットワークの動作が中断される可能性があります。

- ポート チャネルの Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにして、ポート チャネルの設定ミスの問題を回避します。詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。

スイッチ間リンクで自動ネゴシエーションをディセーブルにしないでください。自動ネゴシエーションメカニズムは、リモート障害情報を伝達できます。これは、リモート側で障害を検出する最も迅速な方法です。リモート側で障害が検出されると、リンクがまだパルスを受信している場合でも、ローカル側はリンクをダウンさせます。



注意 STP タイマーを変更する場合は注意してください。STP タイマーは相互に依存しており、変更はネットワーク全体に影響を与える可能性があります。

手順の概要

1. (任意) `switch(config)# spanning-tree loopguard default`
2. `switch(config)# spanning-tree bpduguard enable`
3. `switch(config)# vlan vlan-range`
4. `switch(config)# spanning-tree vlan vlan-range root primary`
5. `switch(config)# spanning-tree vlan vlan-range root secondary`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) <code>switch(config)# spanning-tree loopguard default</code> 例： <code>switch(config)# spanning-tree loopguard default</code>	ルートガードを使用してネットワーク STP 境界を保護します。ルートガードと BPDU ガードを使用すると、外部からの影響から STP を保護できます。
ステップ 2	<code>switch(config)# spanning-tree bpduguard enable</code> 例： <code>switch(config)# spanning-tree bpduguard enable</code>	STP エッジポートで BPDU ガードをイネーブルにして、ポートに接続されている不正なネットワークデバイス（ハブ、スイッチ、ブリッジングルータなど）の影響を受けないようにします。 ルートガードは、STP が外部の影響を受けないようにします。BPDU ガードは、BPDU（上位 BPDU だけでなく）を受信しているポートをシャットダウンします。 (注) 2つの STP エッジポートが直接またはハブ経由で接続されている場合、短期間のループはルートガードまたは BPDU ガードによって防止されません。
ステップ 3	<code>switch(config)# vlan vlan-range</code> 例： <code>switch(config)# vlan 9</code>	個別の VLAN を設定し、管理 VLAN でのユーザトラフィックを回避します。管理 VLAN は、ネットワーク全体ではなくビルディングブロックに含まれます。
ステップ 4	<code>switch(config)# spanning-tree vlan vlan-range root primary</code> 例： <code>switch(config)# spanning-tree vlan 9 root primary</code>	予測可能な STP ルートを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<pre>switch(config)# spanning-tree vlan <i>vlan-range</i> root secondary</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# spanning-tree vlan 12 root secondary</pre>	<p>予測可能なバックアップ STP ルート配置を設定します。</p> <p>コンバージェンスが予測可能な方法で行われ、すべてのシナリオで最適なトポロジが構築されるように、STP ルートとバックアップ STP ルートを設定する必要があります。STP プライオリティをデフォルト値のままにしないでください。</p>



第 9 章

ルーティングのトラブルシューティング

- [ルーティングの問題のトラブルシューティングについて \(87 ページ\)](#)
- [トラブルシューティング ルートの初期チェックリスト \(87 ページ\)](#)
- [ルーティングのトラブルシューティング \(88 ページ\)](#)
- [ポリシーベース ルーティングのトラブルシューティング \(91 ページ\)](#)

ルーティングの問題のトラブルシューティングについて

レイヤ3ルーティングには、最適なルーティングパスの決定とパケットの交換の決定という、2つの基本的動作があります。ルーティングアルゴリズムを使用すると、ルータから宛先までの最適なパス（経路）を計算できます。この計算方法は、選択したアルゴリズム、ルートメトリック、そしてロードバランシングや代替パスの探索などの考慮事項により異なります。

Cisco NX-OS は、複数の仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンス、および複数のルーティング情報ベース (RIB) をサポートしており、複数のアドレスドメインをサポートします。各 VRF は RIB に関連付けられており、この情報が転送情報ベース (FIB) によって収集されます。

ルーティングの詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide](#)』
- 『[Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Multicast Routing Configuration Guide](#)』

トラブルシューティング ルートの初期チェックリスト

最初に次の項目を確認することで、ルーティングの問題をトラブルシューティングできます。

チェックリスト	Done
ルーティングプロトコルが有効になっていることを確認します。	
必要に応じて、アドレスファミリが設定されていることを確認します。	
ルーティングプロトコルに適切な VRF が設定されていることを確認します。	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# show running-config eigrp version 6.1(2)I1(1) feature eigrp router eigrp 99 address-family ipv4 unicast router-id 192.0.2.1 vrf red stub</pre>	
ステップ 4	<p>switch# show processes memory include isis</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show processes memory include isis 8913 9293824 bffff1d0/bffff0d0 isis 32243 8609792 bfffe0c0/bfffd0c0 isis</pre>	このルーティング プロトコルのメモリ使用率をチェックします。
ステップ 5	<p>switch# show ip client pim</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show ip client pim Client: pim, uuid: 284, pid: 3839, extended pid: 3839 Protocol: 103, client-index: 10, routing VRF id: 255 Data MTS-SAP: 1519 Data messages, send successful: 2135, failed: 0</pre>	ルーティングプロトコルがパケットを受信していることを確認します。
ステップ 6	<p>switch# show ip interface loopback-interface</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show ip interface loopback0 loopback0, Interface status: protocol-up/link-up/admin-up, iod: 36, Context:"default" IP address: 1.0.0.1, IP subnet: 1.0.0.0/24 ... IP multicast groups locally joined: 224.0.0.2 224.0.0.1 224.0.0.13 ...</pre>	インターフェイスでルーティングプロトコルが有効になっていることを確認します。
ステップ 7	<p>switch# show vrf interface loopback -interface</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show vrf interface loopback 99 Interface VRF-Name VRF-ID loopback99 default 1</pre>	インターフェイスが正しいVRFにあることを確認します。
ステップ 8	<p>switch# show routing unicast clients</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show routing unicast clients</pre>	ルーティングプロトコルがRIBに登録されていることを確認します。
ステップ 9	<p>switch# show forwarding distribution multicast client</p> <p>例 :</p>	RIB が転送プレーンと通信していることを確認します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# show forwarding distribution multicast client Number of Clients Registered: 3 Client-name Client-id Shared Memory Name igmp 1 N/A mrrib 2 /procket/shm/mrrib-mfdm</pre>	

例

次に、EIGRP ルーティング プロトコル設定を表示する例を示します。

```
switch# show running-config eigrp all
version 6.1(2)I1(1)
feature eigrp
router eigrp 99
log-neighbor-warnings
  log-neighbor-changes
  log-adjacency-changes
  graceful-restart
  nsf
timers nsf signal 20
distance 90 170
metric weights 0 1 0 1 0 0
metric maximum-hops 100
default-metric 100000 100 255 1 1500
maximum-paths 16
address-family ipv4 unicast
  log-neighbor-warnings
  log-neighbor-changes
  log-adjacency-changes
  graceful-restart
  router-id 192.0.2.1
  nsf
timers nsf signal 20
distance 90 170
metric weights 0 1 0 1 0 0
metric maximum-hops 100
default-metric 100000 100 255 1 1500
maximum-paths 16
```

次に、ユニキャストルーティングプロトコルがRIBに登録されていることを表示する例を示します。

```
switch# show routing unicast clients
CLIENT: am
index mask: 0x00000002
epid: 3908      MTS SAP: 252      MRU cache hits/misses:      2/1
Routing Instances:
  VRF: management      table: base
Messages received:
  Register      : 1      Add-route      : 2      Delete-route   : 1
Messages sent:
  Add-route-ack : 2      Delete-route-ack : 1
CLIENT: rpm
index mask: 0x00000004
```



```
epid: 4132      MTS SAP: 348      MRU cache hits/misses:      0/0
Messages received:
  Register      : 1
Messages sent:
...
CLIENT: eigrp-99
index mask: 0x00002000
epid: 3148      MTS SAP: 63775      MRU cache hits/misses:      0/1
Routing Instances:
  VRF: default      table: base      notifiers: self
Messages received:
  Register      : 1      Delete-all-routes : 1
Messages sent:
...
```

ポリシーベースルーティングのトラブルシューティング

- ACL が着信トラフィックと一致することを確認します。
- ルートが使用可能であることを確認します。
 - IP ネットワーク ルートの場合は、**show ip route** を使用します コマンドを使用して、**set ip next-hop** で指定されたネクスト ホップで IP ネットワーク ルートが使用可能であることを確認します コマンドを使用する必要があります。
 - IP ホストルートの場合は、**show ip arp** を使用します コマンドを使用して、**set ip next-hop** で指定されたネクスト ホップで IP ホストルートが使用可能であることを確認します コマンドを使用する必要があります。
 - IPv6 ネットワーク ルートの場合は、**show ipv6 route** を使用します コマンドを使用して、**set ipv6 next-hop** で指定されたネクスト ホップで IPv6 ネットワーク ルートが使用可能であることを確認します コマンドを使用する必要があります。
 - IPv6 ホストルートの場合は、**show ipv6 neighbor** を使用します コマンドを使用して、**set ipv6 next-hop** で指定されたネクスト ホップで IPv6 ホストルートが使用可能であることを確認します コマンドを使用する必要があります。
- ポリシーがシステムでアクティブになっていることを確認します (**show ip policy** を使用 コマンドを通して)。
- エントリの統計情報を確認します (**show route-map map-name pbr-statistics** を使用 コマンドを通して)。



第 10 章

メモリのトラブルシューティング

- [メモリのトラブルシューティングに関する詳細情報 \(93 ページ\)](#)
- [プラットフォーム メモリ使用率の一般/高レベルの評価 \(94 ページ\)](#)
- [ユーザ プロセス \(95 ページ\)](#)
- [組み込みプラットフォームのメモリモニタリング \(95 ページ\)](#)

メモリのトラブルシューティングに関する詳細情報

ダイナミック ランダム アクセス メモリ (DRAM) は、すべてのプラットフォームで限られたリソースであり、使用率がチェックされるように制御またはモニタする必要があります。

Cisco NX-OS は、次の 3 つの方法でメモリを使用します。

- **Page cache** : 永続ストレージ (CompactFlash) からファイルにアクセスすると、カーネルはデータをページキャッシュに読み取ります。これは、将来データにアクセスするときに、ディスクストレージに関連する遅いアクセス時間を回避できることを意味します。他のプロセスがメモリを必要とする場合、キャッシュされたページはカーネルによって解放されます。一部のファイルシステム (tmpfs) は、純粋にページキャッシュ内に存在しません (たとえば、/dev/shm、/var/sysmgr、/var/tmp)。これは、このデータの永続的なストレージがなく、データが削除されたときを意味します。ページキャッシュからは復元できません。tmpfs-cached ファイルは、削除された場合にのみページキャッシュされたページを解放します。
- **Kernel** : カーネルには、独自のテキスト、データ、およびカーネルロード可能モジュール (KLM) を保存するためのメモリが必要です。KLM は、(個別のユーザプロセスではなく) カーネルにロードされるコードの一部です。カーネルメモリの使用例として、インバンドポート ドライバがパケットを受信するためにメモリを割り当てる場合があります。
- **User processes** Cisco NX-OS : このメモリは、カーネルに統合されていない Linux プロセス (テキスト、スタック、ヒープなど) によって使用されます。

高いメモリ使用率をトラブルシューティングする場合は、まず使用率の高いタイプ (プロセス、ページキャッシュ、またはカーネル) を判別する必要があります。使用率のタイプを特定したら、追加のトラブルシューティングコマンドを使用して、この動作の原因となっているコンポーネントを特定できます。


```
switch# show processes memory
Load average: 1 minute: 0.43 5 minutes: 0.30 15 minutes: 0.28
Processes : 884 total, 1 running
CPU states : 2.0% user, 1.5% kernel, 96.5% idle
PID MemAlloc MemLimit MemUsed StackBase/Ptr Process
-----
4662 52756480 562929945 150167552 bffffdf00/bffffd970 netstack
```

ユーザ プロセス

ページキャッシュとカーネルの問題が除外されている場合は、一部のユーザプロセスが大量のメモリを使用しているか、実行中のプロセス数が多いため（使用可能な機能の数が多いため）、使用率が高くなっているという可能性があります。



- (注) Cisco NX-OS は、ほとんどのプロセスのメモリ制限を定義しています (rlimit)。この rlimit を超えると、sysmgr によってプロセスがクラッシュし、通常はコアファイルが生成されます。rlimit に近いプロセスは、プラットフォームの使用率に大きな影響を与えない可能性があります。ただし、クラッシュが発生すると問題になる可能性があります。

大量のメモリを使用しているプロセスの特定

次のコマンドは、特定のプロセスが大量のメモリを使用しているかどうかを確認するのに役立ちます。

- The **show process memory** コマンドは、プロセスごとのメモリ割り当てを表示します。

```
switch# show processes memory
PID MemAlloc MemLimit MemUsed StackBase/Ptr Process
-----
4662 52756480 562929945 150167552 bffffdf00/bffffd970 netstack
```



- (注) **show process memory** の出力 コマンドの出力は、現在の使用率の完全に正確な図を提供しない可能性があります（割り当てられていることを意味しません）。このコマンドは、プロセスが制限に近づいているかどうかを判断するのに役立ちます。

組み込みプラットフォームのメモリモニタリング

Cisco NX-OS には、システムのハング、プロセスのクラッシュ、およびその他の望ましくない動作を回避するために、カーネルによる、メモリ使用量のモニタリング機構が組み込まれてい

まず、プラットフォームマネージャは、（搭載されている RAM の総量を基準とする）メモリの使用率を定期的にチェックし、使用率が設定されたしきい値を超えると、自動的にアラートイベントを生成します。アラートレベルに達すると、カーネルは不要になったページ（たとえば、アクセスされなくなった永続ファイルのページキャッシュ）を解放することでメモリを解放しようとします。または、クリティカルレベルに達すると、カーネルは、メモリ使用率が最も高いプロセスを強制終了します。Cisco NX-OS の他のコンポーネントには、ボーダーゲートウェイプロトコル (BGP) のグレースフルローメモリハンドリングなどのメモリアラート処理が導入されており、プロセスがそれ自身の動作を調整してメモリの使用率を制御できるようになっています。

メモリしきい値

多くの機能が展開されている場合、ベースラインのメモリでは、次のしきい値が必要です。

- MINOR
- SEVERE
- CRITICAL

デフォルトのしきい値は DRAM サイズに応じて起動時に計算されるため、その値はプラットフォームで使用されている DRAM サイズによって異なります。しきい値は、**system memory-thresholds minor** パーセンテージ **severe** パーセンテージ **critical** パーセンテージを使用して設定できます。 コマンドを使用する必要があります。



第 11 章

パケットフローの問題のトラブルシューティング

- [パケットフローの問題 \(97 ページ\)](#)

パケットフローの問題

パケットは次の理由でドロップされる可能性があります。

- ソフトウェアスイッチのパケットは、コントロールプレーンのポリシー設定 (CoPP) が原因でドロップされる可能性があります。
- ハードウェアスイッチのパケットは、帯域幅の制限により、ハードウェアによってドロップされる可能性があります。

レート制限によってドロップされたパケット

show hardware rate-limit コマンドを使用し、レート制限のためにパケットがドロップされているかどうかを確認します。

```
switch(config)# show hardware rate-limit module 1

Units for Config: packets per second
Allowed, Dropped & Total: aggregated since last clear counters

Rate Limiter Class                               Parameters
-----
access-list-log                                  Config      : 100
                                                  Allowed    : 0
                                                  Dropped    : 0
                                                  Total      : 0
```

CoPP のためにドロップされたパケット

show policy-map interface control-plane コマンドを使用し、コマンドを使用して、パケットが CoPP によってドロップされているかどうかを確認します。

```
switch# show policy-map interface control-plane
class-map copp-system-p-class-exception (match-any)
  match exception ip option
  match exception ip icmp unreachable
  match exception ttl-failure
  match exception ipv6 option
  match exception ipv6 icmp unreachable
  match exception mtu-failure
  set cos 1
  police cir 200 pps , bc 32 packets

module 27 :
  transmitted 0 packets;
  dropped 0 packets;

module 28 :
  transmitted 0 packets;
  dropped 0 packets;
```




第 12 章

PowerOn 自動プロビジョニングのトラブルシューティング

- POAP が完了するはずの時間内にスイッチが起動しない (99 ページ)
- POAP が失敗する (99 ページ)

POAP が完了するはずの時間内にスイッチが起動しない

POAP が完了するのに十分な時間が経過してもスイッチが起動しない場合は、シリアル回線を介してスイッチに接続し、次のプロンプトの箇所まで停止してしまっているか確認します。

```
Waiting for system online status before starting POAP ...  
Waiting for system online status before starting POAP ...  
Waiting for system online status before starting POAP ...
```

```
System is not fully online. Skip POAP? (yes/no)[n]:
```

プロンプトで **no** と入力すると、POAPを続行できます。そのようにしても 2 回目の試行で POAP が正常に起動しない場合は、復帰時にプロンプトで **yes** と入力して、通常のセットアップを続行します。

POAP が失敗する

PowerOn Auto Provisioning (POAP) が何らかの理由で失敗した場合は、次のアクションを実行します。

- 通常のスイッチの起動手順を続行するには、POAP プロセスを停止します。POAP が完全に停止するまでに数分かかることがありますので、しばらくお待ちください。

```
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Assigned IP address:  
172.23.40.221  
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Netmask: 255.255.255.0  
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: DNS Server: 172.21.157.5  
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Default Gateway: 172.23.40.1  
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Script Server: 172.23.40.6  
2013 Oct 29 22:24:59 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Script Name: /pxelinux.0  
2013 Oct 29 22:25:09 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: The POAP Script download
```

```

has started
2013 Oct 29 22:25:09 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: The POAP Script is being
downloaded from [copy tftp://172.23.40.6//pxelinux.0 bootflash:scripts/script.sh
vrf management ]
2013 Oct 29 22:25:10 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_FAILURE: POAP boot file download
failed.
2013 Oct 29 22:25:10 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_FAILURE: POAP DHCP discover
phase failed
2013 Oct 29 22:25:12 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Abort Power On Auto
Provisioning and continue with normal setup?(yes/no)[n]:
2013 Oct 29 22:25:46 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_DHCP_DISCOVER_START: POAP DHCP
Discover phase started
2013 Oct 29 22:25:46 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Abort Power On Auto
Provisioning and continue with normal setup?(yes/no)[n]:

Abort Auto Provisioning and continue with normal setup?(yes/no)[n]: yes

```

- ログファイルで失敗の理由を確認します。2つのPOAPログファイルがブートフラッシュに保存されます。POAPプロセスからのログは、次に示すように、`poap_pid_init.log`で終わるファイルに保存されます。失敗の理由は、このファイルの末尾に表示されます。

```

bash-4.2# tail 20131029_222312_poap_5367_init.log -n 3
Tue Oct 29 22:27:41 2013:poap_net_rx_pkt: Droppping the pakcet due to Ethernet
hdrparsing error on if_index - 5000000
Tue Oct 29 22:27:41 2013:DEST IP is not Broadcast
Tue Oct 29 22:27:41 2013:poap_net_rx_pkt: Droppping the pakcet due to Ethernet
hdrparsing error on if_index - 5000000

```

- DHCPまたはTFTPサーバからダウンロードされたPOAPスクリプトファイルが実行プロセスで失敗するかどうかを確認します。障害の段階に応じて、デバイスは通常のセットアップまたはリブートを続行できます。

```

2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Assigned IP address:
172.23.40.181
2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Netmask: 255.255.255.0
2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: DNS Server: 172.21.157.5
2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Default Gateway: 172.23.40.1
2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Script Server: 172.23.40.6
2013 Oct 29 22:42:34 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Script Name: poap.py
2013 Oct 29 22:42:45 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: The POAP Script download
has started
2013 Oct 29 22:42:45 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: The POAP Script is being
downloaded from [copy tftp://172.23.40.6/poap.py bootflash:scripts/script.sh vrf
management ]
2013 Oct 29 22:42:46 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_SCRIPT_DOWNLOADED: Successfully
downloaded POAP script file
2013 Oct 29 22:42:46 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_INFO: Script file size 21965,
MD5 checksum 1bd4b86892439c5785a20a3e3ac2b0de
2013 Oct 29 22:42:46 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_SCRIPT_STARTED_MD5_NOT_VALIDATED:
POAP script execution started(MD5 not validated)
2013 Oct 29 22:47:57 switch %$ VDC-1 %$ %POAP-2-POAP_FAILURE: POAP script execution
aborted

```

- POAPスクリプトファイルのログは、ブートラッシュ方式でファイルに書き込まれます。ファイル名は`poap.log`で始まります。複数のファイルログがある場合は、最新のタイムスタンプを持つログを調べてエラーがないか確認します。

```

bash-4.2# tail poap.log.22_42_46
CLI : show file volatile:poap.cfg.md5.poap_md5 | grep -v '^#' | head lines 1 | sed

```

```
's/ .*$//'  
INFO: md5sum 46684d8f8b7c5ffac3b37ac8560928e5 (.md5 file)  
CLI : show file volatile:poap.cfg md5sum  
INFO: md5sum 46684d8f8b7c5ffac3b37ac8560928e5 (recalculated)  
  
CLI : config terminal ; boot nxos bootflash:poap/system.img  
CLI : copy running-config startup-config  
CLI : copy volatile:poap.cfg scheduled-config  
INFO: Configuration successful
```

POAP が失敗する



第 13 章

Python API のトラブルシューティング

- [Python API エラーの受信 \(103 ページ\)](#)

Python API エラーの受信

次のいずれかの Python API エラーが表示された場合は、次のアクションを実行します。

症状	解決方法	例
Python cli API は NameError をスローします。	グローバル名前空間に cli モジュールをインポートします。	<pre>>>> cli('show clock') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> NameError: name 'cli' is not defined >>> from cli import * >>> cli('show clock') '20:23:33.967 UTC Fri Nov 01 2013\n'</pre>
Python clid API は、structured_output_not_supported_error をスローします。	CLI またはクリップ API を使用します。clid API は、構造化データ出力をサポートするコマンドでのみ動作します。	<pre>>>> clid('show clock') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> File "/isan/python/scripts/cli.py", line 45, in clid raise structured_output_not_supported_error(cmd) errors.structured_output_not_supported_error: 'show clock'</pre>

症状	解決方法	例
<p>CLI API および Cisco オブジェクトは、Permission denied エラーをスローします。</p>	<p>ログインIDに、コマンドまたはリソースにアクセスするための十分な権限があることを確認します。必要に応じて、ネットワーク管理者に権限を追加してもらいます。</p>	<pre>>>> from cli import * >>> cli('clear counters') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> File "/isan/python/scripts/cli.py", line 20, in cli raise cmd_exec_error(msg) errors.cmd_exec_error: '% Permission denied for the role\n\nCmd exec error.\n' >>> from cisco.interface import * >>> i=Interface('Ethernet3/2') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> File "/isan/python/scripts/cisco/interface.py", line 75, in __new__ cls._Interfaces[name].config(True) File "/isan/python/scripts/cisco/interface.py", line 91, in config s, o = nxcli('show runn interface %s' % self.name) File "/isan/python/scripts/cisco/nxcli.py", line 46, in nxcli raise SyntaxError, 'Error status %d\n%s' % (status, output) SyntaxError: Error status 30 % Permission denied for the role Cmd exec error. >>> import os >>> os.system('whoami') test</pre>

症状	解決方法	例
<p>urllib2 またはソケット接続は処理されません。</p>	<p>正しい仮想ルーティングコンテキストを使用していることを確認します。そうでない場合は、正しいものに切り替えます。</p>	<pre>>>> import urllib2 >>> u=urllib2('http://172.23.40.211:8000/welcome.html') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> TypeError: 'module' object is not callable >>> u=urllib2.urlopen('http://172.23.40.211:8000/welcome.html') Traceback (most recent call last): File "<stdin>", line 1, in <module> File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 127, in urlopen return _opener.open(url, data, timeout) File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 404, in open response = self._open(req, data) File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 422, in _open '_open', req) File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 382, in _call_chain result = func(*args) File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 1214, in http_open return self.do_open(httplib.HTTPConnection, req) File "/isan/python/python2.7/urllib2.py", line 1184, in do_open raise URLError(err) urllib2.URLError: <urlopen error [Errno 113] No route to host> >>> from cisco.vrf import * >>> VRF.get_vrf_name_by_id(get_global_vrf()) 'default'</pre>



第 14 章

NX-API のトラブルシューティング

- [NX-API のガイドライン \(107 ページ\)](#)
- [NX-API が応答しない \(107 ページ\)](#)
- [設定が失敗します \(108 ページ\)](#)
- [Bash に対する許可が拒否される \(108 ページ\)](#)
- [ブラウザ サンドボックスから出力を取得できない \(108 ページ\)](#)
- [CLI コマンドエラーが表示される \(109 ページ\)](#)
- [エラーメッセージが表示される \(109 ページ\)](#)
- [一時ファイルが消える \(109 ページ\)](#)
- [コマンド出力のチャンクが配信されない \(109 ページ\)](#)

NX-API のガイドライン

NX-API は、スイッチ上の Programmable Authentication Module (PAM) を使用して認証を行います。cookie を使用して PAM の認証数を減らし、PAM の負荷を減らします。

NX-API が応答しない

NX-API が応答しない場合は、次のアクションを実行します。

- `show feature | grep nxapi` コマンドを使用して、NX-API が有効になっていることを確認します。
- `show nxapi` コマンドを使用して、HTTP または HTTPs が有効になっていることを確認します。
- `show nxapi` コマンドを使用して、NX-API が予期されるポートでリッスンしていることを確認します。
- 長時間実行されているコマンドを確認します。現在、NX-API は単一のワーカープロセスで実行され、シングルスレッドです。1つのコマンドの完了に時間がかかると、他のコマンドがブロックされます。NX-API は要求をキャッシュします。現在の要求が完了すると、他の要求が処理されます。

- Bash を有効にします。手順詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide*』を参照してください。
- /var/sysmgr_nxapi/logs/error.log でエラーがないか確認します。
- NX-API がまだ応答しない場合は、**no feature nxapi** を入力します および **feature nxapi** NX-API を再起動します。NX-API はステートレスであり、再起動しても安全です。

設定が失敗します

ユーザがコンフィギュレーションコマンドを実行できない場合は、次のアクションを実行します。

- ユーザにコマンドを実行するための正しい権限があることを確認します。

Bash に対する許可が拒否される

ユーザが Bash の「許可が拒否される (Permission Denied)」メッセージを受信した場合は、次のアクションを実行します。

- **show feature | grep bash** を使用して Bash が有効になっていることを確認します コマンドを実行してください。
- 現在のユーザが Bash にアクセスするための正しい権限を持っていることを確認します。
- Bash の詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide*』を参照してください。

ブラウザ サンドボックスから出力を取得できない

ブラウザ サンドボックスから出力を取得できない場合は、次のアクションを実行します。

- 出力が大きい場合やコマンドの実行に時間がかかる場合は、ブラウザがロードを処理できず、タイムアウトする可能性があります。Python クライアントを使用して NX-API にアクセスしてみてください。手順詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide*』を参照してください。



(注) 推奨されるブラウザは Mozilla Firefox です。

CLI コマンド エラーが表示される

ユーザが複数のコマンドを実行したときにCLI コマンドエラーが表示される場合は、次のアクションを実行します。

- 複数のコマンドがどのように区切られているかを確認します。show コマンドと configure コマンドは [スペース] で区切る必要があります。Bash コマンドはセミコロン (;) で区切る必要があります。

エラーメッセージが表示される

エラーメッセージが出力に表示される場合は、次のアクションを実行します。

- エラーメッセージの手順に従ってください。
- Bash コマンドが実行されない場合は、Bash が有効になっているか確認するために、**show feature | grep bash** コマンドを実行してください。Bash の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Programmability Guide』を参照してください。
- ユーザにコマンドを実行するための正しい権限があることを確認します。
- [NX-API が応答しない \(107 ページ\)](#) の指示に従って操作します。

一時ファイルが消える

リクエストごとに、一時ファイルが /volatile に作成され、クライアントに返されるコマンド出力が保存されます。要求のチャンクパラメータが 0 の場合、コマンド出力がクライアントに送り返される直前にファイルは削除されます。要求のチャンクが 1 の場合、チャンクを抽出してクライアントに送信できるようにファイルは保持されます。そのファイルは定期的にクリーンアップされます。現在、このクリーンアップは 100 リクエストごとに実行されるように設定されています。ファイルは、作成後 60 秒以内にアクセスされなかった場合、または 600 秒以内に変更されなかった、またはステータスが更新されなかった場合にクリーンアップされます。

コマンド出力のチャンクが配信されない

チャンク=1 の要求では、sid が同じ値に設定されている場合、コマンド出力の同じチャンクが取得されます。この機能は、クライアントが特定のチャンクを要求し、ネットワーク内のどこかでドロップまたはブロックされたために、タイムリーに受信しない状況に対応します。クライアントは同じチャンクを再度要求でき、一時ファイルがクリーンアップされていない限り、正しいデータを受信します ([一時ファイルが消える \(109 ページ\)](#) を参照)。

■ コマンド出力のチャンクが配信されない



第 15 章

サーバ障害のトラブルシューティング

- プロセスのメモリ割り当ての特定 (111 ページ)
- プロセスの CPU 使用率の特定 (112 ページ)
- モニタリングプロセスのコアファイル (113 ページ)
- クラッシュ コア ファイルの処理 (113 ページ)
- コアのクリア (114 ページ)
- コア ファイルの自動コピーのイネーブル化 (114 ページ)

プロセスのメモリ割り当ての特定

メモリ内の各プロセスの割り当て、制限、メモリ割り当て、および使用状況を特定できます。次は **show processes memory** コマンドからの出力例です。この出力は、例を簡潔にするために省略されています。

```
switch# show processes memory
PID MemAlloc MemLimit MemUsed StackBase/Ptr Process
-----
1 159744 0 2027520 ff808d30/ffffffff init
2 0 0 0 0/0 kthreadd
3 0 0 0 0/0 migration/0
4 0 0 0 0/0 ksoftirqd/0
5 0 0 0 0/0 watchdog/0
6 0 0 0 0/0 migration/1
7 0 0 0 0/0 ksoftirqd/1
8 0 0 0 0/0 watchdog/1
9 0 0 0 0/0 migration/2
10 0 0 0 0/0 ksoftirqd/2
11 0 0 0 0/0 watchdog/2
12 0 0 0 0/0 migration/3
13 0 0 0 0/0 ksoftirqd/3
14 0 0 0 0/0 watchdog/3
15 0 0 0 0/0 migration/4
16 0 0 0 0/0 ksoftirqd/4
17 0 0 0 0/0 watchdog/4
18 0 0 0 0/0 migration/5
19 0 0 0 0/0 ksoftirqd/5
20 0 0 0 0/0 watchdog/5
21 0 0 0 0/0 migration/6
22 0 0 0 0/0 ksoftirqd/6
23 0 0 0 0/0 watchdog/6
24 0 0 0 0/0 migration/7
```

```

25      0 0      0      0/0 ksoftirqd/7
26      0 0      0      0/0 watchdog/7
27      0 0      0      0/0 events/0
28      0 0      0      0/0 events/1
29      0 0      0      0/0 events/2
30      0 0      0      0/0 events/3
31      0 0      0      0/0 events/4
32      0 0      0      0/0 events/5
33      0 0      0      0/0 events/6
34      0 0      0      0/0 events/7
35      0 0      0      0/0 khelper
36      0 0      0      0/0 netns
37      0 0      0      0/0 kblockd/0

```

この項で説明している **show processes memory** コマンドには、次のキーワードが含まれます。

キーワード	説明
>	出力をファイルにリダイレクトします。
>>	出力が既存のファイルに追加されます。
shared	共有メモリ情報を表示します。

プロセスの CPU 使用率の特定

メモリ内で実行中のプロセスの CPU 使用率を特定できます。次は **show processes cpu** コマンドからの出力例です。この出力は、例を簡潔にするために省略されています。

```
switch# show processes cpu
```

```
CPU utilization for five seconds: 0%/0%; one minute: 1%; five minutes: 2%
```

```

PID      Runtime (ms) Invoked    uSecs 5Sec    1Min    5Min    TTY  Process
---      -
1        28660    405831    70    0.00%   0.00%   0.00%   -   init
2         21      1185     18    0.00%   0.00%   0.00%   -   kthreadd
3         468     36439    12    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/0
4        79725   8804385    9    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/0
5          0         4       65    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/0
6         472     35942    13    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/1
7       33967   953376    35    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/1
8          0         11      3    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/1
9         424     35558    11    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/2
10       58084   7683251    7    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/2
11          0         3       1    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/2
12         381     29760    12    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/3
13       17258   265884    64    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/3
14          0         2       0    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/3
15       46558   1300598    35    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/4
16     1332913  4354439   306    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/4
17          0         6       2    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/4
18       45808   1283581    35    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/5
19     981030   1973423   497    0.00%   0.00%   0.00%   -   ksoftirqd/5
20          0         16      3    0.00%   0.00%   0.00%   -   watchdog/5
21       48019   1334683    35    0.00%   0.00%   0.00%   -   migration/6

```

22	1084448	2520990	430	0.00%	0.00%	0.00%	-	ksoftirqd/6
23	0	31	3	0.00%	0.00%	0.00%	-	watchdog/6
24	46490	1306203	35	0.00%	0.00%	0.00%	-	migration/7
25	1187547	2867126	414	0.00%	0.00%	0.00%	-	ksoftirqd/7
26	0	16	3	0.00%	0.00%	0.00%	-	watchdog/7
27	21249	2024626	10	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/0
28	8503	1990090	4	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/1
29	11675	1993684	5	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/2
30	9090	1973913	4	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/3
31	74118	2956999	25	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/4
32	76281	2837641	26	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/5
33	129651	3874436	33	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/6
34	8864	2077714	4	0.00%	0.00%	0.00%	-	events/7
35	0	8	23	0.00%	0.00%	0.00%	-	khelper
36	234	34	6884	0.00%	0.00%	0.00%	-	netns

show processes cpu コマンドには、次のキーワードが含まれています。

キーワード	説明
>	出力をファイルにリダイレクトします。
>>	出力が既存のファイルに追加されます。
history	CPU の使用状況に関する情報を表示します。
sort	メモリ使用量に基づいてリストをソートします。

モニタリング プロセスのコア ファイル

show cores を使用してプロセス コア ファイルをモニタできます。コマンドを使用する必要があります。

```
switch# show cores
Module Instance Process-name PID Date (Year-Month-Day Time)
-----
28 1 bgp-64551 5179 2013-11-08 23:51:26
```

出力には、現在アクティブなスーパーバイザからアップロードできるすべてのコアが表示されます。

クラッシュ コア ファイルの処理

クラッシュ コア ファイルを処理するには、**show processes log** コマンドを使用します。

```
switch# show process log
Process PID Normal-exit Stack-trace Core Log-create-time
-----
ntp 919 N N N Jun 27 04:08
snsm 972 N Y N Jun 24 20:50
```

コアのクリア

clear cores を使用してコアをクリアできます。コマンドを使用します。

```
switch# clear cores
```

コア ファイルの自動コピーのイネーブル化

システム コアを入力できます。コマンドを使用して、TFTP サーバ、フラッシュ ドライブ、またはファイルへのコア ファイルの自動コピーを有効にします。

```
switch(config)# system cores tftp://10.1.1.1/cores
```




第 16 章

テクニカル サポートへ問い合わせる前の準備

- TAC に連絡する前に実行する手順 (115 ページ)
- Cisco NX-OS から/へのファイルのコピー (117 ページ)
- コア ダンプの使用 (118 ページ)

TAC に連絡する前に実行する手順

追加の支援を受けるために、テクニカルサポート担当者または Cisco TAC への問い合わせが必要になることがあります。この項では、問題の解決にかかる時間を短縮するために、次のレベルのサポートに連絡する前に実行する必要がある手順について概説します。

テクニカルサポート担当者に問い合わせる前に必要な準備を行うには、次の手順に従います。

1. システム情報と設定を収集します。この情報は、問題の解決の前と後に収集する必要があります。この情報を収集するには、次の 3 つの方法のいずれかを実施します。
 - Telnet またはセキュア シェル (SSH) アプリケーションを設定して、画面出力をテキスト ファイルに記録します。 **terminal length 0** コマンドを使用し、それから **show tech-support details** コマンドを使用します。



(注) 特定の **show tech** コマンドが大量のデータを生成し、多くのディスク領域を占有する場合は、圧縮形式で保存できます。次の例を参照してください。

```
bash-4.2# time vsh -c " show tech-support platform-sdk" | gzip  
> /bootflash/pltfm-tech.gz
```



- (注) SSHのタイムアウト時間は、**tac-pac**の生成時間よりも長くする必要があります。そうでないと、VSH ログに %
VSHD-2-VSHD_SYSLOG_EOL_ERR エラーが記録されることがあります。理想的には、**tac-pac** または **showtech** を収集する前に 0
(無限) に設定します。

- **tac-pac filename** コマンドを使用して、**show tech-support details** コマンドの出力をファイルにリダイレクトし、そのファイルを **gzip** で圧縮します。

```
switch# tac-pac bootflash://showtech.switch1
```

- ファイル名を指定しなかった場合、**volatile:show_tech_out.gz** というファイルが Cisco NX-OS により作成されます。[Cisco NX-OS から/へのファイルのコピー \(117ページ\)](#) の手順を使用して、デバイスからファイルをコピーします。

2. DCNM でエラーが発生した場合は、エラーのスクリーンショットを撮ります。Windows では、アクティブなウィンドウをキャプチャするには **Alt+PrintScreen** を、デスクトップ全体をキャプチャするには **PrintScreen** を押します。スクリーンショットを新しい Microsoft のペイント (または同様のプログラム) セッションに貼り付けて、ファイルを保存します。
3. メッセージログ内で確認したのと全く同じエラー コードを DCNM または CLI からキャプチャするようにします。
 - 最近生成されたメッセージのリストを表示するには、DCNM で **Event Browser** を選択します。
 - メッセージログからエラーをコピーします。これは **show logging logfile** または **show logging last number** コマンドを使用し、ログの最後の数行を表示して確認できます。
4. テクニカルサポート担当者に連絡する前に、次の質問に回答してください。
 - どのスイッチまたはポートで問題が発生しているか。
 - ネットワーク内にあるのはどの Cisco NX-OS ソフトウェア、ドライババージョン、オペレーティング システム バージョン、ストレージ デバイスのファームウェアか。
 - どのようなネットワーク トポロジが使用されているか。(DCNM で **Topology > Save layout** を選択)。
 - このイベントの発生前または発生時に環境に変更を加えたか (VLAN、アップグレード、またはモジュールの追加)。
 - 同様の設定がされた他のデバイスで、この問題が発生したか。
 - 問題の発生したデバイスの接続先はどこか (どのデバイスまたはインターフェイスか)。
 - この問題が最初に発生したのはいつか。

- この問題が最後に発生したのはいつか。
 - この問題の発生頻度はどの程度か。
 - 何台のデバイスでこの問題が発生していたか。
 - 問題発生時にキャプチャした出力のトレースまたはデバッグを行ったか。どのようなトラブルシューティングの手順を試みたか。次のどのツールを使用したか（使用した場合）。
 - Ethalyzer、ローカルまたはリモート SPAN
 - CLI デバッグ コマンド
 - traceroute、ping
 - DCNM ツール
5. 問題がソフトウェアアップグレードの試行に関連している場合は、次の質問に回答してください。
- Cisco NX-OS の元のバージョンは何であったか。
 - Cisco NX-OS の新しいバージョンは何か。
 - 次のコマンドの出力を収集し、カスタマー サポートの担当者に転送します。
 - **show install all status**
 - **show log nvram**

Cisco NX-OS から/へのファイルのコピー

デバイスとの間でファイルを移動する必要がある場合があります。このようなファイルには、ログ ファイル、設定ファイル、ファームウェア ファイルなどがあります。

Cisco NX-OS は、デバイスとの間のコピーに使用するプロトコルを提供します。デバイスは、常にクライアントとして動作します。つまり、FTP、SCP、TFTPセッションは常にCisco NX-OSで発生し、ファイルは外部システムにプッシュされるか、外部システムからプルされます。

```
File Server: 172.22.36.10
File to be copied to the switch: /etc/hosts
```

この項で説明している **copy** コマンドは、FTP、SCP、SFTP、およびTFTP転送プロトコルと、ファイルをコピーするためのさまざまなソースをサポートします。

```
switch# copy ?
bootflash:      Select source filesystem
core:           Select source filesystem
debug:          Select source filesystem
ftp:            Select source filesystem
http:           Select source filesystem
```

```

https:          Select source filesystem
licenses        Backup license files
log:            Select source filesystem
logflash:       Select source filesystem
nvram:          Select source filesystem
running-config Copy running configuration to destination
scp:            Select source filesystem
sftp:           Select source filesystem
startup-config Copy startup configuration to destination
system:         Select source filesystem
tftp:           Select source filesystem
usb1:           Select source filesystem
usb2:           Select source filesystem
volatile:       Select source filesystem
    
```

次のように、転送メカニズムとしてセキュア コピー (SCP) を使用できます。

```
scp: [//[username@]server] [/path]
```

この例では、ユーザ `user1` の `/etc/hosts` を `172.22.36.10` から `hosts.txt` にコピーします。

```

switch# copy scp://user1@172.22.36.10/etc/hosts bootflash:hosts.txt
user1@172.22.36.10's password:
hosts 100% |*****| 2035 00:00
    
```

次に、スタートアップ設定を SFTP サーバにバックアップする例を示します。

```

switch# copy startup-config sftp://user1@172.22.36.10/test/startup configuration.bak1
Connecting to 172.22.36.10...
User1@172.22.36.10's password:
switch#
    
```



- (注) サーバへのスタートアップ設定のバックアップは、毎日および変更を行う前に実施する必要があります。設定の保存およびバックアップを行う短いスクリプトを記述して、Cisco NX-OS 上で実行することもできます。スクリプトには、**copy running-configuration startup-configuration** および **copy startup-configuration tftp://server/name** の2つのコマンドを含める必要があります。スクリプトを実行するには、**run-script filename** コマンドを使用します。コマンドを使用します。

コア ダンプの使用

コア ダンプには、クラッシュ前のシステムとソフトウェアのステータスに関する詳細情報が含まれています。不明な問題が存在する状況では、コア ダンプを使用します。コア ダンプは、TFTP サーバまたはローカル システムの `slot0:` のフラッシュカードに送信できます。テクニカルサポート担当者の指示に従って、コア ダンプを生成するようにシステムを設定する必要があります。コア ダンプは、テクニカルサポート エンジニアによってデコードされます。

これらのコア ダンプをテクニカルサポート担当者に直接電子メールで送信できるように、コア ダンプを設定し、TFTP サーバに移動します。

system cores コマンドを使用し、コマンドを使用して、次のようにシステムにコア ダンプを設定します。

```
switch# system cores tftp://10.91.51.200/jsmith_cores  
switch# show system cores  
Cores are transferred to tftp://10.91.51.200/jsmith_cores
```



(注) ファイル名 (この例ではjsmith_cores) が TFTP サーバのディレクトリ内に存在する必要があります。



第 17 章

トラブルシューティングのツールと方法論

- コマンドラインインターフェイスのトラブルシューティング コマンド (121 ページ)
- 設定ファイル (123 ページ)
- CLI デバッグ (124 ページ)
- Ping および Traceroute (125 ページ)
- プロセスおよび CPU のモニタリング (127 ページ)
- オンボード障害ロギングの使用 (130 ページ)
- 診断の使用 (130 ページ)
- 組み込まれている Event Manager の使用 (131 ページ)
- Ethalyzer の使用 (131 ページ)
- SNMP および RMON のサポート (142 ページ)
- PCAP SNMP パーサーの使用 (142 ページ)
- RADIUS を利用 (144 ページ)
- syslog の使用 (145 ページ)
- SPAN の使用 (146 ページ)
- ブルー ビーコン機能の使用 (147 ページ)
- watch コマンドの使用 (147 ページ)
- トラブルシューティングのツールと方法論の追加参照 (148 ページ)

コマンドラインインターフェイスのトラブルシューティング コマンド

コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用すると、ローカルコンソールを使用して、または Telnet またはセキュアシェル (SSH) セッションを使用してリモートで設定およびモニタできます。Cisco NX-OS CLI には、Cisco IOS ソフトウェアに似たコマンド構造があり、状況依存ヘルプ、**show** コマンド、マルチユーザサポート、およびロールベースのアクセス制御が備わっています。

各機能には、機能の設定、ステータス、パフォーマンスに関する情報を提供する **show** コマンドが用意されています。また、次のコマンドを使用すると、さらに詳しい情報を確認することができます。

- **show system** コア、エラー、および例外を含むシステムレベルのコンポーネントに関する情報を提供します。**show system error-id** コマンドを使用し、コマンドにより、エラーコードの詳細を検索できます。

```
switch# copy running-config startup-config
[#####] 100%
2013 May 16 09:59:29 zoom %$ VDC-1 %$ %BOOTVAR-2-AUTOCOPY_FAILED: Autocopy of file
/bootflash/n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin to standby

switch# show system error-id 0x401e0008
Error Facility:      sysmgr
Error Description:  request was aborted, standby disk may be full
```

整合性チェッカー コマンド

Cisco NX-OS には、ソフトウェア状態とハードウェア状態を検証する整合性チェッカー コマンドが用意されています。整合性チェッカーの結果は、PASSED または FAILED として記録されます。

```
2013 Nov 1 16:31:39 switch vshd: CC_LINK_STATE:
Consistency Check: PASSED
```

Cisco NX-OS は、次の整合性チェッカーをサポートします。

- **show consistency-checker l2 module *module-number*** : 学習した MAC アドレスがソフトウェアとハードウェア間で一貫していることを確認します。また、ハードウェアに存在するがソフトウェアには存在しない追加エントリと、ハードウェアに存在しないエントリも表示されます。
- **show consistency-checker l3-interface module *module-number* [brief | detail]** : モジュール内のすべてのインターフェイスのレイヤ 3 設定と、ハードウェアの L3VLAN、CML フラグ、IPv4 イネーブル、VPN ID の設定を確認します。このコマンドは、物理インターフェイスおよびポートチャネルの一部であるインターフェイスに対して機能します。サブインターフェイスは検証されません。
- **show consistency-checker link-state module *module-number* [brief | detail]** : モジュール内のすべてのインターフェイスのソフトウェア リンク状態をハードウェア リンク状態と照合します。
- **show consistency-checker membership port-channels [interface *port-channel channel-number*] [brief | detail]** すべてのモジュールのハードウェアのポート チャネル メンバーシップをチェックし、ソフトウェア状態で検証します。
- **show consistency-checker membership vlan *vlan-id* {native-vlan | private-vlan interface {ethernet *slot/port* | port-channel *number* | native-vlan}} [brief | detail]** : ソフトウェアの VLAN メンバー

シップがハードウェアにプログラムされているものと同じであることを判別します。また、STP BLK 状態のインターフェイスも無視します。

- **show consistency-checker racl {module module-number | port-channels interface port-channel channel-number | svi interface vlan vlan-id}** : ハードウェアとソフトウェア間の IPv4 RACL プログラミングの一貫性を検証し、<label, entry-location>ペアはハードウェアとソフトウェアの間で一貫しています。
 - このコマンドは、モジュールごとに呼び出されると、そのモジュールのすべての物理インターフェイスの IPv4 ACL の整合性を確認します。
 - 特定のポート チャンネルでこのコマンドを呼び出すと、すべてのメンバー ポートが検証されます。
 - すべてのポート チャンネルでこのコマンドを呼び出すと、このコマンドは ACL が適用されているポート チャンネルごとに確認します。



(注) 現在、このコマンドは、IPv4 および IPv6 ACL を検証せず、サブインターフェイスで検証せずに、修飾子とアクションが一致するかどうかを検証しません。

- **show consistency-checker stp-state vlan vlan-id** : ソフトウェアのスパニング ツリーの状態が、ハードウェアでプログラミングされた状態と同じかどうかを判別します。このコマンドは、動作中 (アップ) のインターフェイスでのみ実行されます。

設定ファイル

構成ファイルには、Cisco NX-OS デバイス上の機能を構成するために使用される Cisco NX-OS コマンドが保存されます。Cisco NX-OS には、実行構成とスタートアップ構成の 2 種類があります。デバイスは、起動時にスタートアップコンフィギュレーション (startup-config) を使用して、ソフトウェア機能を設定します。実行コンフィギュレーション (running-config) には、スタートアップコンフィギュレーションファイルに対して行った現在の変更が保存されます。設定を変更する前に、設定ファイルのバックアップを作成してください。コンフィギュレーションファイルはリモートサーバにバックアップできます。コンフィギュレーションファイルの詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Fundamentals Configuration Guide』を参照してください。また、設定ファイルのチェックポイントコピーを作成すれば、問題が発生した場合にロールバックすることもできます。ロールバック機能については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

Cisco NX-OS 機能は、スタートアップコンフィギュレーションファイルに内部ロックを作成することがあります。まれに、機能により作成されたロックが削除されずに残っていることがあります。system startup-config unlock コマンドを使用し、して、これらのロックを削除してください。

CLI デバッグ

Cisco NX-OS は、ネットワークをアクティブにトラブルシューティングするための広範なデバッグ機能セットをサポートしています。CLIを使用して、各機能のデバッグモードを有効にし、リアルタイムで更新された制御プロトコル交換のアクティビティログを表示できます。各ログエントリにはタイムスタンプがあり、時間順にリストされます。CLI ロールメカニズムを使用してデバッグ機能へのアクセスを制限し、ロール単位でアクセスを分割できます。**debug** コマンドはリアルタイム情報を表示するのに対し、**show** コマンドは、履歴情報とリアルタイム情報を一覧表示するために使用します。



注意 **debug** コマンドを使用し、できるのは、シスコのテクニカルサポート担当者の指示があった場合に限られます。一部の **debug** コマンドはネットワークパフォーマンスに影響を与える可能性があります。



(注) デバッグメッセージは、特別なログファイルに記録できます。ログファイルは、デバッグ出力をコンソールに送信するよりも安全で、処理が容易です。

?オプションを使用すると、任意の機能で使用可能なオプションを表示できます。実際のデバッグ出力に加えて、入力されたコマンドごとにログエントリが作成されます。デバッグ出力には、ローカルデバイスと他の隣接デバイス間で発生したアクティビティのタイムスタンプ付きアカウントが記録されます。

デバッグ機能を使用して、イベント、内部メッセージ、およびプロトコルエラーを追跡できます。ただし、実稼働環境でデバッグユーティリティを使用する場合は注意が必要です。一部のオプションは、コンソールに大量のメッセージを出力したり、ネットワークパフォーマンスに重大な影響を与える可能性がある CPU 集約イベントを作成したりすることで、デバイスへのアクセスを妨げる可能性があります。



(注) **debug** コマンドを入力する前に、2番目の Telnet または SSH セッションを開くことを推奨します。デバッグセッションが現在の出力ウィンドウの妨げとなる場合は、2番目のセッションを使用して **undebg all** を入力し、デバッグメッセージの出力を停止します。

デバッグ フィルタ

debug-filter を使用して、不要なデバッグ情報を除外できます。コマンドを使用する必要があります。この **debug-filter** コマンドを使用すると、関連する **debug** コマンドによって生成されるデバッグ情報を制限できます。

次に、EIGRP hello パケットのデバッグ情報をイーサネット インターフェイス 2/1 に制限する例を示します。

```
switch# debug-filter ip eigrp interface ethernet 2/1
switch# debug eigrp packets hello
```

PingおよびTraceroute



- (注) ping および traceroute 機能を使用して、接続およびパスの選択に関する問題をトラブルシューティングします。これらの機能を使用して、ネットワークパフォーマンスの問題を特定または解決しないでください。

この項で説明している **ping** および **traceroute** コマンドは、TCP/IP ネットワーキングの問題のトラブルシューティングにもっとも役立つツールの2つです。ping ユーティリティは、TCP/IP インターネットワークを経由する宛先に対して、一連のエコーパケットを生成します。エコーパケットは、宛先に到達すると、再ルーティングされて送信元に戻されます。

traceroute ユーティリティも同様の方法で動作しますが、ホップバイホップ ベースで宛先までの特定のパスを決定することもできます。

ping の使用

ping コマンドを使用し、コマンドを使用すると、IPv4 ルーティング ネットワーク経由で特定の宛先への接続および遅延を確認できます。

ping6 コマンドを使用し、コマンドを使用すると、IPv6 ルーティング ネットワーク経由で特定の宛先への接続および遅延を確認できます。

ping ユーティリティを使用すると、ポートまたはエンドデバイスにショートメッセージを送信できます。IPv4 または IPv6 アドレスを指定することにより、宛先に一連のフレームが送信できます。これらのフレームは、ターゲットデバイスに到達し、タイムスタンプが付加されて、送信元にループバックされます。



- (注) Ping ユーティリティを使用して、Nexus スイッチに構成された IP アドレスでネットワーク パフォーマンスをテストすることは推奨されません。スイッチの IP アドレス宛での ICMP (Ping) トラフィックは、CoPP (コントロールプレーン ポリシング) の対象となり、ドロップされる可能性があります。

```
switch# ping 172.28.230.1 vrf management
PING 172.28.230.1 (172.28.230.1): 56 data bytes
64 bytes from 172.28.230.1: icmp_seq=0 ttl=254 time=1.095 ms
```

```
64 bytes from 172.28.230.1: icmp_seq=1 ttl=254 time=1.083 ms
64 bytes from 172.28.230.1: icmp_seq=2 ttl=254 time=1.101 ms
64 bytes from 172.28.230.1: icmp_seq=3 ttl=254 time=1.093 ms
64 bytes from 172.28.230.1: icmp_seq=4 ttl=254 time=1.237 ms

--- 172.28.230.1 ping statistics ---
5 packets transmitted, 5 packets received, 0.00% packet loss
round-trip min/avg/max = 1.083/1.121/1.237 ms
```

トレースルートの使用

traceroute は、次の操作のために使用します。

- データ トラフィックが経由したルートを追跡します。
- スイッチ間（ホップ単位）の遅延を計算します。

traceroute ユーティリティでは、ホップごとに使用されるパスが識別され、双方向で各ホップにタイムスタンプが付けられます。traceroute を使用すると、発信元のデバイスと送信先に最も近いデバイスの間のパスに沿ってポート接続をテストできます。

traceroute {*dest-ipv4-addr* | *hostname*} [**vrf** *vrf-name*] コマンドは IPv4 ネットワーク用に、**traceroute6** {*dest-ipv6-addr* | *hostname*} [**vrf** *vrf-name*] コマンドは IPv6 ネットワーク用に使用します。送信先に到達できない場合は、パス検出によってパスが障害ポイントまで追跡されます。

```
switch# traceroute 172.28.254.254 vrf management
traceroute to 172.28.254.254 (172.28.254.254), 30 hops max, 40 byte packets
 1 172.28.230.1 (172.28.230.1) 0.941 ms 0.676 ms 0.585 ms
 2 172.24.114.213 (172.24.114.213) 0.733 ms 0.7 ms 0.69 ms
 3 172.20.147.46 (172.20.147.46) 0.671 ms 0.619 ms 0.615 ms
 4 172.28.254.254 (172.28.254.254) 0.613 ms 0.628 ms 0.61 ms
```

実行中の traceroute を終了するには、**Ctrl-C** を押します。

次のコマンドを使用して、traceroute の送信元インターフェイスを指定できます。

コマンド	目的
<p>traceroute {<i>dest-ipv4-addr</i> <i>hostname</i>} [source {<i>dest-ipv4-addr</i> <i>hostname</i> <i>interface</i>}] [vrf <i>vrf-name</i>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# traceroute 112.112.112.1 source vlan 10</pre>	<p>指定した IP アドレス、ホスト名、またはインターフェイスからの、traceroute パケットの送信元 IPv4 アドレスを指定します。</p>
<p>traceroute6 {<i>dest-ipv6-addr</i> <i>hostname</i>} [source {<i>dest-ipv6-addr</i> <i>hostname</i> <i>interface</i>}] [vrf <i>vrf-name</i>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# traceroute6 2010:11:22:0:1000::1 source ethernet 2/2</pre>	<p>指定した IP アドレス、ホスト名、またはインターフェイスからの、traceroute6 パケットの送信元 IPv6 アドレスを指定します。</p>

コマンド	目的
<p>[no] ip traceroute source-interface interface [vrf vrf-name]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# ip traceroute source-interface loopback 1</pre>	<p>設定されたインターフェイスから送信元 IP アドレスを持つ traceroute または traceroute6 パケットを生成します。</p>
<p>show ip traceroute source-interface [vrf vrf-name]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show ip traceroute source-interface vrf all</pre> <p>VRF Name Interface default loopback1</p>	<p>traceroute のために設定された送信元インターフェイスを表示します。</p>
<p>ip icmp-errors source-interface interface</p> <p>例 1 :</p> <pre>switch(config)# ip icmp-errors source-interface loopback 1</pre> <p>例 2 :</p> <pre>switch(config)# vrf context vrf-blue switch(config-vrf)# ip icmp-errors source-interface loopback 2</pre>	<p>設定されたインターフェイスから送信元 IPv4 または IPv6 アドレスを持つ ICMP エラー パケットを生成します。</p> <p>また、Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンス内のスタティック ルートでの BFD を設定することもできます。</p>

プロセスおよび CPU のモニタリング

show processes コマンドを使用し、すれば、実行中のプロセスおよび各プロセスのステータスを確認できます。コマンド出力には次が含まれます。

- PID = プロセス ID
- State = プロセスの状態
- PC = 現在のプログラム カウンタ (16 進形式)
- Start_cnt = プロセスがこれまでに開始 (または再開) された回数
- TTY = プロセスを制御している端末通常、「-」 (ハイフン) は、特定の TTY 上で実行されていないデーモンを表します。
- Process = プロセスの名前

プロセスの状態は次のとおりです。

- D = 中断なしで休止 (通常 I/O)

- R = 実行可能 (実行キュー上)
- S = 休止中
- T = トレースまたは停止
- Z = 機能していない (「ゾンビ」) プロセス
- NR = 実行されていない
- ER = 実行されているべきだが、現在は実行されていない



(注) 一般に、ER 状態は、プロセスの再起動回数が多すぎるために、システムが障害発生と判断してそのプロセスをディセーブルにしたことを示しています。

```
switch# show processes ?
cpu      Show processes CPU Info
log      Show information about process logs
memory   Show processes Memory Info

switch# show processes
PID      State  PC          Start_cnt  TTY  Type  Process
-----  -
1        S      b7f9e468   1          -    0     init
2        S      0          1          -    0     migration/0
3        S      0          1          -    0     ksoftirqd/0
4        S      0          1          -    0     desched/0
5        S      0          1          -    0     migration/1
6        S      0          1          -    0     ksoftirqd/1
7        S      0          1          -    0     desched/1
8        S      0          1          -    0     events/0
9        S      0          1          -    0     events/1
10       S      0          1          -    0     khelper
15       S      0          1          -    0     kthread
24       S      0          1          -    0     kacpid
103      S      0          1          -    0     kblockd/0
104      S      0          1          -    0     kblockd/1
117      S      0          1          -    0     khubd
184      S      0          1          -    0     pdflush
185      S      0          1          -    0     pdflush
187      S      0          1          -    0     aio/0
188      S      0          1          -    0     aio/1
189      S      0          1          -    0     SerrLogKthread

...
```

show processes cpu コマンドの使用

show processes cpu コマンドを使用し、コマンドを使用して、CPU 利用率を表示します。コマンド出力には次が含まれます。

- Runtime(ms) = プロセスが使用した CPU 時間 (ミリ秒単位)
- Invoked = プロセスがこれまでに開始された回数

- uSecs = プロセスの呼び出しごとの平均 CPU 時間 (ミリ秒単位)
- 1Sec = 最近の 1 秒間における CPU 使用率 (パーセント単位)

```
switch# show processes cpu
PID      Runtime(ms)   Invoked    uSecs   1Sec   Process
-----
1         2264          108252    20      0      init
2         950           211341    4       0      migration/0
3        1154          32833341  0       0      ksoftirqd/0
4         609           419568    1       0      desched/0
5         758           214253    3       0      migration/1
6        2462          155309355 0       0      ksoftirqd/1
7        2496          392083    6       0      desched/1
8         443           282990    1       0      events/0
9         578           260184    2       0      events/1
10        56            2681     21      0      khelper
15         0             30       25      0      kthread
24         0             2        5       0      kacpid
103        81            89      914     0      kblockd/0
104        56            265     213     0      kblockd/1
117         0             5        17      0      khubd
184         0             3        3       0      pdflush
185        1796          104798    17      0      pdflush
187         0             2        3       0      aio/0
188         0             2        3       0      aio/1
189         0             1        3       0      SerrLogKthread
...

```

show system resources コマンドの使用

show system resources コマンドを使用し、すれば、システム関連の CPU およびメモリの統計情報を表示できます。このコマンドの出力には、次の情報が表示されます。

- 実行中プロセスの平均数として定義された負荷。Load average には、過去 1 分間、5 分間、および 15 分間のシステム負荷が表示されます。
- Processes には、システム内のプロセス数、およびコマンド発行時に実際に実行されていたプロセス数が表示されます。
- CPU states には、直前の 1 秒間における CPU のユーザモードとカーネルモードでの使用率およびアイドル時間がパーセントで表示されます。
- Memory usage には、合計メモリ、使用中メモリ、空きメモリ、バッファに使用されているメモリ、およびキャッシュに使用されているメモリがキロバイト単位で表示されます。また、buffers および cache の値には、使用中メモリの統計情報も含まれます。

```
switch# show system resources
Load average:  1 minute: 0.00   5 minutes: 0.02   15 minutes: 0.05
Processes   :  355 total, 1 running
CPU states  :  0.0% user,   0.2% kernel,  99.8% idle
  CPU0 states :  0.0% user,   1.0% kernel,  99.0% idle
  CPU1 states :  0.0% user,   0.0% kernel, 100.0% idle
  CPU2 states :  0.0% user,   0.0% kernel, 100.0% idle
  CPU3 states :  0.0% user,   0.0% kernel, 100.0% idle
Memory usage: 16402560K total,  2664308K used, 13738252K free
Current memory status: OK

```

オンボード障害ロギングの使用

Cisco NX-OS では、障害データを永続的ストレージに記録する機能が提供されます。この記録は、分析用に取得したり、表示したりできます。このOBFL機能は、障害および環境情報をモジュールの不揮発性メモリに保管します。この情報は、障害モジュールの分析に役立ちます。

OBFL 機能によって保存されるデータは、次のとおりです。

- 初期電源オンの時間
- モジュールのシャーシ スロット番号
- モジュールの初期温度
- ファームウェア、BIOS、FPGA、および ASIC のバージョン
- モジュールのシリアル番号
- クラッシュのスタック トレース
- CPU hog 情報
- メモリ リーク情報
- ソフトウェア エラー メッセージ
- ハードウェア例外ログ
- 環境履歴
- OBFL 固有の履歴情報
- ASIC 割り込みおよびエラー統計の履歴
- ASIC レジスタ ダンプ

OBFL の設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS システム管理設定』を参照してください。

診断の使用

Cisco Generic Online Diagnostics (GOLD) では、複数のシスコプラットフォームにまたがる診断操作の共通フレームワークを定義しています。GOLDの実装により、ハードウェアコンポーネントの健全性を確認し、システム データおよびコントロールプレーンの動作の適切性を検証できます。テストにはシステムの起動時に有効になるものと、システムの実行中に有効になるものがあります。ブートモジュールは、オンラインになる前に一連のチェックを実行して、システムの起動時にハードウェアコンポーネントの障害を検出し、障害のあるモジュールが稼働中のネットワークに導入されないようにします。

システムの動作時または実行時にも不具合が診断されます。一連の診断チェックを設定して、オンラインシステムの状態を確認できます。中断を伴う診断テストと中断を伴わない診断テストを区別する必要があります。中断のないテストはバックグラウンドで実行され、システムデータまたはコントロールプレーンには影響しませんが、中断のあるテストはライブパケットフローに影響します。特別なメンテナンス期間中に中断テストをスケジュールする必要があります。この項で説明している **show diagnostic content module** コマンド出力には、中断を伴うテストや中断を伴わないテストなどのテスト属性が表示されます。

ランタイム診断チェックは、特定の時刻に実行するか、バックグラウンドで継続的に実行するように設定できます。

ヘルスマonitoring診断テストは中断を伴わず、システムの動作中にバックグラウンドで実行されます。オンライン診断ヘルスマonitoringの役割は、ライブネットワーク環境でハードウェア障害を予防的に検出し、障害を通知することです。

GOLDは、すべてのテストの診断結果と詳細な統計情報を収集します。これには、最後の実行時間、最初と最後のテスト合格時間、最初と最後のテスト失敗時間、合計実行回数、合計失敗回数、連続失敗回数、およびエラーコードが含まれます。これらのテスト結果は、管理者がシステムの状態を判断し、システム障害の原因を理解するのに役立ちます。**show diagnostic result** コマンドを使用し、コマンドを使用して、診断結果を表示します。

GOLDの設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

組み込まれている Event Manager の使用

Embedded Event Manager (EEM) は、主要なシステムイベントをモニタし、設定されたポリシーを介してそれらのイベントを処理できるポリシーベースのフレームワークです。ポリシーは、設定されたイベントの発生に基づいてデバイスが呼び出すアクションを定義する、ロード可能な事前にプログラムされたスクリプトです。このスクリプトは、カスタム syslog または SNMP トラップの生成、CLI コマンドの呼び出し、フェールオーバーの強制などを含むアクションを生成できます。

EEMの設定の詳細については、「Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS システム管理設定ガイド」を参照してください。

Ethalyzer の使用

Ethalyzer は、Wireshark (旧称 Ethereal) のターミナルバージョンであるオープンソースソフトウェア TShark の Cisco NX-OS プロトコルアナライザツール実装です。Ethalyzer を使用して、すべての Nexus プラットフォームのインバンドおよび管理インターフェイス上のコントロールプレーントラフィックをキャプチャおよび分析することで、ネットワークのトラブルシューティングを行うことができます。

Ethalyzer を設定するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ethalyzer local interface inband	インバンドインターフェイスを介してスーパーバイザによって送受信されたパケットをキャプチャし、キャプチャされたパケットの要約プロトコル情報を表示します。
ethalyzer local interface inband-in	インバンドインターフェイスを介してスーパーバイザが受信したパケットをキャプチャし、キャプチャされたパケットの要約プロトコル情報を表示します。
ethalyzer local interface inband-out	スーパーバイザからインバンドインターフェイスを介して送信されたパケットをキャプチャし、キャプチャされたパケットのプロトコル情報のサマリーを表示します。
ethalyzer local interface mgmt	管理インターフェイスを介して送受信されたパケットをキャプチャし、キャプチャされたパケットのプロトコル情報のサマリーが表示されます。
ethalyzer local interface front-panel	<p>レイヤ3（ルーテッド）前面パネルポートを介してスーパーバイザによって送受信されたパケットがキャプチャされ、キャプチャされたパケットのプロトコル情報のサマリー情報が表示されます。</p> <p>(注) このコマンドは、レイヤ2（スイッチポート）前面パネルポートを介してスーパーバイザが送受信するパケットのキャプチャをサポートしません。</p>
ethalyzer local interface port-channel	<p>スーパーバイザがレイヤ3（ルーテッド）ポートチャンネルインターフェイスを介して送受信したパケットをキャプチャし、キャプチャしたパケットのプロトコル情報のサマリーを表示します。</p> <p>(注) このコマンドは、スーパーバイザがレイヤ2（スイッチポート）ポートチャンネルインターフェイスを介して送受信するパケットのキャプチャをサポートしていません。</p>

コマンド	目的
<code>ethalyzer local interface vlan</code>	スーパーバイザがレイヤ 3 スイッチ仮想インターフェイス (SVI) を介して送受信したパケットをキャプチャし、プロトコル情報のサマリーを表示します。
<code>ethalyzer local interface netstack</code>	Netstack ソフトウェアコンポーネントを介してスーパーバイザによって送受信されたパケットをキャプチャし、プロトコル情報のサマリーを表示します。
<code>{ } ethalyzer local interface bandwidth limit capture-frames</code>	Ethalyzer セッション内でキャプチャするフレーム数を制限します。フレーム数には、0～500,000 の整数値を指定できます。0 を指定すると、Ethalyzer セッションが自動的に停止する前に最大 500,000 フレームがキャプチャされます。
<code>{ } ethalyzer local interface bandwidth limit capture-size</code>	キャプチャするフレームの長さを制限します。フレームの長さは、192～65,536 の整数値にすることができます。
<code>{ } ethalyzer local interface bandwidth limit capture-filter</code>	Berkeley Packet Filter (BPF) 構文を使用してキャプチャするパケットのタイプをフィルタリングします。
<code>{ } ethalyzer local interface bandwidth limit capture-filter-wireshark</code>	Wireshark または TShark 表示フィルタを使用して、表示するキャプチャされたパケットのタイプをフィルタリングします。
<code>{ } ethalyzer local interface bandwidth limit capture-file</code>	キャプチャしたデータをファイルに保存します。有効なストレージオプションには、スイッチのブートフラッシュ、ログフラッシュ、USB ストレージデバイス、または揮発性ストレージがあります。
<code>ethalyzer local read</code>	キャプチャされたデータ ファイルを開いて分析ファイルを開く。有効なストレージオプションには、スイッチのブートフラッシュ、ログフラッシュ、USB ストレージデバイス、または揮発性ストレージがあります。

コマンド	目的
<code>{ } } } ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red capture stop</code>	Ethalyzer セッションを自動的に停止する条件を指定します。セッションの継続時間（秒）、 write キーワードを使用してキャプチャ packets をファイルに書き込むときにキャプチャするファイル数、および write キーワードを使用してキャプチャ packets をファイルに書き込むときにファイルサイズを指定できます。
<code>{ } } } ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red capture ring-size 100</code>	Ethalyzer のキャプチャリングバッファオプションを指定します。このオプションは、 write キーワードと組み合わせて使用すると、リングバッファ内の 1 つ以上のファイルに継続的に書き込まれます。新しいファイルに書き込む前に Ethalyzer が待機する時間（秒単位）、リングバッファの一部として保持するファイルの数、およびリングバッファ内の個々のファイルのファイルサイズを指定できます。
<code>{ } } } ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red capture detail</code>	キャプチャしたパケットの詳細なプロトコル情報を表示します。
<code>{ } } } ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red capture raw</code>	キャプチャされたパケットを 16 進数形式で表示します。
<code>{ } } } ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red capture vrf red</code>	レイヤ 3 インターフェイスがデフォルト以外の VRF にある場合に、レイヤ 3 インターフェイスがメンバーである VRF を指定します。

ガイドラインと制約事項

- レイヤ 3 インターフェイスがデフォルト以外の VRF のメンバーであり、Ethalyzer セッションで指定されている場合（たとえば、**ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1** または **ethalyzer local interface port-channel1** コマンドを使用）、**vrf** キーワードを使用して、レイヤ 3 インターフェイスが Ethalyzer セッション内のメンバーである VRF を指定する必要があります。たとえば、スーパーバイザが VRF 「red」のレイヤ 3 前面パネルポート Ethernet1/1 を介して受信または送信したパケットをキャプチャするには、**ethalyzer local interface front-panel ethernet1/1 vrf red** コマンドを使用します。
- ファイルへの書き込み時に、Ethalyzer セッションが 500,000 パケットをキャプチャした場合、またはファイルのサイズが 11 MB に達した場合、Ethalyzer は自動的に停止します。

例

```
switch(config)# ethanalyzer local interface inband
<CR>
> Redirect it to a file
>> Redirect it to a file in append mode
autostop Capture autostop condition
capture-filter Filter on ethanalyzer capture capture-ring-buffer Capture ring buffer
option
decode-internal Include internal system header decoding detail Display detailed protocol
information
display-filter Display filter on frames captured
limit-captured-frames Maximum number of frames to be captured (default is 10)
limit-frame-size Capture only a subset of a frame
mirror Filter mirrored packets
raw Hex/Ascii dump the packet with possibly one line summary
write Filename to save capture to
| Pipe command output to filter

switch(config)# ethanalyzer local interface inband Capturing on 'ps-inb'
```

```
1 2021-07-26 09:36:36.395756813 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 64 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
2 2021-07-26 09:36:36.395874466 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 205 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
4 3 2021-07-26 09:36:36.395923840 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 806 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
4 2021-07-26 09:36:36.395984384 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 1307 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
5 2021-07-26 09:37:36.406020552 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 64 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
6 2021-07-26 09:37:36.406155603 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 205 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
7 2021-07-26 09:37:36.406220547 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 806 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
8 8 2021-07-26 09:37:36.406297734 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 1307
PRI: 7 DEI: 0 ID: 4033
9 2021-07-26 09:38:36.408983263 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 64 PRI:
7 DEI: 0 ID: 4033
10 10 2021-07-26 09:38:36.409101470 00:22:bd:cf:b9:01 → 00:22:bd:cf:b9:00 0x3737 205
PRI: 7 DEI: 0 ID: 4033
```

詳細なプロトコル情報を表示するには、「**detail** オプションを使用します必要に応じて、キャプチャの途中で **Ctrl+C** を使用して中止し、スイッチプロンプトに戻すことができます。

```
switch(config)# ethanalyzer local interface inband detail
Capturing on 'ps-inb'
Frame 1: 64 bytes on wire (512 bits), 64 bytes captured (512 bits) on interface ps-inb,
id 0
Interface id: 0 (ps-inb) Interface name: ps-inb
Encapsulation type: Ethernet (1)
Arrival Time: Jul 26, 2021 11:54:37.155791496 UTC
[Time shift for this packet: 0.000000000 seconds]
Epoch Time: 1627300477.155791496 seconds
[Time delta from previous captured frame: 0.000000000 seconds] [Time delta from previous
displayed frame: 0.000000000 seconds] [Time since reference or first frame: 0.000000000
seconds] Frame Number: 1
Frame Length: 64 bytes (512 bits)
Capture Length: 64 bytes (512 bits) [Frame is marked: False]
[Frame is ignored: False]
[Protocols in frame: eth:ethertype:vlan:ethertype:data] Ethernet II, Src:
00:22:bd:cf:b9:01, Dst: 00:22:bd:cf:b9:00
```

```

Destination: 00:22:bd:cf:b9:00 Address: 00:22:bd:cf:b9:00
.... ..0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default)
.... ...0 .... = IG bit: Individual address (unicast) Source:
00:22:bd:cf:b9:01
Address: 00:22:bd:cf:b9:01
.... ..0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default)
.... ...0 .... = IG bit: Individual address (unicast) Type: 802.1Q Virtual
LAN (0x8100)
802.1Q Virtual LAN, PRI: 7, DEI: 0, ID: 4033
111. .... = Priority: Network Control (7) 4 ...0 .... = DEI: Ineligible
.... 1111 1100 0001 = ID: 4033
Type: Unknown (0x3737) Data (46 bytes)

```

```

0000 a9 04 00 00 7d a2 fe 60 47 4f 4c 44 00 0b 0b 0b ....}`GOLD....
0010 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b .....

```

```

0020 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b 0b .....
Data: a90400007da2fe60474f4c44000b0b0b0b0b0b0b0b... [Length: 46]

```

キャプチャ中に表示するか、あるいはディスクに保存するパケットを選択するには、「**capture-filter**」オプションを使用します。キャプチャフィルタは、フィルタ処理中に高率のキャプチャを維持します。パケットの完全な分析は行われていないので、フィルタフィールドはあらかじめ決められており、限定されています。

キャプチャファイルのビューを変更するには、**display-filter** オプションを使用します。ディスプレイフィルタでは、完全に分割されたパケットを使用するため、ネットワークトレースファイルを分析する際に非常に複雑かつ高度なフィルタリングを実行できます。Ethalyzerは、キャプチャしたデータを他のファイルに書き込むように指示されていない場合、キャプチャしたデータを一時ファイルに書き込みます。この一時ファイルは、**capture-filter** オプションに一致するすべてのパケットが一時ファイルに書き込まれますが、**display-filter** オプションに一致するパケットのみが表示されるため、ユーザの知らない間に表示フィルタが使用されるとすぐにいっぱいになります。

この例では、**limit-captured-frames** が5に設定されています。**capture-filter** オプションを使用すると、Ethalyzerでは、フィルタ **host 10.10.10.2** に一致する5つのパケットを表示します。「**display-filter**」オプションを使用すると、Ethalyzerでは、まず5つのパケットをキャプチャし、フィルタ「**ip.addr==10.10.10.2**」に一致するパケットのみを表示します。

```

switch(config)# ethalyzer local interface inband capture-filter "host 10.10.10.2"
limit-captured-frames 5
Capturing on inband
2013-02-10 12:51:52.150404 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.150480 10.10.10.2 -> 10.10.10.1 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.496447 10.10.10.2 -> 10.10.10.1 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.497201 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:53.149831 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
5 packets captured
switch(config)# ethalyzer local interface inband display-filter "ip.addr==10.10.10.2"

```

```

    limit-captured-frame 5
Capturing on inband
2013-02-10 12:53:54.217462 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:53:54.217819 10.10.10.2 -> 10.10.10.1 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2 packets captured

```

write オプションを使用して、後で分析するために Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ上のストレージデバイスの1つ (**bootflash**、**logflash** など) にあるファイルにキャプチャデータを書き込むことができます。キャプチャファイルのサイズは、10 MB に制限されます。

「**write**」オプションを使用した Ethalyzer のコマンド例は、**ethalyzer local interface inband writebootflash:capture_file_name** です。次は **capture-filter** を使用した **write** オプションの例と **first-capture** の出力ファイル名を示します。

```

switch(config)# ethalyzer local interface inband capture-filter "host 10.10.10.2"
limit-captured-frame 5 write ?
bootflash: Filename logflash: Filename slot0:      Filename
usb1:      Filename
usb2:      Filename volatile: Filename
switch(config)# ethalyzer local interface inband capture-filter "host 10.10.10.2"
limit-captured-frame 5 write bootflash:first-capture

```

キャプチャデータがファイルに保存されるとき、デフォルトでは、キャプチャされたパケットはターミナルウィンドウに表示されません。「**display**」オプションを使用すると、Cisco NX-OS では、キャプチャデータをファイルに保存しながら、パケットを表示します。

capture-ring-buffer オプションを使用すると、指定した秒数、指定したファイル数、または指定したファイルのサイズの後に複数のファイルが作成されます次に、これらのオプションの定義を示します。

```

switch(config)# ethalyzer local interface inband capture-ring-buffer ?
duration Stop writing to the file or switch to the next file after value seconds have
elapsed
files Stop writing to capture files after value number of files were written or begin
again with the first file after value number of files were
written (form a ring buffer)
filesize Stop writing to a capture file or switch to the next file after it reaches a
size of value kilobytes

```

read オプションを使用すると、デバイス自体に保存されたファイルを読み取ることができます。

```

switch(config)# ethalyzer local read bootflash:first-capture
2013-02-10 12:51:52.150404 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.150480 10.10.10.2 -> 10.10.10.1 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.496447 10.10.10.2 -> 10.10.10.1 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:52.497201 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:
3200
2013-02-10 12:51:53.149831 10.10.10.1 -> 10.10.10.2 UDP Source port: 3200 Destination
port:

```

3200

```
switch(config)# ethanalyzer local read bootflash:first-capture detail Frame 1 (110 bytes
on wire, 78 bytes captured)
-----SNIP-----
[Frame is marked: False]
[Protocols in frame: eth:ip:udp:data]
Ethernet II Src: 00:24:98:6f:ba:c4 (00:24:98:6f:ba:c4), Dst: 00:26:51:ce:0f:44
(00:26:51:ce:0f:44)
Destination: 00:26:51:ce:0f:44 (00:26:51:ce:0f:44) Address: 00:26:51:ce:0f:44
(00:26:51:ce:0f:44)
.... .0 .... = IG bit: Individual address (unicast)
.... .0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default) Source:
00:24:98:ce:6f:ba:c4 (00:24:98:6f:ba:c4)
Address: 00:24:98:6f:ba:c4 (00:24:98:6f:ba:c4)
.... .0 .... = IG bit: Individual address (unicast)
.... .0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default) Type:
IP (0x0800)
Internet Protocol, Src: 10.10.10.1 (10.10.10.1), Dst: 10.10.10.2 (10.10.10.2)
Version: 4
Header length: 20 bytes
Differentiated Services Field: 0xc0 (DSC) 0x30: Class Selector 6; ECN: 0x00)
-----SNIP-----
```

サーバまたは PC にファイルを転送し、ファイル。cap ファイルまたは。pcap ファイルを読み取る
ことができる Wireshark や他のアプリケーションでそのファイル形式を読み取ることも
できます。

```
switch(config)# copy bootflash:first-capture tftp:
Enter vrf (If no input, current vrf 'default' is considered): management
Enter hostname for the tftp server: 192.168.21.22
Trying to connect to tftp server.....
Connection to Server Established. TFTP put operation was successful
Copy complete.
```

decode-internal オプションは、Nexus 9000 のパケット転送方法に関する内部情報を報告しま
す。この情報は、CPU を通過するパケットのフローを理解し、トラブルシューティングするの
に役立ちます。

```
switch(config)# ethanalyzer local interface inband decode-internal capture-filter "host
10.10.10.2" limit-captured-frame 5 detail
Capturing on inband NXOS Protocol
NXOS VLAN: 0====->VLAN in decimal=0=L3 interface
NXOS SOURCE INDEX: 1024====->PIXN LTL source index in decimal=400=SUP
inband
NXOS DEST INDEX: 2569====-> PIXN LTL destination index in
decimal=0xa09=e1/25 Frame 1: (70 bytes on wire, 70 bytes captured)
Arrival Time: Feb 10, 2013 22:40:02.216492000
[Time shift for this packet: 0.000000000 seconds]
Epoch Time: 1627300477.155791496 seconds
[Time delta from previous captured frame: 0.000000000 seconds] [Time delta from previous
displayed frame: 0.000000000 seconds] [Time since reference or first frame: 0.000000000
seconds] Frame Number: 1
Frame Length: 70 bytes Capture Length: 70 bytes [Frame is marked: False]
[Protocols in frame: eth:ip:udp:data]
Ethernet II, Src: 00:26:51:ce:0f:43 (00:26:51:ce:0f:43), Dst: 00:24:98:6f:ba:c3
(00:24:98:6f:ba:c3)
Destination: 00:24:98:6f:ba:c3 (00:24:98:6f:ba:c3) Address: 00:24:98:6f:ba:c3
(00:24:98:6f:ba:c3)
.... .0 .... = IG bit: Individual address (unicast)
.... .0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default) Source:
00:26:51:ce:0f:43 (00:26:51:ce:0f:43)
-----SNIP-----
```


NX-OS インデックスを 16 進数に変換してから、Local Target Logic (LTL) インデックスを物理または論理インターフェイスにマップするために **show system internal pixm info ltl {index}** コマンドを使用します。

1 つの IP ホストとの間でやり取りされるトラフィックのキャプチャ

```
host 1.1.1.1
```

IP アドレスの範囲との間でやり取りされるトラフィックのキャプチャ

```
net 172.16.7.0/24
```

```
net 172.16.7.0 mask 255.255.255.0
```

IP アドレスの範囲からのトラフィックのキャプチャ

```
src net 172.16.7.0/24
```

```
srcnet 172.16.7.0 mask 255.255.255.0
```

IP アドレスの範囲へのトラフィックのキャプチャ

```
dst net 172.16.7.0/24
```

```
dst net 172.16.7.0 mask 255.255.255.0
```

UDLD、VTP、CDP のトラフィックのキャプチャ

UDLD は 単方向リンク検出、VTP は VLAN Trunking Protocol、CDP は Cisco Discovery Protocol です。

```
ether host 0100000c0c0c0c0c
```

MAC アドレスとの間でやり取りされるトラフィックのキャプチャ

```
ether host 000102030405
```



(注) and = &&

or = ||

Not = !

MAC address format : xx:xx:xx:xx:xx:xx

一般的なコントロールプレーン プロトコル

- UDLD: Destination Media Access Controller (DMAC) = 01-00-0C-CC-CC-CC and EthType = 0x0111
- LACP: DMAC = 01:80:C2:00:00:02 and EthType = 0x8809. LACP stands for Link Aggregation Control Protocol

- STP: DMAC = 01:80:C2:00:00:00 and EthType = 0x4242 - or - DMAC = 01:00:0C:CC:CC:CD and EthType = 0x010B
- CDP: DMAC = 01-00-0C-CC-CC-CC and EthType = 0x2000
- LLDP: DMAC = 01:80:C2:00:00:0E or 01:80:C2:00:00:03 or 01:80:C2:00:00:00 and EthType = 0x88CC
- DOT1X: DMAC = 01:80:C2:00:00:03 and EthType = 0x888E. DOT1X stands for IEEE 802.1x
- IPv6: EthType = 0x86DD
- UDP と TCP のポート番号のリスト

Ethalyzer は、Cisco NX-OS がハードウェアで転送するデータトラフィックはキャプチャしません。

Ethalyzer は、**tcpdump** と同じキャプチャフィルタ構文を使用します。および Wireshark 表示フィルタ構文を使用します。

次の例では、キャプチャされたデータ（4 パケットに限定された）を管理インターフェイス上に表示します。

```
switch(config)# ethalyzer local interface mgmt limit-captured-frames 4
Capturing on eth1

2013-05-18 13:21:21.841182 172.28.230.2 -> 224.0.0.2 BGP Hello (state Standy)
2013-05-18 13:21:21.842190 10.86.249.17 -> 172.28.231.193 TCP 4261 > telnet [AC] Seq=0
Ack=0 Win=64475 Len=0
2013-05-18 13:21:21.843039 172.28.231.193 -> 10.86.249.17 TELNET Telnet Data ..
2013-05-18 13:21:21.850463 00:13:5f:1c:ee:80 -> ab:00:00:02:00:00 0x6002 DEC DN

Remote Console
4 packets captured
```

次の例では、1 つの HSRP パケットについてキャプチャしたデータの詳細を表示します。

```
switch(config)# ethalyzer local interface mgmt capture-filter "udp port 1985"
limit-captured-frames 1
Capturing on eth1
Frame 1 (62 bytes on wire, 62 bytes captured)
Arrival Time: May 18, 2013 13:29:19.961280000
[Time delta from previous captured frame: 1203341359.961280000 seconds]
[Time delta from previous displayed frame: 1203341359.961280000 seconds]
[Time since reference or first frame: 1203341359.961280000 seconds]
Frame Number: 1
Frame Length: 62 bytes
Capture Length: 62 bytes
[Frame is marked: False]
[Protocols in frame: eth:ip:udp:hsrp]

Ethernet II, Src: 00:00:0c:07:ac:01 (00:00:0c:07:ac:01), Dst: 01:00:5e:00:00:02
(01:00:5e:00:00:02)
Destination: 01:00:5e:00:00:02 (01:00:5e:00:00:02)
Address: 01:00:5e:00:00:02 (01:00:5e:00:00:02)
.... .1.... = IG bit: Group address (multicast/broadcast)
.... .0.... = LG bit: Globally unique address (factory default)
Source: 00:00:0c:07:ac:01 (00:00:0c:07:ac:01)
```

```

Address: 00:00:0c:07:ac:01 (00:00:0c:07:ac:01)

.... ..0 .... = IG bit: Individual address (unicast)
.... ..0. .... = LG bit: Globally unique address (factory default)

Type: IP (0x0800)
Internet Protocol, Src: 172.28.230.3 (172.28.230.3), Dst: 224.0.0.2 (224.0.0.2)
Version: 4
Header length: 20 bytes
Differentiated Services Field: 0xc0 (DSCP 0x30: Class Selector 6; ECN: 0x00)
1100 00.. = Differentiated Services Codepoint: Class Selector 6 (0x30)
.... ..0. = ECN-Capable Transport (ECT): 0
.... ..0 = ECN-CE: 0

Total Length: 48
Identification: 0x0000 (0)
Flags: 0x00
0... = Reserved bit: Not set
.0.. = Don't fragment: Not set
..0. = More fragments: Not set
Fragment offset: 0
Time to live: 1
Protocol: UDP (0x11)
Header checksum: 0x46db [correct]
[Good: True]
[Bad : False]

Source: 172.28.230.3 (172.28.230.3)
Destination: 224.0.0.2 (224.0.0.2)
User Datagram Protocol, Src Port: 1985 (1985), Dst Port: 1985 (1985)
Source port: 1985 (1985)
Destination port: 1985 (1985)
Length: 28
Checksum: 0x8ab9 [correct]
[Good Checksum: True]
[Bad Checksum: False]

Cisco Hot Standby Router Protocol
Version: 0
Op Code: Hello (0)
State: Active (16)
Hellotime: Default (3)
Holdtime: Default (10)
Priority: 105
Group: 1
Reserved: 0Authentication Data: Default (cisco)
Virtual IP Address: 172.28.230.1 (172.28.230.1)
    
```

1 packets captured

次の例では、表示フィルタを使用して、アクティブな HSRP 状態の HSRP パケットのみを表示します。

```

switch(config)# ethalyzer local interface mgmt display-filter "hsrp.state==Active"
limit-captured-frames 2
Capturing on eth1

2013-05-18 14:35:41.443118 172.28.230.3 -> 224.0.0.2 HSRP Hello (state Active)
2013-05-18 14:35:44.326892 172.28.230.3 -> 224.0.0.2 HSRP Hello (state Active)
2 packets captured
    
```

Cisco NX-OS リリース 10.1(2) Ethanalyzer Autocollection CLI は、すべての Cisco Nexus 9000 シリーズ プラットフォームでサポートされます。

参考資料

- [Wireshark : CaptureFilters](#)
- [Wireshark : DisplayFilters](#)
- 『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS Layer 2 スイッチング設定ガイド』
- 『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS VXLAN 設定ガイド』
- 『Cisco Nexus 9000 NX-OS インターフェイス設定ガイド』
- 『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS ユニキャストルーティング設定ガイド』

SNMP および RMON のサポート

Cisco NX-OS は、管理情報ベース (MIB) と通知 (トラップと情報) を含む広範な SNMPv1、v2、および v3 のサポートを提供します。

SNMP 標準では、Cisco NX-OS を管理しモニタリングする各 MIB をサポートするサードパーティ製アプリケーションを使用できます。

SNMPv3 はさらに広範なセキュリティ機能を提供します。各デバイスで SNMP サービスを有効または無効にするように選択できます。また、各デバイスで SNMP v1 および v2 要求の処理方法を設定できます。

Cisco NX-OS は、リモート モニタリング (RMON) アラームおよびイベントもサポートします。RMON アラームとイベントは、ネットワーク動作の変化に基づいて、しきい値の設定や通知の送信のメカニズムを提供します。

[アラーム グループ (*Alarm Group*)] では、アラームを設定できます。アラームは、デバイス内の 1 つまたは複数のパラメータに設定できます。たとえば、デバイスの CPU 使用率の特定のレベルに対して RMON アラームを設定できます。*EventGroup* を使用すると、アラーム条件に基づいて実行するアクションであるイベントを設定できます。サポートされるイベントのタイプには、ロギング、SNMP トラップ、およびログアンドトラップが含まれます。

SNMP および RMON の設定の詳細については、「*Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS システム管理設定ガイド*」を参照してください。

PCAP SNMP パーサーの使用

PCAP SNMP パーサーは、.pcap 形式でキャプチャされた SNMP パケットを分析するツールです。スイッチ上で動作し、スイッチに送信されるすべての SNMP get、getnext、getbulk、set、trap、および response 要求の統計情報レポートを生成します。

PCAP SNMP パーサーを使用するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] duration seconds [output-file] [keep-pcap]**—Tshark を使用して指定の秒数間のパケットをキャプチャし、一時 .pcap ファイルに保存します。次に、その .pcap ファイルに基づいてパケットを分析します。

結果は出力ファイルに保存されます。出力ファイルが指定されていない場合は、コンソールに出力されます。**keep-pcap** オプションを使用する場合を除き、一時 .pcap ファイルはデフォルトで削除されます。パケットキャプチャは、デフォルトの管理インターフェイス (mgmt0)、または帯域内インターフェイスで実行できます。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 100

switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log

switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log keep-pcap

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log
keep-pcap
```

- **debug packet-analysis snmp input-pcap-file [output-file]** : 既存の .pcap ファイルにあるキャプチャしたパケットを分析します。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap

switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap bootflash:snmp_stats.log
```

次に、**debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] duration** コマンドの統計情報レポートの例を示します。:

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 10
Capturing on eth0
36
wireshark-cisco-mtc-dissector: ethertype=0xde09, devicetype=0x0
wireshark-broadcom-rcpu-dissector: ethertype=0xde08, devicetype=0x0

Started analyzing. It may take several minutes, please wait!

Statistics Report
-----
SNMP Packet Capture Duration: 0 seconds
Total Hosts: 1
Total Requests: 18
Total Responses: 18
Total GET: 0
Total GETNEXT: 0
Total WALK: 1 (NEXT: 18)
Total GETBULK: 0
Total BULKWALK: 0 (BULK: 0)
Total SET: 0
Total TRAP: 0
```

```

Total INFORM: 0

Hosts          GET  GETNEXT  WALK (NEXT)  GETBULK  BULKWALK (BULK)  SET  TRAP  INFORM  RESPONSE
-----
10.22.27.244  0    0        1 (18)      0        0 (0)           0    0      0       18

Sessions
-----
1

MIB Objects GET  GETNEXT  WALK (NEXT)  GETBULK (Non_rep/Max_rep)  BULKWALK (BULK,
Non_rep/Max_rep)
-----
ifName      0    0        1 (18)      0                0

SET          Hosts
-----
0           10.22.27.244
    
```

RADIUS を利用

RADIUS プロトコルは、ヘッドエンドの RADIUS サーバとクライアント デバイス間で、属性またはクレデンシャルを交換するために使用されるプロトコルです。これらの属性は、次の 3 つのサービス クラス (CoS) に関連しています。

- 認証
- 許可
- アカウンティング

認証は、特定のデバイスにアクセスするユーザの認証を意味しています。RADIUS を使用して、Cisco NX-OS デバイスにアクセスするユーザアカウントを管理できます。デバイスへのログインを試みると、Cisco NX-OS によって、中央の RADIUS サーバの情報に基づいてユーザ検証が行われます。

許可は、認証されたユーザのアクセス許可範囲を意味しています。ユーザに割り当てたロールは、ユーザにアクセスを許可する実デバイスのリストとともに、RADIUS サーバに保管できます。ユーザが認証されると、デバイスは RADIUS サーバを参照して、ユーザのアクセス範囲を決定します。

アカウンティングは、デバイスの管理セッションごとに保管されるログ情報を意味しています。この情報を使用して、トラブルシューティングおよびユーザアカウントビリティのレポートを生成できます。アカウンティングは、ローカルまたはリモートで実装できます (RADIUS を使用して)。

次に、アカウンティング ログ エントリを表示する例を示します。

```

switch# show accounting log
Sun May 12 04:02:27 2007:start:/dev/pts/0_1039924947:admin
Sun May 12 04:02:28 2007:stop:/dev/pts/0_1039924947:admin:vsh exited normally
Sun May 12 04:02:33 2007:start:/dev/pts/0_1039924953:admin
    
```

```
Sun May 12 04:02:34 2007:stop:/dev/pts/0_1039924953:admin:vsh exited normally
Sun May 12 05:02:08 2007:start:snmp_1039928528_172.22.95.167:public
Sun May 12 05:02:08 2007:update:snmp_1039928528_172.22.95.167:public:Switchname
```



(注) アカウンティング ログは、各セッションの最初と最後（開始と終了）だけを表示します。

syslog の使用

システムメッセージロギングソフトウェアを使用して、メッセージをログファイルに保存するか、または他のデバイスに転送します。この機能では、次のことができます。

- モニタリングおよびトラブルシューティングのためのログ情報の記録
- キャプチャするログ情報のタイプの選択
- キャプチャするログ情報の宛先の選択

syslog を使用してシステムメッセージを時間順にローカルに保存したり、中央の syslog サーバにこの情報を送信したりできます。syslog メッセージをコンソールに送信してすぐに使用することもできます。これらのメッセージの詳細は、選択した設定によって異なります。

syslog メッセージは、重大度に応じて、**debug** から **critical** までの 7 つのカテゴリに分類されます。デバイス内の特定のサービスについて、レポートされる重大度を制限できます。たとえば、OSPF サービスのデバッグイベントのみを報告し、BGP サービスのすべての重大度レベルのイベントを記録することができます。

ログメッセージは、システム再起動後には消去されています。ただし、重大度が **Critical** 以下（レベル 0、1、2）の最大 100 個のログメッセージは **NVRAM** に保存されます。このログは、**show logging nvram** でいつでも表示できます。コマンドを使用します。

ログ レベル

Cisco NX-OS では、次のロギング レベルがサポートされています。

- 0-emergency (緊急)
- 1-alert (警報)
- 2-critical (重大)
- 3-error (エラー)
- 4-warning (警告)
- 5-notification (通知)
- 6-informational (情報)
- 7-debugging (デバッグ)

デフォルトでは、デバイスにより、正常だが重要なシステムメッセージがログファイルに記録され、それらのメッセージがシステムコンソールに送信されます。ユーザは、ファシリティタイプおよび重大度に基づいて、保存するシステムメッセージを指定できます。リアルタイムのデバッグおよび管理を強化するために、メッセージにはタイムスタンプが付加されます。

Telnet または SSH へのロギングのイネーブル化

システムロギングメッセージは、デフォルトまたは設定済みのロギングファシリティおよび重大度の値に基づいてコンソールに送信されます。

- コンソールのロギングをディセーブルにするには、**no logging console** コマンドをコンフィギュレーションモードで使用します。
- Telnet または SSH のロギングを有効にするには、**terminal monitor** コマンドを実行します。
- コンソールセッションへのロギングをディセーブルまたはイネーブルにすると、その状態は、それ以後のすべてのコンソールセッションに適用されます。ユーザがセッションを終了して新規のセッションに再びログインした場合、状態は維持されています。ただし、Telnet セッションまたは SSH セッションへのロギングをイネーブルまたはディセーブルにすると、その状態はそのセッションだけに適用されます。ユーザがセッションを終了したあとは、その状態は維持されません。

この項で説明している **no logging console** コマンドは、コンソールロギングをディセーブルにし、デフォルトでイネーブルになっています。

```
switch(config)# no logging console
```

この項で説明している **terminal monitor** コマンドは、Telnet または SSH のロギングを有効にし、デフォルトではディセーブルになっています。

```
switch# terminal monitor
```

syslog の設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

SPAN の使用

スイッチドポートアナライザ (SPAN) ユーティリティを使って、詳細なトラブルシューティングの実行または特定のアプリケーションホストからトラフィックのサンプルを取得し、プロアクティブなモニタリングと分析を行うことができます。

デバイス設定を修正しても解決できない問題がネットワークにある場合は、通常、プロトコルレベルを調べる必要があります。**debug** コマンドを使用すれば、エンドノードとデバイス間の制御トラフィックを調べることができます。ただし、特定のエンドノードを発信元または宛先とするすべてのトラフィックに焦点を当てる必要がある場合は、プロトコルアナライザを使用してプロトコルトレースをキャプチャします。

プロトコルアナライザを使用するには、分析対象のデバイスへのラインにアナライザを挿入する必要があります。このとき、デバイスとの入出力（I/O）は中断されます。

イーサネットネットワークでは、SPAN ユーティリティを使用してこの問題を解決できます。SPAN を使用すると、すべてのトラフィックのコピーを取得して、デバイス内の別のポートに転送できます。このプロセスはどの接続デバイスも中断せず、ハードウェア内で実施されるので不要な CPU 負荷を防ぎます。

SPAN を使用すると、デバイス内で独立した SPAN セッションが作成されます。フィルタを適用して、受信したトラフィックまたは送信したトラフィックのみをキャプチャできます。

SPAN の設定の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』を参照してください。

ブルー ビーコン機能の使用

一部のプラットフォームでは、プラットフォームの LED を点滅させることができます。この機能は、ローカル管理者がトラブルシューティングや交換のためにハードウェアを迅速に識別できるように、ハードウェアをマークするのに便利な方法です。

ハードウェア エンティティの LED を点滅させるには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>blink chassis</code>	シャーシ LED を点滅させます。
<code>blink fan number</code>	ファン LED の 1 つを点滅させます。
<code>blink module slot</code>	選択したモジュールの LED を点滅させます。
<code>blink powersupply number</code>	電源 LED の 1 つを点滅させます。

watch コマンドの使用

`watch` コマンドを使用すると、Cisco NX-OS CLI コマンド出力または UNIX コマンド出力を更新し、監視することを許可します（`run bash` コマンド コマンドを通して）。

次のコマンドを使用します。

`watch [differences] [interval seconds] commandwatch`

- **differences** : コマンド出力の違いを強調表示します。
- **interval seconds** : コマンド出力を更新する頻度を指定します。範囲は 0 ~ 2147483647 秒です。
- **command** : 監視するコマンドを指定します。

次に、`watch` コマンドを使用して `show interface eth1/15 counters` コマンドの出力を每秒更新し、相違点を強調表示する例を示します。

```

switch# watch differences interval 1 show interface eth1/15 counters

Every 1.0s: vsh -c "show interface eth1/15 counters"      Mon Aug 31 15:52:53 2015

-----
Port                InOctets            InUcastPkts
-----
Eth1/15              583736               0

-----
Port                InMcastPkts         InBcastPkts
-----
Eth1/15              2433                 0

-----
Port                OutOctets           OutUcastPkts
-----
Eth1/15              5247672              0

-----
Port                OutMcastPkts        OutBcastPkts
-----
Eth1/15              75307                0

```

トラブルシューティングのツールと方法論の追加参照

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
システム管理ツール	『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS System Management Configuration Guide』
MIB	『Cisco Nexus 7000 Series and 9000 Series NX-OS MIB Quick Reference』



索引

A

admin-password 32
attach console module 9

B

blink chassis 147
blink fan 147
blink module 147
blink powersupply 147
boot tftp: 19

C

clear cores 114
clear counters interface all 47
clear counters interface 47
cmdline recoverymode = 1 19, 31
copy 29, 32, 117
copy core 21
copy core: 22, 25
copy startup-configuration tftp: 118

D

debug 124, 146
debug packet-analysis snmp 143

E

enable changing the admin password 36–37
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} autostop 134
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} capture-filter 133
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} capture-ring-buffer 134
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} detail 134
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} display-filter 133
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} limit-captured-frames 133
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} limit-frame-size 133
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} raw 134
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} vrf 134
ethanalyzer local interface {inband | mgmt} write 133
ethanalyzer local interface front-panel 132
ethanalyzer local interface inband 132

ethanalyzer local interface inband-in 132
ethanalyzer local interface inband-out 132
ethanalyzer local interface mgmt 132
ethanalyzer local interface port-channel 132
ethanalyzer local interface vlan 133
ethanalyzer local read 133

F

feature nxapi 108

I

init system 18–19
install module 14
install all 12, 14–15
ip icmp-errors source-interface 127
ip traceroute source-interface 127

L

load-nxos 19, 33
logging level l2fm 79
logging server 7

N

no feature nxapi 108
no logging console 146
no shutdown 46, 51–52

P

ping 125
ping6 125

R

reload 27, 34–35
run bash 147
run-script 118

S

- set gw 18–19
- set ip 18–19
- set ip next-hop 91
- set ipv6 next-hop 91
- show 121, 124
- show {ip | ipv6} 4
- show consistency-checker l2 module 122
- show consistency-checker l3-interface module 122
- show consistency-checker link-state module 122
- show consistency-checker membership port-channels 122
- show consistency-checker membership vlan 122
- show consistency-checker racl 123
- show consistency-checker stp-state vlan 123
- show diagnostic content module 131
- show diagnostic result 131
- show feature | grep bash 108–109
- show forwarding distribution multicast client 88–89
- show hardware rate-limit 97
- show install all status 12, 117
- show interface 46–47, 53, 79
- show interface brief 49
- show interface capabilities 47, 49
- show interface counters 46
- show interface counters errors 79–80
- show interface status 47
- show interface transceiver 7
- show interfaces brief 4
- show ip arp 5, 88, 91
- show ip client pim 88–89
- show ip client 88
- show ip fib 88
- show ip interface 88–89
- show ip policy 91
- show ip process 88
- show ip route 88, 91
- show ip routing 5
- show ip traceroute source-interface 127
- show ip traffic 88
- show ipv6 neighbor 5, 91
- show ipv6 route 91
- show license 41
- show license host-id 40–41
- show license usage 40–41
- show log | include error 22
- show log nvram 117
- show logging nvram 9, 145
- show logging logfile 53, 116
- show logging log 4
- show mac address-table dynamic vlan 5
- show ospf 88
- show policy-map interface control-plane 97
- show port-channel compatibility-parameters 5
- show port-channel summary 56
- show process log pid 22–23
- show process log 22–23
- show processes memory 88–89, 94, 111–112
- show processes cpu 112, 128
- show processes log pid 22, 25
- show process memory 95
- show processes 4–5, 22–23, 94, 127
- show route-map 91
- show running-config 4
- show running-config eigrp all 88
- show running-config interface 49
- show running-config spanning-tree 5
- show running-config vpc 56
- show running-config eigrp 88
- show spanning-tree interface 79–80
- show spanning-tree summary totals 78
- show spanning-tree vlan 79, 81–82
- show spanning-tree 4, 57
- show system 122
- show system error-id 122
- show system reset-reason 27
- show system resources 94, 129
- show system uptime 22, 24
- show tech-support details 115–116
- show tech-support uddl 47
- show tech-support vpc 56
- show uddl 47
- show user-account 28, 36
- show version 4
- show vlan all-ports 5
- show vlan brief 49
- show vlan 4
- show vpc consistency-parameters interface 58
- show vpc consistency-parameters 56
- show vpc peer-keepalive 56
- show vpc 56–57
- show vrf interface 88–89
- show vrf 88
- show cores 22, 24, 113
- show ip static-route 88
- show logging 51
- show logging last 116
- show logging server 7, 9
- show module 4, 15, 46, 58
- show processes log 113
- shutdown 50–52, 79
- spanning-tree bpduguard enable 84
- spanning-tree loopguard default 84
- spanning-tree vlan 84
- state active 49
- system cores tftp: 22, 26
- system cores 114, 119
- system memory-thresholds minor 96
- system startup-config unlock 123

T

tac-pac [116](#)
 tcpdump [140](#)
 terminal length 0 [115](#)
 terminal monitor [146](#)
 traceroute [125–126](#)
 traceroute6 [126](#)

U

undebg all [124](#)
 username admin password [28, 33](#)

V

vlan [84](#)
 VXLAN [61–63, 65, 67, 69](#)
 トラブルシューティング [61](#)
 マルチキャストカプセル化解除パスでドロップされたパケット [63](#)
 マルチキャストカプセル化パスでドロップされたパケット [62](#)
 マルチキャストカプセル化解除パスでドロップされたARP要求 [63](#)
 マルチキャストカプセル化解除パスでドロップされたARP要求 [62](#)
 ユニキャストカプセル化解除パスでドロップされたパケット [69](#)
 ユニキャストカプセル化パスでドロップされたパケット [65, 67](#)

あ

アカウントティング ログの表示 [4](#)

さ

delete [14](#)

て

debug-filter [124](#)

と

ドロップされたパケット [62–63, 65, 67, 69](#)

ふ

ブート [27, 31](#)

へ

ヘルプ [18](#)

ま

マルチキャストカプセル化解除パス [63](#)
 マルチキャストカプセル化パス [62](#)

ゆ

ユニキャストカプセル化解除パス [69](#)
 ユニキャストカプセル化パス [65, 67](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。